

9.8 動物

9.8.1 調査結果の概要

(1) 調査内容

工事の実施、施設の存在に伴う動物への影響を予測及び評価するために、表9.8-1に示す項目について調査した。

表 9.8-1 動物の調査項目

調査項目	
動物	<ul style="list-style-type: none"> 動物相の状況（生息種及び動物相の特徴） 保全すべき種の状況（保全すべき種の生息域（特に営巣地、繁殖地、採餌場所等に留意）及び個体数又は生息密度、生息環境） 生息環境（水象、地形、植生等）

注) 動物相…哺乳類、鳥類、猛禽類、両生類、爬虫類、魚類、底生動物及び昆虫類

(2) 調査方法

1) 既存資料調査

既存資料調査では、表 9.8-2 に示す文献を収集、整理した。

表 9.8-2 既存資料調査の収集資料

No.	文献名等	整理対象分類群と整理内容						
		哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	底生動物	昆虫類
1	河川環境データベース(河川水辺の国勢調査)	●	●	●	●	●	●	●
	各項目とも、綾瀬川(主に草加市)における最新の分布情報を整理。							
2	埼玉県レッドデータブック2008動物編(平成20年、埼玉県) (略称:埼玉県RDB)	●	●	●	●	●		●
	各項目とも、対象事業実施区域が位置する「加須・中川低地」及び近接する「大宮台地」における分布情報を整理。							
3	埼玉県動植物リスト(埼玉県ホームページ)	●	●	●	●	●		●
	各項目とも、川口市、さいたま市、草加市及び越谷市における分布情報を整理。							
4	川口市動物調査報告書(平成7年、川口市)	●	●	●	●	●	●	●
	鳥類・昆虫類は川口市、哺乳類・爬虫類・両生類は戸塚地区、魚類・底生動物は綾瀬川(佐藤橋付近)における分布情報を整理。							
5	増補埼玉四季の鳥(昭和63年、(財)埼玉県野鳥の会)		●					
	埼玉県における分布情報を整理。							
6	地元環境団体資料(綾瀬川を愛する会、自然探検コロボックルくらぶ等)	●	●	●	●	●	●	●
	各項目とも、綾瀬の森(通称)等の対象事業実施区域近傍の分布情報を整理。							

2) 現地調査

ア 哺乳類

(ア) 直接観察及びフィールドサイン法

調査範囲内を任意に踏査して成体等の確認に努めたほか、足跡、糞、食痕等の痕跡（フィールドサイン）を目視で確認し、種・数を記録した。

(イ) トラップ法

主にネズミ類等の小型哺乳類を対象にシャーマントラップ（2 地点）を設置した。シャーマントラップは、1 地点あたり 20 個を、1 回あたり 1 晩設置した。

また、モグラ類の坑道が確認された際には、頻繁に利用していると考えられる坑道内にモグラ捕獲用のモールトラップを適宜設置した。

(ウ) 無人撮影法

主にホンドイタチ等の中型哺乳類を対象に無人撮影装置（2 地点）を設置した。無人撮影装置は、1 地点あたり 1 台を、1 回あたり 1 晩設置した。

イ 鳥類

(ア) 任意観察法

調査範囲内を任意に踏査して、双眼鏡を使用し、目視及び鳴き声によって確認された種を記録した。調査時間帯は鳥類の活動が活発な午前中を中心に実施した。

(イ) ラインセンサス法

調査範囲内に設定した調査ルート（2 ルート）において、時速 1~2km 程度の速さで歩きながら、双眼鏡を用いた目視及び鳴き声によって確認された種・個体数、確認環境、繁殖行動等を記録した。調査時間帯は鳥類の活動が活発な午前中を中心に実施した。

(ウ) ポイントセンサス法

調査範囲内に設定した調査地点（2 地点）において、双眼鏡や望遠鏡を使用し、確認された種・個体数、確認環境、繁殖行動等を記録した。調査時間帯は鳥類の活動が活発な午前中を中心に実施した。

ウ 猛禽類

(ア) 定点観察法

調査範囲内に設定した調査地点（2 地点）において、双眼鏡や望遠鏡を使用し、猛禽類の行動の観察を行い、飛翔状況（個体の識別や飛翔経路、その飛翔目的等）を記録した。

調査時間帯は 7～15 時の 8 時間とし、1 回あたり 2 日間連続で実施した。

エ 爬虫類・両生類

(ア) 直接観察法

調査範囲内を任意に踏査して、爬虫類・両生類の出現が予想される草地、林縁部等を中心に目視、石起こし及び捕獲によって確認された種・数を記録した。

オ 魚類

(ア) 捕獲調査

調査範囲内の綾瀬川に設定した調査地点（3 地点）において、投網、タモ網、セルビン等を用いて捕獲し、種・数を記録した。

カ 底生動物

(ア) 任意採集

調査範囲内の綾瀬川に設定した調査地点（3 地点）において、D フレームネット、サデ網等を用いて採集し、室内にてソーティング、実体顕微鏡を用いた種の同定を行った。

(イ) 定量採集

調査範囲内の綾瀬川に設定した調査地点（3 地点）において、サーバーネットを用いて採集し、室内にてソーティング、実体顕微鏡を用いた種の同定を行った。

キ 昆虫類

(ア) 直接観察及び任意採集

調査範囲内を任意に踏査して、目視や鳴き声による確認のほか、見つけ採りやスウィーピング法（タモを払う）及びビーティング法（枝を叩く）による任意採集を行った。

(イ) トラップ法

主に地表徘徊性のコウチュウ類、アリ類等を対象にベイトトラップ（2地点）を設置した。ベイトトラップは、1地点あたりプラスチック製のコップ等20個を、1回あたり1晩設置した。

また、夜間に灯火に集まる昆虫類を対象にライトトラップ（2地点）を設置した。ライトトラップは、1地点あたり1台を、1回あたり1晩設置（翌朝に回収）した。

(3) 調査地域・調査地点

1) 既存資料調査

調査地域は、対象事業実施区域及びその周辺とした。

2) 現地調査

調査地域は、対象事業実施区域及び周辺200mの範囲を基本とし、地元の環境活動が盛んな「綾瀬の森」を含めた範囲（以下「調査範囲」という。）とした。

調査範囲及び調査地点は図9.8-1、調査地点一覧は表9.8-3に示すとおりとした。

表 9.8-3 動物の調査地点

項目	調査地点		調査方法
哺乳類	M-1, 2	対象事業実施区域内の植栽環境 (M-1) 綾瀬川の堤防植生環境 (M-2)	トラップ法 (シャーマントラップ・ モールドトラップ) 無人撮影法
鳥類	BL-1, 2	対象事業実施区域内の植栽沿い (BL-1) 綾瀬川の堤防 (BL-2)	ラインセンサス法
	BP-1, 2	対象事業実施区域の北側 (BP-1) 対象事業実施区域の南側 (BP-2)	ポイントセンサス法
猛禽類	BP-1, 2	対象事業実施区域の北側 (BP-1) 対象事業実施区域の南側 (BP-2)	定点観察法
魚類・ 底生動物	F-1 BA-1	綾瀬川の上流部	捕獲調査 任意採集 定量採集
	F-2 BA-2	排水路（既存施設の排水）が綾瀬川に流入する箇所	
	F-3 BA-3	綾瀬川の下流部	
昆虫類	I-1, 2	対象事業実施区域内の植栽環境 (I-1) 綾瀬川の堤防植生環境 (I-2)	トラップ法 (ベイトトラップ、 ライトトラップ)

注) 現地調査地点の位置は図9.8-1に、任意観察ルートは図9.8-2に示すとおりである。



図 9.8-1 動物の調査範囲及び調査地点

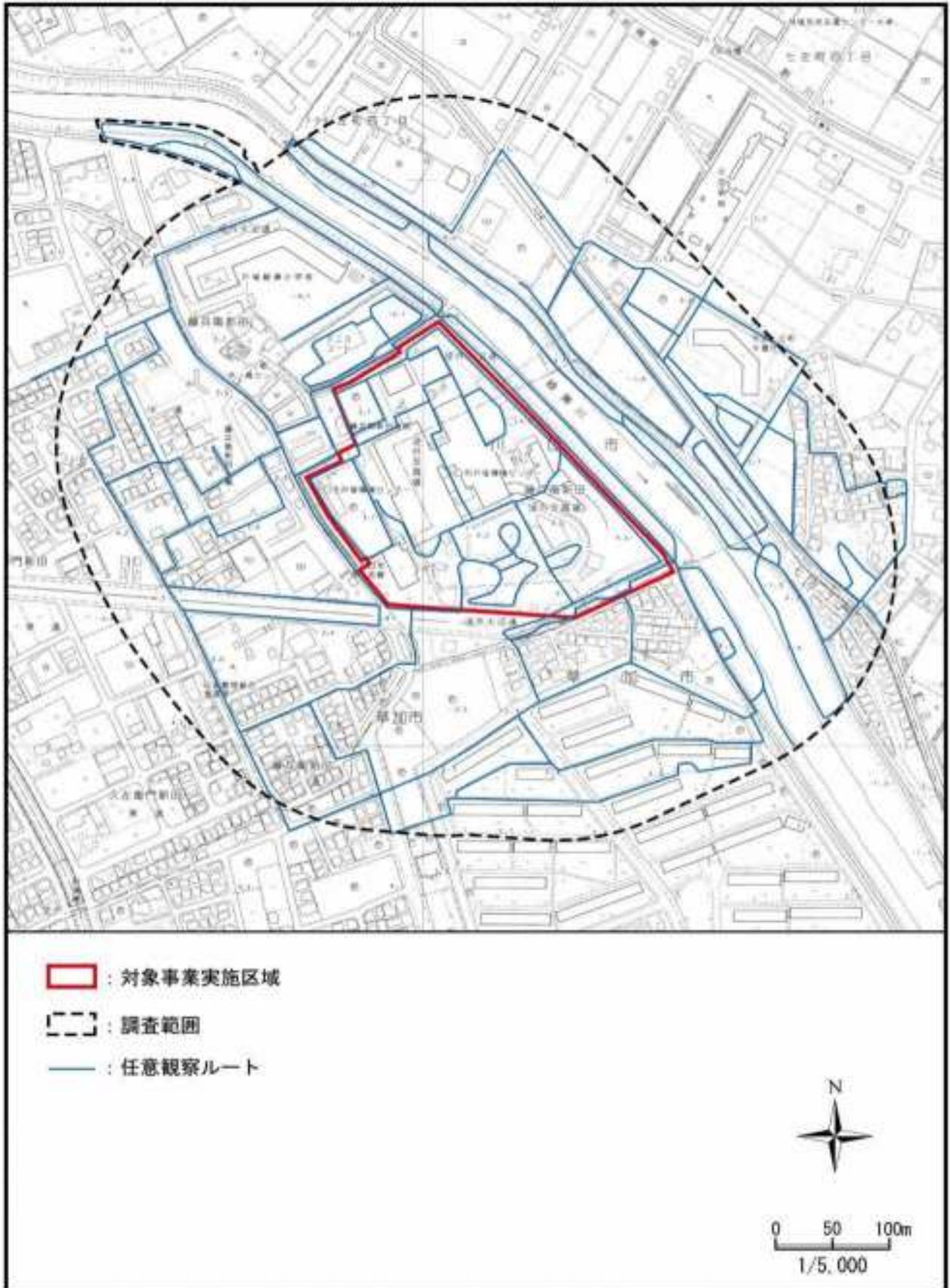


図 9.8-2 動物の任意観察ルート

(4) 調査期間等

1) 既存資料調査

既存資料は、入手可能な最新年の資料を入手した。

2) 現地調査

動物の調査期間等は、表 9.8-4 に示すとおりとした。

表 9.8-4 動物の調査期間等

項目	調査期間
哺乳類	夏 季（平成 30 年 7 月 12 日～13 日） 秋 季（平成 30 年 10 月 11 日～12 日） 冬 季（平成 31 年 1 月 28 日～29 日） 春 季（令和元年 5 月 21 日～22 日）
鳥類	繁殖期（平成 30 年 6 月 4 日） 夏 季（平成 30 年 7 月 9 日） 秋 季（平成 30 年 10 月 12 日） 冬 季（平成 31 年 1 月 29 日） 春 季（令和元年 5 月 9 日）
猛禽類	第 1 回（平成 31 年 2 月 25 日～26 日） 第 2 回（平成 31 年 3 月 25 日～26 日） 第 3 回（平成 31 年 4 月 18 日～19 日） 第 4 回（令和元年 5 月 21 日～22 日） 第 5 回（令和元年 6 月 13 日～14 日） 第 6 回（令和元年 7 月 16 日～17 日）
爬虫類・両生類	夏 季（平成 30 年 7 月 13 日） 秋 季（平成 30 年 10 月 11 日） 早春季（平成 31 年 4 月 9 日） 春 季（令和元年 5 月 10 日）
魚類	夏 季（平成 30 年 7 月 10 日～11 日） 秋 季（平成 30 年 10 月 9 日～10 日） 冬 季（平成 31 年 1 月 28 日～29 日） 春 季（令和元年 5 月 23 日～24 日）
底生動物	夏 季（平成 30 年 7 月 10 日～11 日） 秋 季（平成 30 年 10 月 9 日～10 日） 冬 季（平成 31 年 1 月 28 日～29 日） 春 季（令和元年 5 月 23 日～24 日）
昆虫類	初夏季（平成 30 年 6 月 18 日～19 日） 夏 季（平成 30 年 8 月 27 日～28 日） 秋 季（平成 30 年 10 月 9 日～10 日） 早春季（平成 31 年 4 月 8 日～9 日） 春 季（令和元年 5 月 9 日～10 日）

(5) 保全すべき種の選定

保全すべき種の選定基準は、表9.8-5に示すとおりとした。

表 9.8-5 保全すべき種の選定基準

No.	文献及び法令名	区分	略号
①	文化財保護法 (昭和 25 年、法律第 214 号)	特別天然記念物 天然記念物	特天 天
②	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成 4 年、法律第 75 号) (以下、「種の保存法」という。)	国内希少野生動植物種 国際希少野生動植物種 特定国内希少野生動植物種	国内 国際 特定
③	埼玉県文化財保護条例 (昭和 30 年、埼玉県条例第 46 号) (以下、「埼玉県文化財」という。)	県指定天然記念物	県天
④	埼玉県希少野生動植物の種の保存に関する条例 (平成 12 年、埼玉県条例第 11 号) (以下、「埼玉県保護条例」という。)	県内希少野生動植物種	希少
⑤	環境省レッドリスト 2019 (平成 31 年、環境省) (以下、「環境省 R L 2019」という。)	絶滅 野生絶滅 絶滅危惧 I 類 絶滅危惧 I A 類 絶滅危惧 I B 類 絶滅危惧 II 類 準絶滅危惧 情報不足 絶滅のおそれのある地域個体群	EX EW CR+EN CR EN VU NT DD LP
⑥	埼玉県レッドデータブック 動物編 2018 (第 4 版) (平成 30 年、埼玉県環境部みどり自然課) (以下、「埼玉県 R D B 2018」という。)	絶滅 野生絶滅 絶滅危惧 I 類 絶滅危惧 I A 類 絶滅危惧 I B 類 絶滅危惧 II 類 準絶滅危惧 準絶滅危惧 1 型 準絶滅危惧 2 型 情報不足 絶滅のおそれのある地域個体群 地帯別危惧	EX EW CR+EN CR EN VU NT NT1 NT2 DD LP RT

(6) 調査結果

1) 既存資料調査

「川口市動物調査報告書」（平成7年、川口市）によると、川口市において、哺乳類はアズマモグラ及びホンドイタチ、鳥類はカイツブリ、カルガモ、チョウゲンボウ等、昆虫類はサラサヤンマ、アオマツムシ、ヘイケボタル等が確認され、戸塚地区において、爬虫類はクサガメ、スッポン及びヤマカガシ、両生類はアマガエル、トウキョウダルマガエル及びウシガエルが確認され、綾瀬川佐藤橋付近において、魚類はタイリクバラタナゴ、モツゴ、ギンブナ等、底生動物はシマイシビル、ミズムシ、アメリカザリガニ等が確認されている。

また、保全すべき種として、鳥類134種、爬虫類12種、両生類6種、魚類16種、底生動物80種、昆虫類238種が確認されている。保全すべき種の一覧は、前掲「第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況 3.2 自然的状況 (5) 動物の生息、植物の生育、植生、緑の量及び生態系の状況 ア 動物」に示すとおりである。

2) 現地調査

ア 動物相の概況

現地調査の結果、哺乳類 3 目 5 科 5 種、鳥類 12 目 27 科 51 種、猛禽類 1 目 2 科 5 種、爬虫類・両生類 3 目 7 科 11 種、魚類 5 目 12 科 24 種、底生動物 18 目 29 科 71 種、昆虫類 12 目 160 科 550 種が確認された。ただし、鳥類は鳥類調査で確認された種数を、猛禽類は猛禽類調査で確認された種数を示す。

動物相の確認状況は表 9.8-6 に示すとおりである。

表 9.8-6 動物相の確認状況（現地調査）

項目	確認種数	主な確認種
哺乳類	3 目 5 科 5 種	アズマモグラ、ハツカネズミ、アライグマ、ホンドタヌキ、ハクビシン
鳥類	12 目 27 科 51 種	アオサギ、カルガモ、チョウゲンボウ、キジバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ホオジロ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス等
猛禽類	1 目 2 科 5 種	ツミ、ハイタカ、サシバ、ハヤブサ、チョウゲンボウ
爬虫類・ 両生類	3 目 7 科 11 種	クサガメ、アカミミガメ、ヤモリ、カナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、アズマヒキガエル、アマガエル、トウキョウダルマガエル、ヌマガエル、ウシガエル
魚類	5 目 12 科 24 種	ウナギ、オイカワ、スゴモロコ、ニゴイ、コイ、ギンブナ、タイリクバラタナゴ、ドジョウ、メダカ、カダヤシ、ボラ、カムルチー、コクチバス、ヌマチチブ、マハゼ等
底生動物	18 目 29 科 71 種	シジミ属、モトムラユリミミズ、ユリミミズ、イトミミズ亜科、テナガエビ、カワリヌマエビ属、クロフトヒゲコカゲロウ、アメンボ、ユスリカ属、カマガタユスリカ属、ハモンユスリカ属等
昆虫類	12 目 160 科 550 種	モリチャバネゴキブリ、ヤブキリ、アワダチソウゲンバイ、ナミテントウ、ハリブトシリアゲアリ、キイロシリアゲアリ、アミメアリ、トビイロシワアリ、クロヤマアリ、トビイロケアリ、ユスリカ科の一種、ホソヒメヒラタアブ、ヤマトシジミ本土亜種等

注) 鳥類は鳥類調査で確認された種数を、猛禽類は猛禽類調査で確認された種数を示す。

イ 哺乳類

(ア) 確認種

現地調査の結果、哺乳類は表 9.8-7 に示す 3 目 5 科 5 種が確認された。

調査範囲の環境は、主に市街地等であり、綾瀬川沿いに草地や水田環境が存在する。また、植栽地等の樹林環境がパッチ状に分布する。

草地や市街地等でホンドタヌキやハクビシンが確認された。また、河川敷において、シャーントラップでハツカネズミが、モールトラップでアズマモグラが確認された。そのほか、特定外来生物のアライグマが草地や水田環境で確認された。

表 9.8-7 確認種一覧（哺乳類）

No.	目名	科名	種名	調査範囲							
				対象事業実施区域内				対象事業実施区域外			
				夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季
1	モグラ(食虫)	モグラ	アズマモグラ				●	●	●	●	●
2	ネズミ(齧歯)	ネズミ	ハツカネズミ							●	
3	ネコ(食肉)	アライグマ	アライグマ					●	●		
4		イヌ	ホンドタヌキ	●	●	●		●	●	●	
5		ジャコウネコ	ハクビシン	●	●				●		●
計	3目	5科	5種	2種	2種	1種	1種	3種	4種	3種	2種
				3種				5種			

注) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 -本邦産野生動植物の種の現状- (脊椎動物編)」(平成 5 年、環境庁)に従った。

(イ) 保全すべき種

保全すべき種は確認されなかった。

ウ 鳥類

(ア) 確認種

現地調査の結果、鳥類は表 9.8-8 に示す 12 目 27 科 51 種が確認された。

調査範囲の環境は、主に市街地等であり、綾瀬川沿いに草地や水田環境が存在する。また、植栽地等の樹林環境がパッチ状に分布する。

市街地等ではドバト、スズメ、ハシボソガラス等、綾瀬川やその周辺の水田環境ではアオサギ、カルガモ、バン等、草地環境ではオオヨシキリ、ホオジロ、キジ等が確認された。また、チョウゲンボウ等の農耕地などに生息する猛禽類が確認された。また、パッチ状に分布する樹林環境では、コゲラ、シジュウカラ、オナガ等が確認された。

表 9.8-8 確認種一覧（鳥類）

No.	目名	科名	種名	調査範囲											
				対象事業実施区域内					対象事業実施区域外						
				繁殖期	夏季	秋季	冬季	春季	繁殖期	夏季	秋季	冬季	春季		
1	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ									●	●	●	
2	ペリカン	ウ	カワウ		●				●	●	●		●	●	
3	コウノトリ	サギ	ゴイサギ		●					●	●				
4			ダイサギ					●						●	
5			チュウサギ												●
6			コサギ											●	●
7			アオサギ									●	●	●	●
8	カモ	カモ	マガモ										●		
9			カルガモ							●	●	●	●	●	
10			コガモ									●	●	●	
11			ヒドリガモ								●		●		
12			ハシビロガモ									●			
13	タカ	タカ	トビ				●						●		
14			オオタカ									●			
15		ハヤブサ	チョウゲンボウ	●		●	●			●	●	●	●		
16	キジ	キジ	キジ										●	●	
17	ツル	クイナ	クイナ											●	
18			バン							●		●	●	●	
19			オオバン									●	●	●	●
20	チドリ	チドリ	コチドリ		●					●	●				
21			シギ	イソシギ										●	●
22			タシギ											●	
23		カモメ	ユリカモメ				●							●	●
24	コアジサシ													●	
25	ハト	ハト	キジバト	●		●			●	●	●	●	●	●	
26			ドバト	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
27	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ						●	●		●	●	●	
28	キツツキ	キツツキ	コゲラ	●	●					●	●	●	●		
29	スズメ	ツバメ	ツバメ	●	●				●	●	●			●	
30		セキレイ	ハクセキレイ	●		●	●			●	●	●	●	●	
31		ヒヨドリ	ヒヨドリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
32		モズ	モズ				●					●	●	●	
33		ヒタキ	ジョウビタキ											●	
34			イソヒヨドリ				●								
35			ツグミ											●	●
36			ウグイス											●	
37			オオヨシキリ											●	●
38		エナガ	エナガ									●		●	
39		シジュウカラ	シジュウカラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
40		メジロ	メジロ			●	●							●	
41		ホオジロ	ホオジロ							●	●	●	●	●	●
42			アオジ											●	
43			オオジュリン											●	
44	アトリ	カワラヒワ	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	
45		シメ											●		
46	ハタオリドリ	スズメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
47	ムクドリ	コムクドリ												●	
48		ムクドリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
49	カラス	オナガ			●	●			●	●	●	●	●	●	
50		ハシボソガラス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
51		ハシブトガラス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
計	12目	27科	51種	13種	13種	14種	13種	12種	22種	23種	25種	40種	33種		
				24種					50種						

注) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 -本邦産野生動植物の種の現状- (脊椎動物編)」(平成5年、環境庁)に従った。

(イ) 保全すべき種

現地調査の結果、保全すべき種は、チュウサギ、コサギ、トビ、オオタカ、チョウゲンボウ、クイナ、バン、オオバン、イソシギ、タシギ、コアジサシ、カワセミ、ウグイス、オオヨシキリ、ホオジロ、アオジ及びコムクドリの17種が確認された。保全すべき種一覧は表 9.8-9、調査季節別の保全すべき種の確認位置は図 9.8-3(1)～(5)、保全すべき種の生態及び確認状況は表 9.8-10(1)～(17)に示すとおりである。

表 9.8-9 保全すべき種一覧 (鳥類)

No.	目名	科名	種名	渡り区分	対象事業実施区域		保全すべき種の選定基準											
							文化財保護法	種の保存法	埼玉県文化財	埼玉県条例	埼玉県保護	環境省R.L	埼玉県RDB 2018					
													大宮		中川・加須		全県	
内	外	繁殖鳥	越冬鳥	繁殖鳥	越冬鳥	繁殖鳥	越冬鳥											
1	コムクドリ	サギ	チュウサギ	夏鳥		●					NT	NT2		NT2		VU		
2			コサギ	留鳥		●						NT2		NT2		NT2		
3	タカ	タカ	トビ	留鳥	●	●						DD				DD		
4			オオタカ	留鳥		●				NT	VU	NT2	VU	VU	VU	VU	VU	
5		ハヤブサ	チョウゲンボウ	留鳥	●	●						NT2		NT2		NT2		
6	ツル	クイナ	クイナ	留鳥		●						VU		VU		VU	VU	
7			バン	留鳥		●						NT2		NT2		NT2		
8			オオバン	冬鳥		●						NT1		NT1		NT1		
9	チドリ	シギ	イソシギ	留鳥		●						VU		VU		VU		
10			タシギ	冬鳥		●						NT2		NT2		RT		
11		カモメ	コアジサシ	夏鳥		●					VU	CR		CR		CR		
12	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥	●	●						LP		LP		RT		
13	スズメ	ヒタキ	ウグイス	留鳥		●										RT		
14			オオヨシキリ	夏鳥		●						NT2		NT2		NT2		
15		ホオジロ	ホオジロ	留鳥		●						NT2		NT2		RT		
16			アオジ	冬鳥		●										DD		
17			コムクドリ	夏鳥		●										DD		
計	6目	10科	17種		3種	17種	0種	0種	0種	0種	3種	12種	3種	11種	3種	15種	3種	
												14種		13種		17種		
												17種						

注 1) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 -本邦産野生動物の種の現状- (脊椎動物編)」(平成 5 年、環境庁)に従った。

- 2) 渡り区分は基本的に「BIRD WATCHING 増補 埼玉四季の鳥」(昭和 58 年、埼玉新聞社)に準拠した。
 留鳥：一年中同一地域に留まる種
 夏鳥：春に南方の越冬地から渡来して繁殖し、秋に再び南方へ飛去する種
 冬鳥：秋に北方の繁殖地から渡来して越冬し、春に再び北方へ飛去する種
 旅鳥：春秋の渡りの途中のみ見られる種

3) 保全すべき種の選定基準となる法令・文献及び評価区分は前掲表 9.8-5 のとおりである。

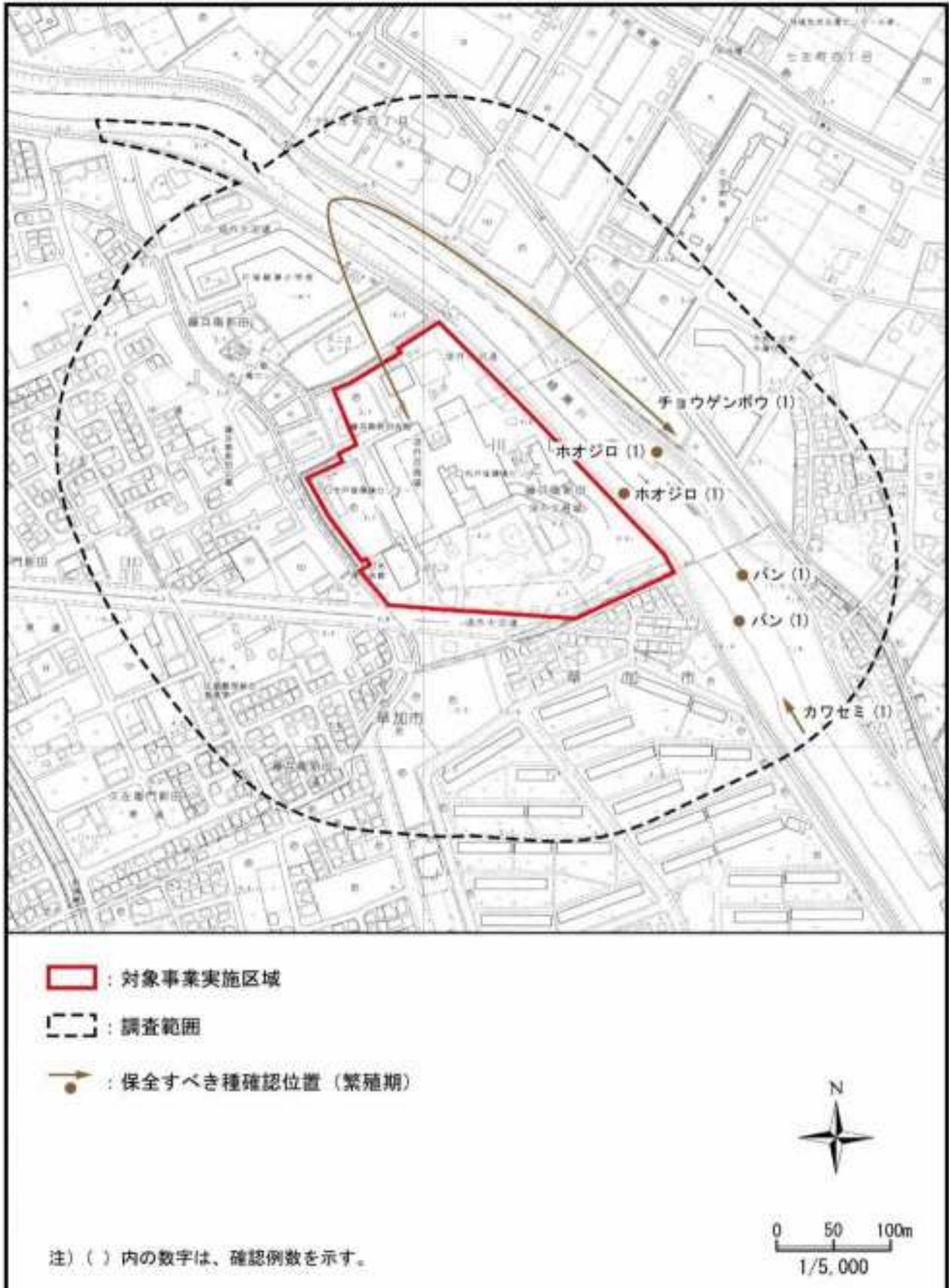


図 9.8-3(1) 保全すべき種の確認位置（鳥類：繁殖期）

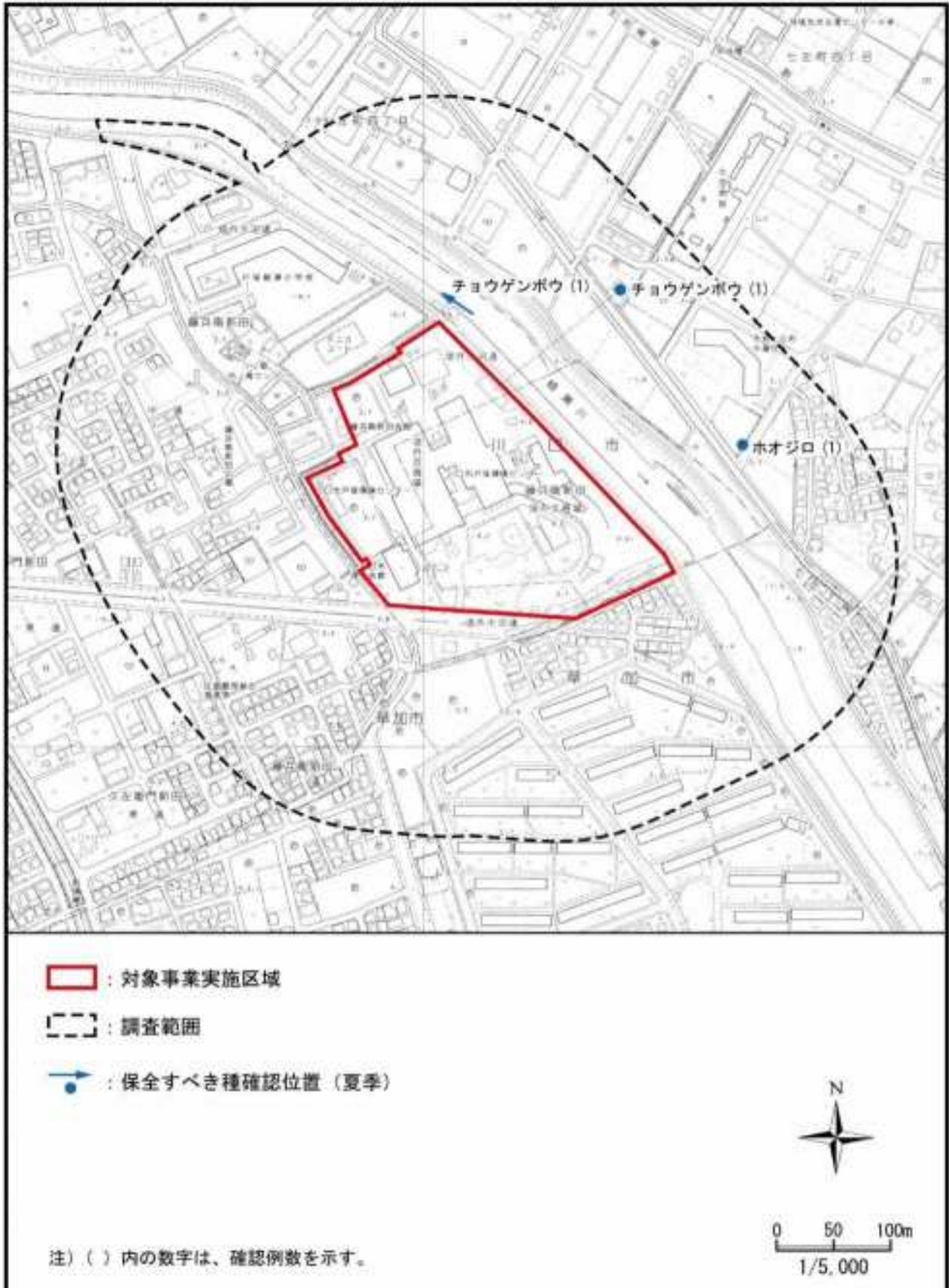


図 9.8-3(2) 保全すべき種の確認位置 (鳥類：夏季)

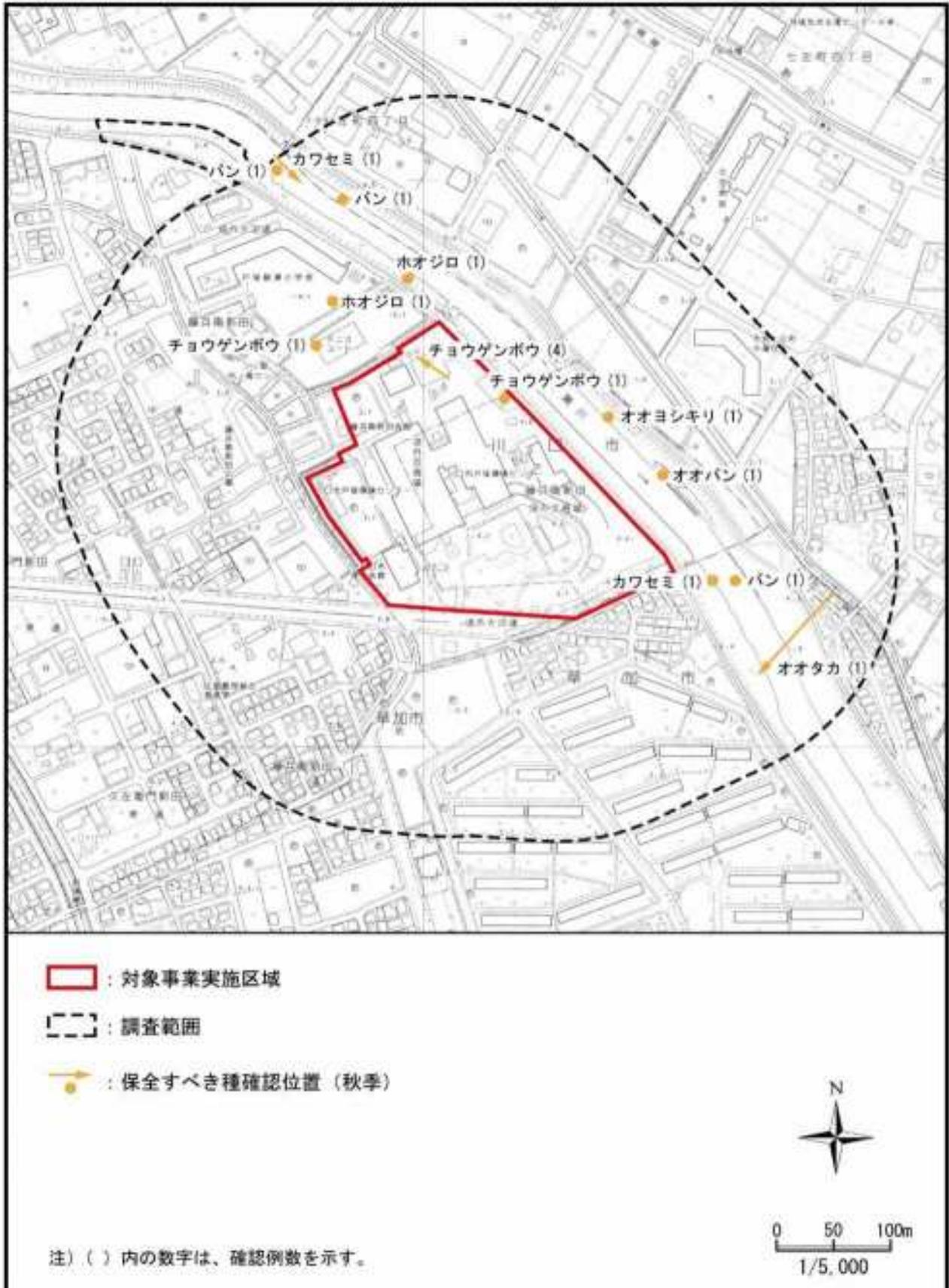


図 9.8-3(3) 保全すべき種の確認位置（鳥類：秋季）

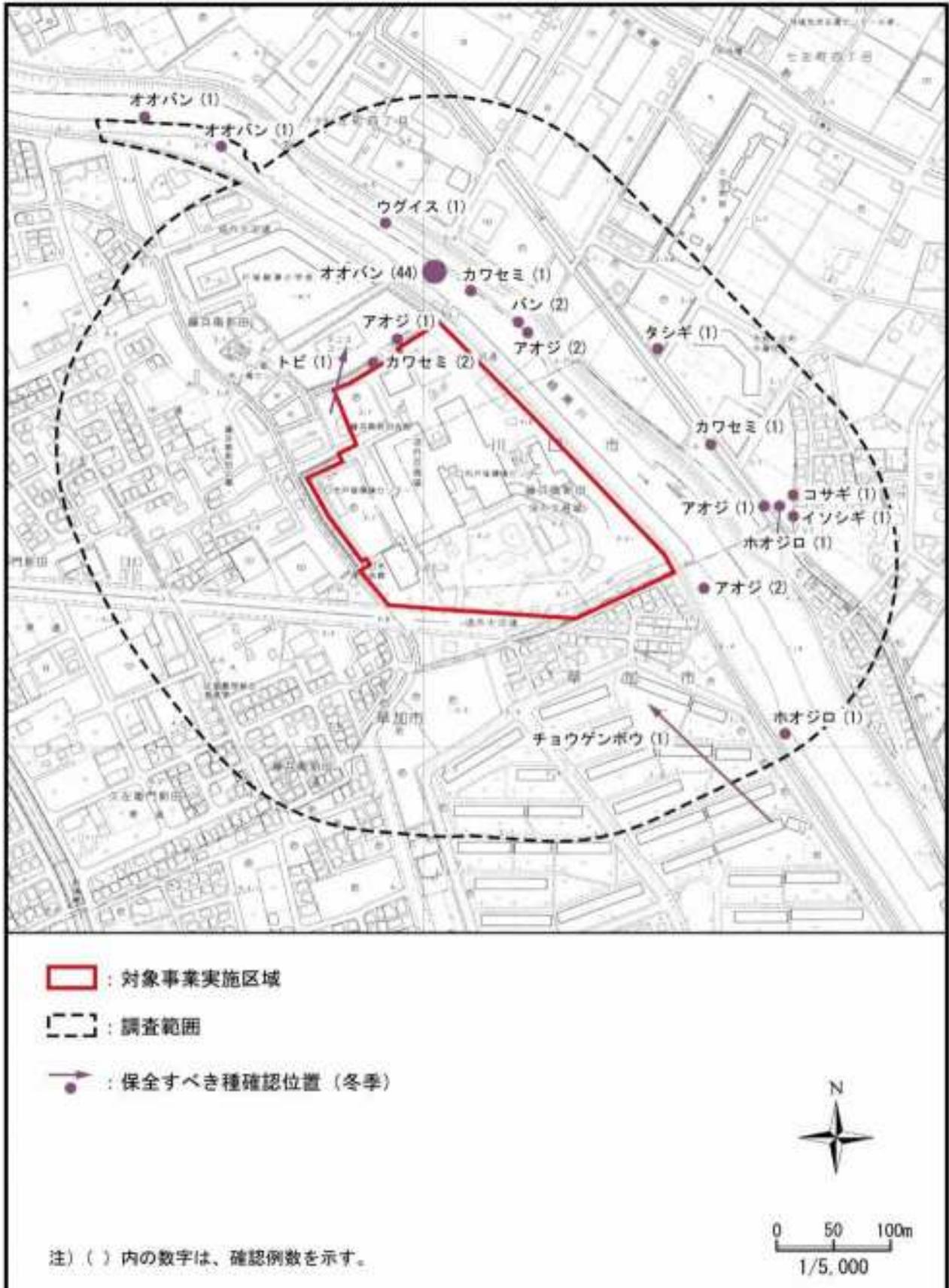


図 9.8-3(4) 保全すべき種の確認位置 (鳥類：冬季)

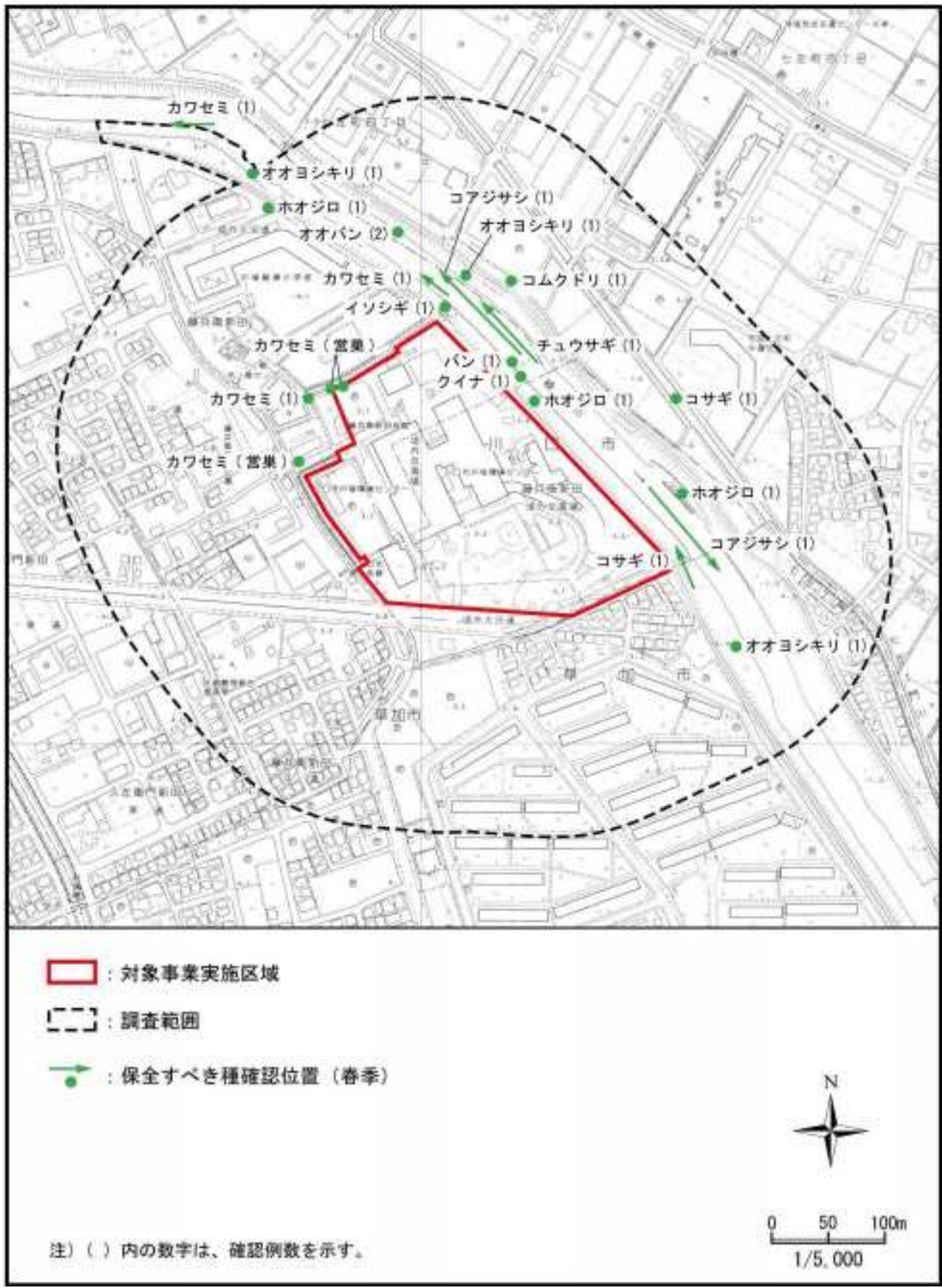


図 9.8-3(5) 保全すべき種の確認位置 (鳥類：春季)

表 9.8-10(1) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	サギ科						
種名	チュウサギ						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	準絶滅危惧					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>準絶滅危惧2型（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>準絶滅危惧2型（繁殖）</td> </tr> </table>		全県	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）	大宮台地	準絶滅危惧2型（繁殖）
全県	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）						
大宮台地	準絶滅危惧2型（繁殖）						
中川・加須低地	準絶滅危惧2型（繁殖）						
分布状況	夏鳥として日本に渡来し本州、中国、四国で繁殖する。九州本部、南西諸島では越冬するものもいる。		確認個体				
形態・生息場所	<p>【形態】全長 65～72cm、翼開長 105～115cm。全身が白色でコサギよりも大きい。嘴は短めで足指は黒い。夏羽では嘴が黒く背と胸に飾り羽がある。冬羽では嘴が黄色となる。</p> <p>【主な生息環境】水田、河川、沼地、干潟等の水辺に棲む。稲刈り時にコンバインの後につき、飛び出したカエルやバッタなどを捕えている姿がよく見られる。ダイサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギなどと一緒にコロニーを作り営巣している。</p>		 <p>確認環境</p>				
県内での生息状況	かつて、サギ類のコロニーとして国指定の天然記念物「野田（旧浦和市）の鷺山」があったが 1972 年になくなった。現在、コロニーは久喜市、東松山市、越谷市等数ヶ所が知られており、チュウサギはそれらコロニーの主要構成種として繁殖している。従前知られていた花園町のコロニーは営巣木が伐採されなくなった。また鴻巣市の小規模なコロニーも 2016 年には繁殖が見られなくなった。秋の渡り期（8 月～10 月）には、南方への渡り途中の群れが水田で採餌する姿をよく見る。						
現地確認状況	春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川上空を飛行する 1 例が確認された。						

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(2) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	サギ科							
種名	コサギ							
重要性	文化財	—						
	保存法	—						
	環境省	—						
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> </table>	全県	準絶滅危惧 2 型（繁殖）	大宮台地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）	中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）
全県	準絶滅危惧 2 型（繁殖）							
大宮台地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）							
中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）							
分布状況	留鳥で本州、四国、九州で繁殖し全国で記録がある。2015年に沖縄県で繁殖したという情報がある。		確認个体					
形態・生息場所	<p>【形態】 全長 55～65cm、翼開長 90～105cm。全身が白く、嘴が長めで趾が黄色いサギである。夏羽では白い冠羽があり飾り羽が見られる。嘴は一年中黒い。水の中で足を小刻みに震わせ、餌を追い出して捕らえる姿が見られる。</p> <p>【主な生息環境】 水田、河川、湖沼、干潟、湿地で見られ主に小魚を捕る。</p>							
県内での生息状況	<p>通年、県内各地の水田、河川、湖沼、湿地で見られるが、最近著しく減少している。オオクチバスやカワウなどが小魚を捕食することから、本種の餌資源の減少が原因のひとつとして指摘されている。</p>							
現地確認状況	<p>冬 季：対象事業実施区域外の水田横の水路で 1 例が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川付近を飛行する 1 例、綾瀬川東側の水路内で探餌する 1 例が確認された。</p>							

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(3) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	タカ科						
種名	トビ						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	—					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>情報不足（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>情報不足（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>—</td> </tr> </table>	全県	情報不足（繁殖）	大宮台地	情報不足（繁殖）	中川・加須低地
全県	情報不足（繁殖）						
大宮台地	情報不足（繁殖）						
中川・加須低地	—						
分布状況	留鳥として九州以北に普通に生息する。		確認個体				
形態・生息場所	<p>【形態】全長オス 58.5cm、メス 68.5cm、翼開長 157～162cm。大型の猛禽類でカラスに比べてかなり大きい。全身赤味のある黒褐色で、翼の下面風切り羽の元の部分に白い斑がある。尾は凹型をしている。</p> <p>【主な生息環境】平地から高山にかけて市街地、海岸、湖沼等幅広い場所で見られる。</p>		 <p>確認環境</p>				
県内での生息状況	低地帯から低山帯に留鳥として生息する。利根川や荒川等の河川敷や広い農耕地などで多く見られるが、特に渡良瀬遊水地には多い。入間市、鴻巣市では繁殖が確認されており、現在は各地で増加傾向にあるが不明な点も多い。移動時期や冬季には低地でもよく見られている。						
現地確認状況	冬季：対象事業実施区域内及び対象事業実施区域外の上空を飛行する 1 例が確認された。						

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(4) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	タカ科						
種名	オオタカ						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	準絶滅危惧					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（繁殖・越冬）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）、準絶滅危惧2型（越冬）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（繁殖・越冬）</td> </tr> </table>		全県	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖・越冬）	大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）、準絶滅危惧2型（越冬）
全県	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖・越冬）						
大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）、準絶滅危惧2型（越冬）						
中川・加須低地	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖・越冬）						
分布状況	留鳥として北海道、本州、四国、九州に分布し、南西諸島では冬鳥。		確認個体				
形態・生息場所	<p>【形態】 全長オス 50cm、メス 58.5cm、翼開長 105～130cm。オスは頭上から上面が暗青灰色。眉斑は白く明瞭で虹彩はオレンジ色。下面は白く黒褐色の細かい横縞がある。メスでは褐色味が強く虹彩は黄色い。幼鳥では全身が褐色で下面には縦斑がある。</p> <p>【主な生息環境】 平地から山地の林や農耕地などに生息する。現在は市街地のさほど大きくない林で営巣するものもいる。</p>		 <p>確認環境</p>				
県内での生息状況	留鳥として平地から山地の林や農耕地、河川敷などに生息する。かつて、低地帯では冬季でも生息数が少なかったが、現在は低地帯の社寺林や屋敷林などで営巣するものが増えている。個体数は増加傾向にあるようだが、生息地の環境は必ずしも良くなっていない。						
現地確認状況	秋 季：対象事業実施区域外上空で、ハンティングを行う幼鳥 1 例が確認された。						

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（平成30年、埼玉県）

表 9.8-10(5) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	ハヤブサ科			
種名	チョウゲンボウ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	—		
埼玉県	全県	準絶滅危惧 2 型（繁殖）		
	大宮台地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）		
	中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）		
分布状況	【国内分布】留鳥として全国に分布し、本州で繁殖する。			確認個体
形態・生息場所	<p>【形態】全長オス 33cm、メス 38.5cm、翼開長 68～76cm。ハトくらいの大きさで尾が長い。上面は茶褐色で黒い斑がある。下面は淡い茶色で縦斑がある。オスは頭部が青灰色。</p> <p>【主な生息環境】本来の営巣地は絶壁等のくぼみである。採食環境として原野や草地等の開けた場所を好む。</p>			
県内での生息状況	1980年代頃より、低地帯の高架橋や取水塔のような人工建造物に営巣するようになり、市街地でもよく見られるようになった。さいたま市内のビルではかなり以前から繁殖しているのが知られている。冬季は河川敷や農耕地、草地等の開けた場所でよく見られる。			
現地確認状況	<p>【鳥類調査】</p> <p>繁殖期：対象事業実施区域内から対象事業実施区域外にかけての上空を飛行する 1 例が確認された。</p> <p>夏 季：対象事業実施区域外で、送電線鉄塔にとまる個体と綾瀬川上空を飛行する個体の計 2 例が確認された。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域内の建物にとまる 1 例と、上空を飛行する 4 例が確認された。また、対象事業実施区域外のテニスコートのフェンスにとまる 1 例が確認された。</p> <p>冬 季：対象事業実施区域外の南東側上空を飛行する 1 例が確認された。</p> <p>【猛禽類調査】</p> <p>第 1 回：対象事業実施区域内で 17 例、対象事業実施区域外で 17 例、計 19 例が確認された。繁殖に係わる行動として、交尾が 2 例（1 ペア）、爪合わせディスプレイが 2 例（1 ペア）確認された。</p> <p>第 2 回：対象事業実施区域内で 1 例、対象事業実施区域外で 2 例、計 2 例が確認された。繁殖に係わる行動は確認されなかった。</p> <p>第 3 回：対象事業実施区域内で 1 例、対象事業実施区域外で 1 例、計 1 例が確認された。繁殖に係わる行動は確認されなかった。</p> <p>第 5 回：対象事業実施区域内で 2 例、対象事業実施区域外で 3 例、計 3 例が確認された。テニスコート上空でハンティングが 1 例確認された。</p> <p>第 6 回：対象事業実施区域外で 2 例が確認された。綾瀬川周辺の農地でハンティングが 1 例確認された。</p> <p>なお、第 4 回猛禽類調査では確認されなかった。</p>			

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(6) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	クイナ科							
種名	クイナ							
重要性	文化財	—						
	保存法	—						
	環境省	—						
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（越冬）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（越冬）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（越冬）</td> </tr> </table>	全県	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）	大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）	中川・加須低地	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）
全県	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）							
大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）							
中川・加須低地	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）							
分布状況	北海道から本州北部では夏鳥として繁殖し、本州中部以南に冬鳥として渡来する。		確認個体					
形態・生息場所	<p>【形態】全長 28～29cm、翼開長 38～45cm。上面が褐色で黒い縦斑がある。顔から胸は青灰色、腹には黒の縞模様がある。嘴は長く冬は黒いが繁殖期には赤くなる。</p> <p>【主な生息環境】湖沼や河畔などの水辺や湿地に生息する。</p>							
県内での生息状況	県内には、低地帯から台地・丘陵帯の湖沼や河川、休耕田、ヨシ原などの湿地に冬鳥として渡来する。現在は湿地の埋め立て等により生息適地が減ったことから減少傾向にある。旧忍川（行田市）のヨシ原では繁殖期にあたる時期（2015年5月～7月）の観察記録がある。		確認環境					
現地確認状況	春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の川岸で1例が確認された。							

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（平成30年、埼玉県）

表 9.8-10(7) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	クイナ科						
種名	バン						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	—					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> </table>	全県	準絶滅危惧 2 型（繁殖）	大宮台地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）	中川・加須低地
全県	準絶滅危惧 2 型（繁殖）						
大宮台地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）						
中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）						
分布状況	留鳥として、全国に分布するが、北海道のものは冬に南へ移動する。			確認個体			
形態・生息場所	<p>【形態】全長 30～38cm、翼開長 50～55cm。ハトより大きく全身黒色で夏は嘴から額が赤色になる。嘴の先端は黄色い。脇に白斑があり下尾筒は白色で後ろから見るとよく目立つ。</p> <p>【主な生息環境】河川、休耕田、池沼などのヨシ原に生息する。水かきはないが水面をよく泳ぎ時々足をだらんと下げて飛ぶ姿も見られる。</p>						
県内での生息状況	低地帯を中心に繁殖しているが減少傾向にある。荒川以西の低地及び台地・丘陵帯においても少数の繁殖記録がある。						
現地確認状況	<p>繁殖期：対象事業実施区域外の綾瀬川で計 2 例が確認された。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の 3 箇所、川を泳ぐ計 3 例が確認された。</p> <p>冬 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の川岸で休息する 2 例が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川で 1 例が確認された。</p>						

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(8) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	クイナ科			
種名	オオバン			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	—		
埼玉県	全県	準絶滅危惧 1 型（繁殖）		
	大宮台地	準絶滅危惧 1 型（繁殖）		
	中川・加須低地	準絶滅危惧 1 型（繁殖）		
分布状況	主に本州中部以北で繁殖し、冬は暖地に移動する。			確認個体
形態・生息場所	<p>【形態】全長 36～39cm、翼開長 70～80cm。全身黒色で嘴から額が白い。足には水かきがある。</p> <p>【主な生息環境】湿性植物がよく茂る河川や湖沼に生息するが、広い水面のある環境を好む。</p>			
県内での生息状況	かつては飛来数は多くなかったが、現在では越冬する個体数が増加傾向で、普通に見られるようになった。山間のダム湖や溜池にも生息する。彩湖（戸田市）や芝川第一調節池（さいたま市）、福川（行田市）、利根大堰上流部（行田市）などでは繁殖が確認されている。			
現地確認状況	<p>秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の川岸で休息する 1 例が確認された。</p> <p>冬 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森で採餌や休息する計 2 例と、戸塚綾瀬小学校東側の綾瀬川や川岸で採餌、休息する 44 例が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の川岸で採餌する 2 例が確認された。</p>			

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(9) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	シギ科		—					
種名	イソシギ							
重要性	文化財	—						
	保存法	—						
	環境省	—						
	埼玉県	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>全県</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）</td> </tr> </table>		全県	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）	大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）	中川・加須低地
全県	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）							
大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）							
中川・加須低地	絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）							
分布状況	北海道から九州で繁殖。中部地方以北では夏鳥、他の地方では留鳥。							
形態・生息場所	<p>【形態】全長 19～21cm、翼開長 38～41cm。頭部から上面は褐色で下面は白い。胸の脇から翼の付け根に白い部分が食い込んでいる。</p> <p>【主な生息環境】河川、湖沼、海岸、干潟、河口等に生息する。</p>							
県内での生息状況	河川や湖沼などに留鳥として生息する。利根川や荒川などで繁殖するが、現在は夏季の生息数が減少し、繁殖地は局所的となっている。春秋の渡り期には休耕田にも飛来する。		確認環境					
現地確認状況	<p>冬 季：対象事業実施区域外の水田横の水路で採餌する 1 例が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川と支流との合流部で 1 例が確認された。</p>							

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(10) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	シギ科		—					
種名	タシギ							
重要性	文化財	—						
	保存法	—						
	環境省	—						
	埼玉県	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>全県</td> <td>地帯別危惧（越冬）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（越冬）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（越冬）</td> </tr> </table>		全県	地帯別危惧（越冬）	大宮台地	準絶滅危惧 2 型（越冬）	中川・加須低地
全県	地帯別危惧（越冬）							
大宮台地	準絶滅危惧 2 型（越冬）							
中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型（越冬）							
分布状況	冬鳥あるいは旅鳥として全国に渡来する。							
形態・生息場所	<p>【形態】全長 25～27cm、翼開長 44～47cm。長い嘴を持ち全身茶色で上面に黄白色の線が左右 2 本ずつある。飛び立つときに「ジェーッ」と濁った声を出すことが多い。</p> <p>【主な生息環境】水田、河川、湖沼などの湿地。</p>							
県内での生息状況	県内には冬鳥として渡来し、水田、河川、湖沼などの湿地に生息する。かつては各地の湿地に普通に生息していたが、湿地の埋め立てや圃場整備に伴い冬季に水田の乾燥化が進んだことなどにより生息適地が減ったため数を減らしている。		確認環境					
現地確認状況	冬 季：対象事業実施区域外のクワイ畑で 1 例が確認された。							

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(11) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	カモメ科		確認個体
種名	コアジサシ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	絶滅危惧Ⅱ類	
	埼玉県	全県	
大宮台地		絶滅危惧ⅠA類（繁殖）	
中川・加須低地		絶滅危惧ⅠA類（繁殖）	
分布状況	北海道、本州、四国、九州、南西諸島に渡来して繁殖する。		
形態・生息場所	<p>【形態】全長 22～28cm、翼開長 47～55cm。翼と尾羽が長くスマートな体型であり、はためくような特徴的な飛び方をする。夏羽では額は白く頭部は黒色で嘴は黄色で先端が黒い。体上面は青灰色で下面は白く足はオレンジ色である。冬羽では前頭部まで白くなり嘴と足は黒くなる。</p> <p>【主な生息環境】海岸、干潟、湖沼、河川等で魚を採餌し、その周辺で休息する姿が見られる。公園の池や養殖場などで採餌することもある。海岸、中洲、造成地、大規模駐車場など見通しのよい広い砂地や砂利混じりの裸地でコロニー（集団繁殖地）を作り繁殖する。</p>		
県内での生息状況	<p>県内各地の湖沼、河川、水路等によく見られ、利根川流域では毎年中洲で繁殖しているが、2016年は1ヶ所だけとなった。1996年以降、大規模造成地や駐車場などでの営巣が確認されているが、安定的に繁殖している場所はほとんどない。また、営巣地に草木が伸びてくると繁殖しなくなる。2014年以降では春日部市、越谷市、さいたま市、羽生市などの造成地、駐車場等で繁殖が確認されている。</p>		
現地確認状況	<p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川上空を飛行する計2例が確認された。</p>		

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（平成30年、埼玉県）

表 9.8-10(12) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	カワセミ科			
種名	カワセミ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	—		
埼玉県	全県	地帯別危惧（繁殖）		
	大宮台地	絶滅のおそれのある地域個体群（繁殖）		
	中川・加須低地	絶滅のおそれのある地域個体群（繁殖）		
分布状況	全国に留鳥として分布している。			
形態・生息場所	<p>【形態】全長 17cm。上面がコバルトブルーで下面は橙色。メスの下嘴は赤い。</p> <p>【主な生息環境】河川、湖沼、小川、用水などの水辺で見られる。土の崖に嘴で巣穴を掘る。水辺に繁殖適地がないと、人が掘った穴の側面や残土等の土盛に巣を作ることがある。</p>			
				確認個体（営巣場所）
県内での生息状況	県内の低地帯から低山帯にかけての河川・池沼に周年生息しており、小魚や小さいザリガニ、エビなどを捕らえる。かつては水質悪化のため都市近郊でいなくなったが、水質改善と共に都市河川でも姿がよく見られるようになり繁殖もしている。			確認環境
現地確認状況	<p>繁殖期：対象事業実施区域外の綾瀬川で、飛行する 1 例が確認された。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬川で、飛行する 1 例と川岸の低木にとまり探餌する 1 例の計 2 例が確認された。</p> <p>冬 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の川岸にとまる 1 例と、綾瀬川東側の水路にとまる 1 例、戸塚環境センター北側の排水路沿いにとまる雌雄 2 例の計 4 例が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森付近を飛行する 1 例、綾瀬川で飛行する 1 例、戸塚環境センター北西側の排水路沿いにとまる 1 例が確認された。また、戸塚環境センター北側の排水路沿いの水抜き穴 3 箇所において、営巣が確認された。</p>			

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(13) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	ヒタキ科						
種名	ウグイス						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	—					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>地帯別危惧（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>—</td> </tr> </table>	全県	地帯別危惧（繁殖）	大宮台地	—	中川・加須低地
全県	地帯別危惧（繁殖）						
大宮台地	—						
中川・加須低地	—						
分布状況	全国的に繁殖する留鳥。秋冬には山地や北部のものは平地や暖地に移動する漂鳥でもある。		確認個体				
形態・生息場所	<p>【形態】全長 14～16cm。オスの方が大きい。体の上面は暗緑色、尾は赤褐色味が強い。灰白色の眉斑が特徴。</p> <p>【主な生息環境】下生えの多い林、ササやぶ、草地、ヨシ原、林縁の茂み等にすみ、市街地や公園や庭の植え込みや生垣にもいる。低木の枝の茂み、ススキの株の中、ササやぶの中などの低い場所に、ササやススキなどのイネ科植物の葉を使って巣をつくる。</p>		 <p>確認環境</p>				
県内での生息状況	かつて県内では主に台地・丘陵帯から山地帯・亜高山帯にかけて普通に繁殖し、低地帯においては比較的規模の大きい樹林地や荒川、利根川、江戸川等の河川敷に発達したヨシ原等で少数が繁殖するという生息状況であった。しかし、現在は台地・丘陵帯の林の手入れが行き届かなくなったことで下層植生が本種の生息に好適なものとなり、増加する傾向にある。また、低地の林等でも増加の傾向がみられる。その反面、低山帯から亜高山帯ではニホンジカの採食影響によって森林の下層植生であるスズタケ等の減少が著しく、営巣地が喪失したことにより減少傾向にある。						
現地確認状況	冬 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の岸辺で 1 例が確認された。						

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(14) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	ヒタキ科							
種名	オオヨシキリ							
重要性	文化財	—						
	保存法	—						
	環境省	—						
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> </table>		全県	準絶滅危惧 2 型（繁殖）	大宮台地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）	中川・加須低地
全県	準絶滅危惧 2 型（繁殖）							
大宮台地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）							
中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）							
分布状況	夏鳥として全国に渡来してヨシ原で繁殖する。		確認個体					
形態・生息場所	<p>【形態】 全長 18～19cm。上面はオリーブ褐色。下面はクリーム白色。口内は鮮やかなオレンジ色。</p> <p>【主な生息環境】 河川、湖沼、休耕田等のヨシ原。</p>		 <p>確認環境</p>					
県内での生息状況	県内では低地帯のヨシ原を中心に繁殖している。現在は繁殖地である河川敷のヨシが外来種のオオブタクサやアレチウリ等に圧迫され減少しているため、一部に生息数の著しい減少がみられる。							
現地確認状況	<p>秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷の草地で、幼鳥 1 例が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川のヨシ原等 3 箇所計 3 例が確認された。</p>							

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(15) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	ホオジロ科						
種名	ホオジロ						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	—					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>地帯別危惧（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>準絶滅危惧 2 型（繁殖）</td> </tr> </table>		全県	地帯別危惧（繁殖）	大宮台地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）
全県	地帯別危惧（繁殖）						
大宮台地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）						
中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）						
分布状況	九州以北で繁殖し、冬季には暖地へ移動する留鳥あるいは漂鳥。		確認个体				
形態・生息場所	<p>【形態】全長 16.5cm。オス成鳥は眉と顎が白く挟まれた頬が黒い。メス成鳥と若鳥は黒い部分が褐色となる。胸は全面茶褐色で、尾羽の外側が白い。</p> <p>【主な生息環境】林縁の藪、植木畑周辺、河川敷の灌木等で繁殖するが、低地帯で繁殖に適する環境が減少している。冬は河川敷等で草本類の種子を採食しているところがよく見られる。</p>						
県内での生息状況	県内では低地帯から山地帯まで留鳥として広く分布するが、現在は特に県南部の荒川沿いや見沼田圃等の低地での繁殖が少なくなっている。						
現地確認状況	<p>繁殖期：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷でさえずる計 2 例が確認された。</p> <p>夏季：対象事業実施区域外の低木で 1 例が確認された。</p> <p>秋季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷と、戸塚綾瀬小学校の南側の草地で、計 2 例が確認された。</p> <p>冬季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷の草地と、綾瀬川東側の水田で、計 2 例が確認された。</p> <p>春季：対象事業実施区域外の綾瀬川の堤防の草地など 3 箇所計 3 例が確認された。</p>						

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(16) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	ホオジロ科						
種名	アオジ						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	—					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>情報不足（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>—</td> </tr> </table>	全県	情報不足（繁殖）	大宮台地	—	中川・加須低地
全県	情報不足（繁殖）						
大宮台地	—						
中川・加須低地	—						
分布状況	北海道で夏鳥、本州中部以北で留鳥または漂鳥として繁殖し、冬季は南方や平地に移動する。		確認個体				
形態・生息場所	<p>【形態】全長 16cm。オスは頭部が暗緑灰色、上面は緑灰色で黒褐色の縦斑がある。腹面は緑黄色。メスでは頭部の黒味がなく全体に色が淡い。</p> <p>【主な生息環境】繁殖期は山地帯から亜高山帯の明るい林、草地などに生息し、冬季は平地から低山の林縁や藪、人家の庭などに生息する。</p>						
県内での生息状況	県内には冬鳥として渡来し、県内各地の林や藪、ヨシ原、公園、人家の庭などに普通に生息する。長野県境にある奥秩父の三国峠付近（標高 1,740m）や雁峠付近（標高 1,800m）では夏季の観察記録もあるが、現在は繁殖地での情報がほとんど得られていない。		確認環境				
現地確認状況	冬 季：対象事業実施区域外の戸塚環境センター北側の排水路沿い、綾瀬川の河川敷の草地 2 箇所、綾瀬川東側の水田で、計 6 例が確認された。						

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-10(17) 保全すべき種の生態及び確認状況（鳥類）

科名	ムクドリ科						
種名	コムクドリ						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	—					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>情報不足（繁殖）</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>—</td> </tr> </table>	全県	情報不足（繁殖）	大宮台地	—	中川・加須低地
全県	情報不足（繁殖）						
大宮台地	—						
中川・加須低地	—						
分布状況	夏鳥として北海道から本州中部に渡来する。		確認個体				
形態・生息場所	<p>【形態】全長 18～19cm。オスの頭部は白く頸は赤茶色、背と腰は黒い。下面は灰白色。メスは全身灰褐色。</p> <p>【主な生息環境】平地から山地の明るい林や果樹園等に生息する。</p>		 <p>確認環境</p>				
県内での生息状況	かつては、わずかではあるが県内でも繁殖しており、1980年代初め頃までは繁殖記録があった。古い記録として、1977年6月5日に皆野町で繁殖したものは皆野駅近くにある商店の屋根に営巣していた。2010年5月秩父市の寺にある桜の樹洞で営巣した。春秋の渡りの時期には県内各地を通過するが、通過個体数も減少傾向にある。						
現地確認状況	春季：対象事業実施区域外の綾瀬川の堤防付近の落葉広葉樹にとまる1例が確認された。						

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（平成30年、埼玉県）

エ 猛禽類

(ア) 保全すべき種の確認状況

現地調査の結果、保全すべき種の猛禽類は表 9.8-11 に示す 1 目 2 科 5 種が確認された。

調査時期別の保全すべき種の猛禽類の確認位置は図 9.8-4(1)～(5)、保全すべき種の生態及び確認状況は表 9.8-12(1)～(4)及び前掲表 9.8-10 (5) に示すとおりである。

ツミ、ハイタカ及びサシバについては、いずれも繁殖を示す行動はみられなかったこと、埼玉県内では春秋の渡りの時期に通過個体が県内各地で記録されることから、本調査においても通過個体であった可能性が高いと考えられる。ハヤブサについては、繁殖や採餌を示す行動はみられなかったことから、対象事業実施区域及びその周辺を生息環境の一部として利用している可能性がある。

チョウゲンボウについては、平成 31 年 2 月調査において、戸塚環境センター屋上で交尾や爪合わせディスプレイが確認された。しかし、3 月～7 月の調査において、巣材運び等の営巣を示唆する行動や巣立ち幼鳥は確認されず、対象事業実施区域内及びその近傍において営巣は確認されなかった。

また、対象事業実施区域北側のテニスコートや綾瀬川周辺の農地でハンティングが確認されたことから、調査範囲の草地等を採餌環境の一部として利用していると考えられた。

表 9.8-11 保全すべき種の確認種一覧（猛禽類）

No.	目名	科名	種名	調査範囲		調査時期							保全すべき種の選定基準											
				対象事業実施区域内	対象事業実施区域外	平成31年			令和元年				文化財保護法	種の保存法	埼玉県文化財	埼玉県保護条例	環境省 R L 2019	埼玉県RDB 2018						
						2月	3月	4月	5月	6月	7月	台大地宮						低加地須	中川	全県				
																				繁殖鳥	越冬鳥	繁殖鳥	越冬鳥	繁殖鳥
1	タカ	タカ	ツミ	●				●												NT2		NT2		NT2
2			ハイタカ	●	●		●									NT		VU		VU	DD	NT2		
3			サシバ	●	●		●									VU	EX		EX		CR			
4		ハヤブサ	ハヤブサ	●	●	●							国内		VU		VU		VU		VU			
5			チョウゲンボウ	●	●	●	●	●		●	●					NT2		NT2		NT2				
計	1目	2科	5種	5種	4種	2種	3種	2種	0種	1種	1種	0種	1種	0種	3種	3種	2種	3種	2種	4種	2種			

注 1) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 - 本邦産野生動物の種の現状 - (脊椎動物編)」(1993、環境庁)に従った。

2) 保全すべき種の選定基準となる法令・文献及び評価区分は前掲表 9.8-5 のとおりである。

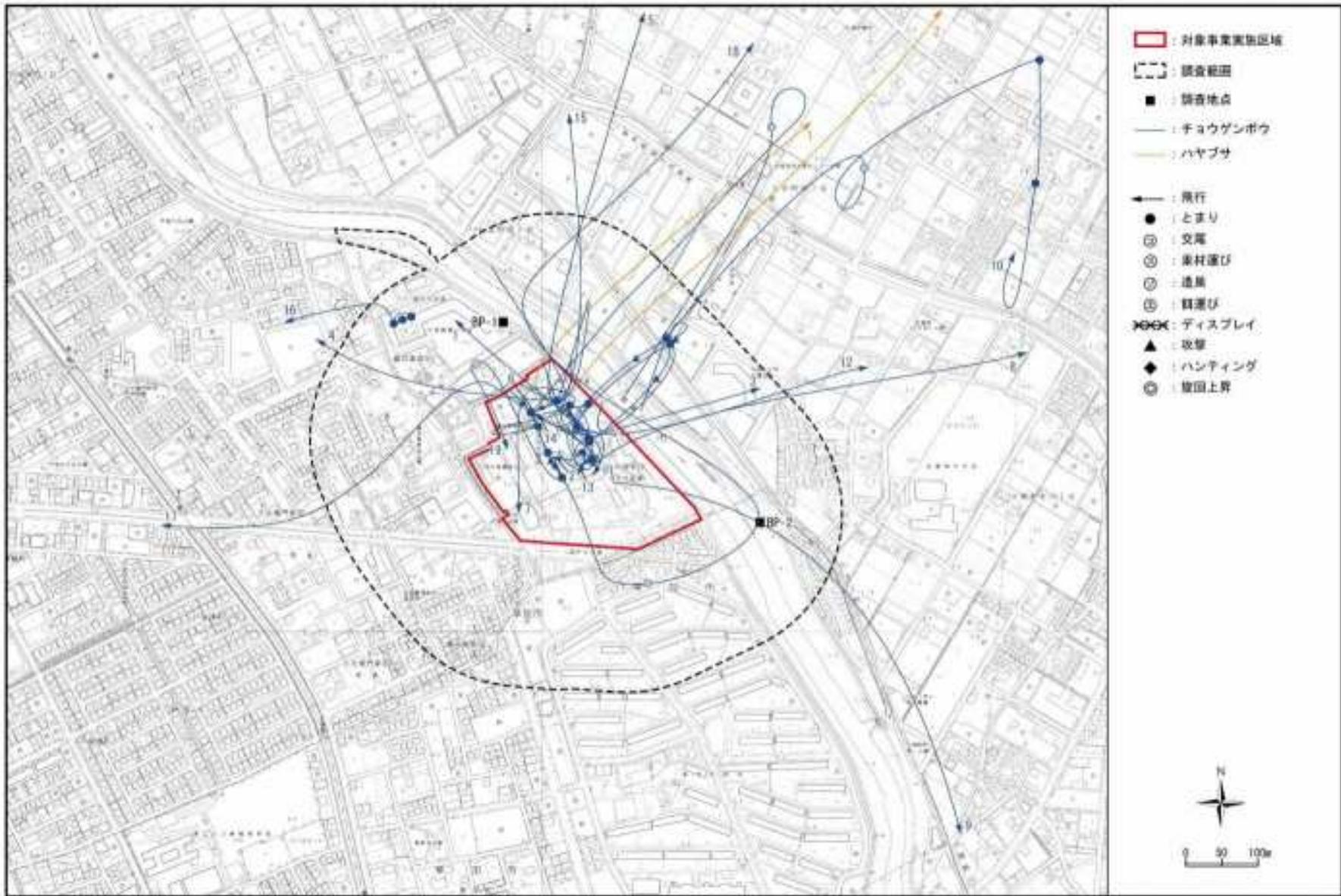


図 9.8-4(1) 保全すべき種の確認位置 (第1回猛禽類調査：平成31年2月)

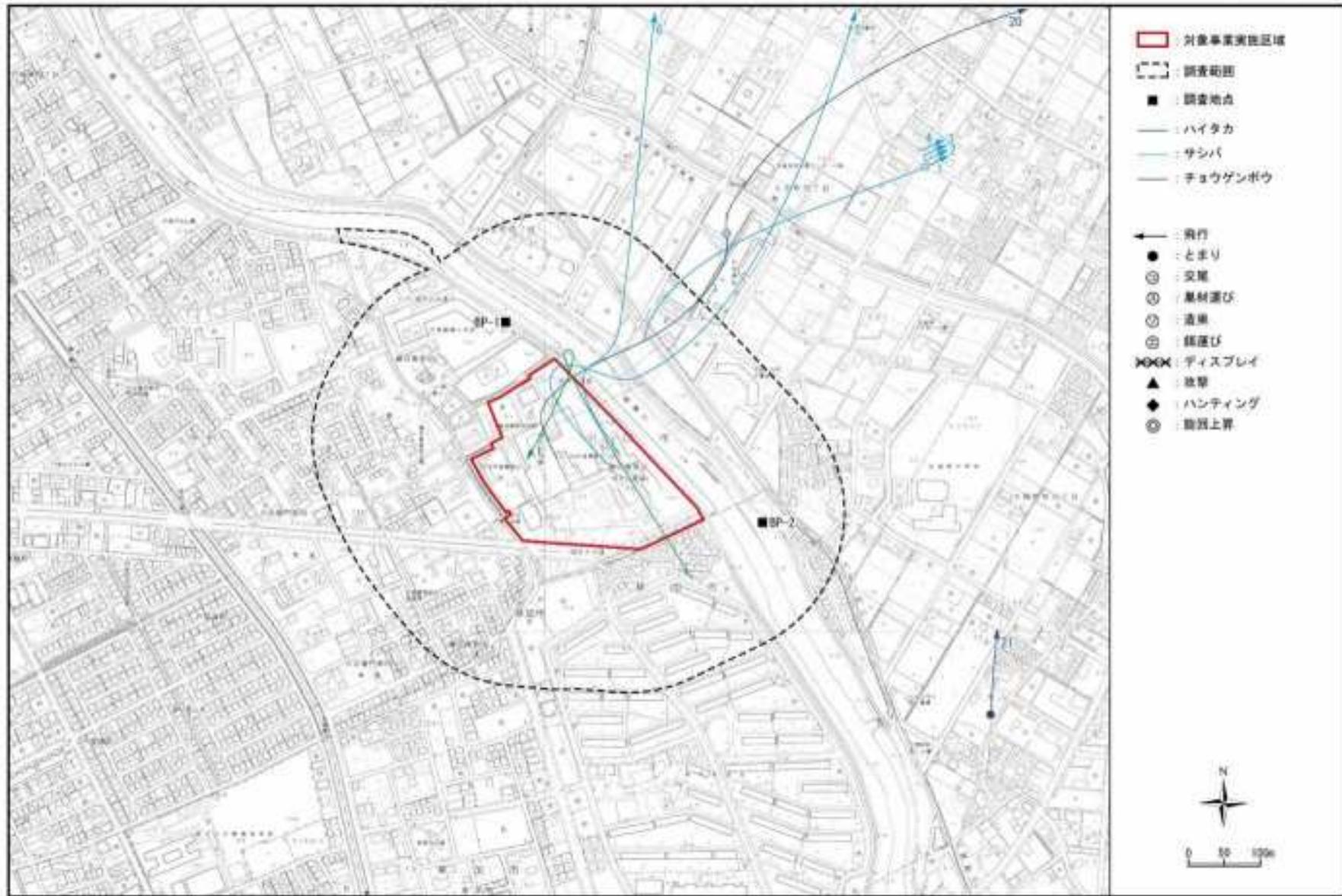


図 9.8-4(2) 保全すべき種の確認位置 (第 2 回猛禽類調査: 平成 31 年 3 月)

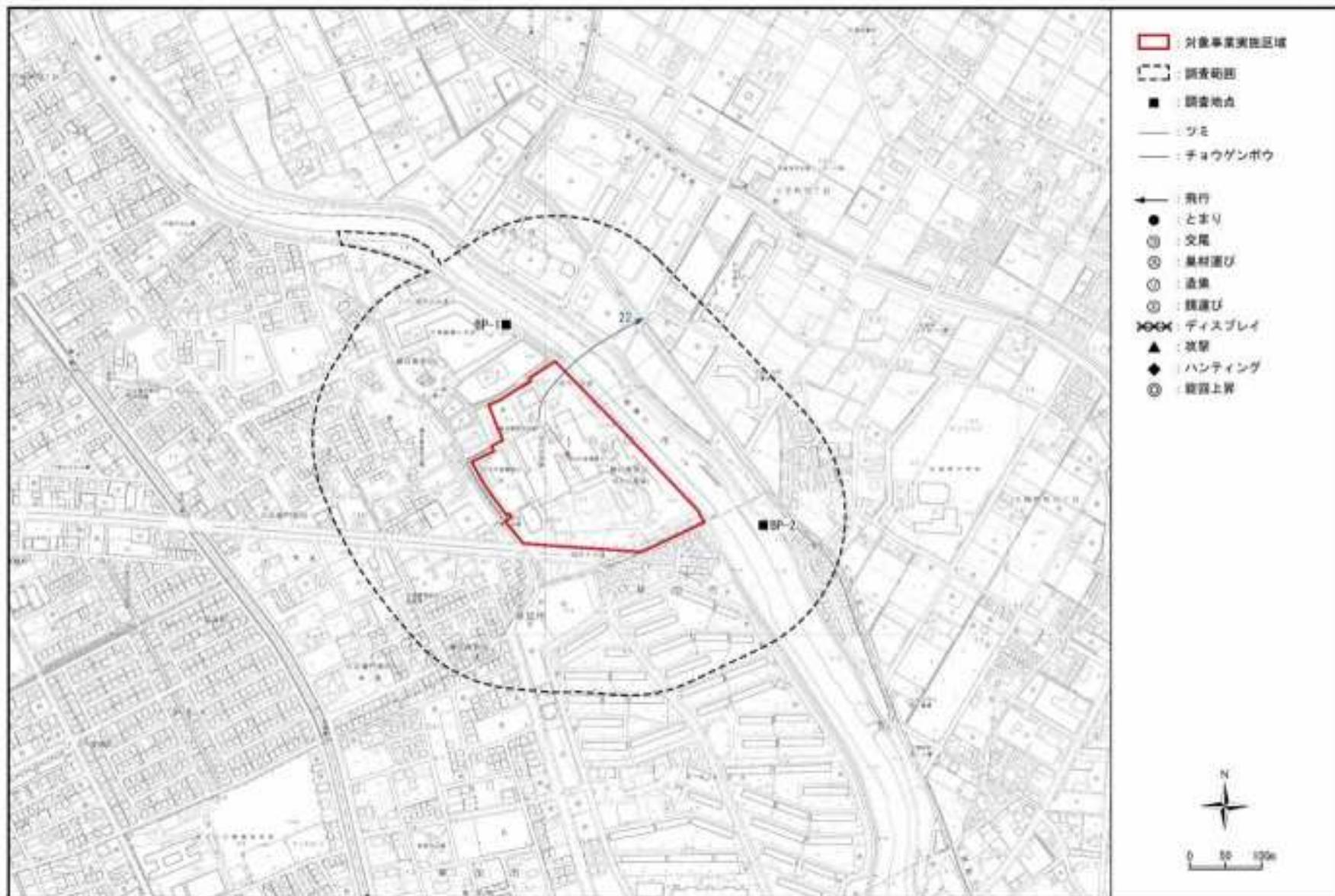


図 9.8-4(3) 保全すべき種の確認位置 (第3回猛禽類調査：平成31年4月)

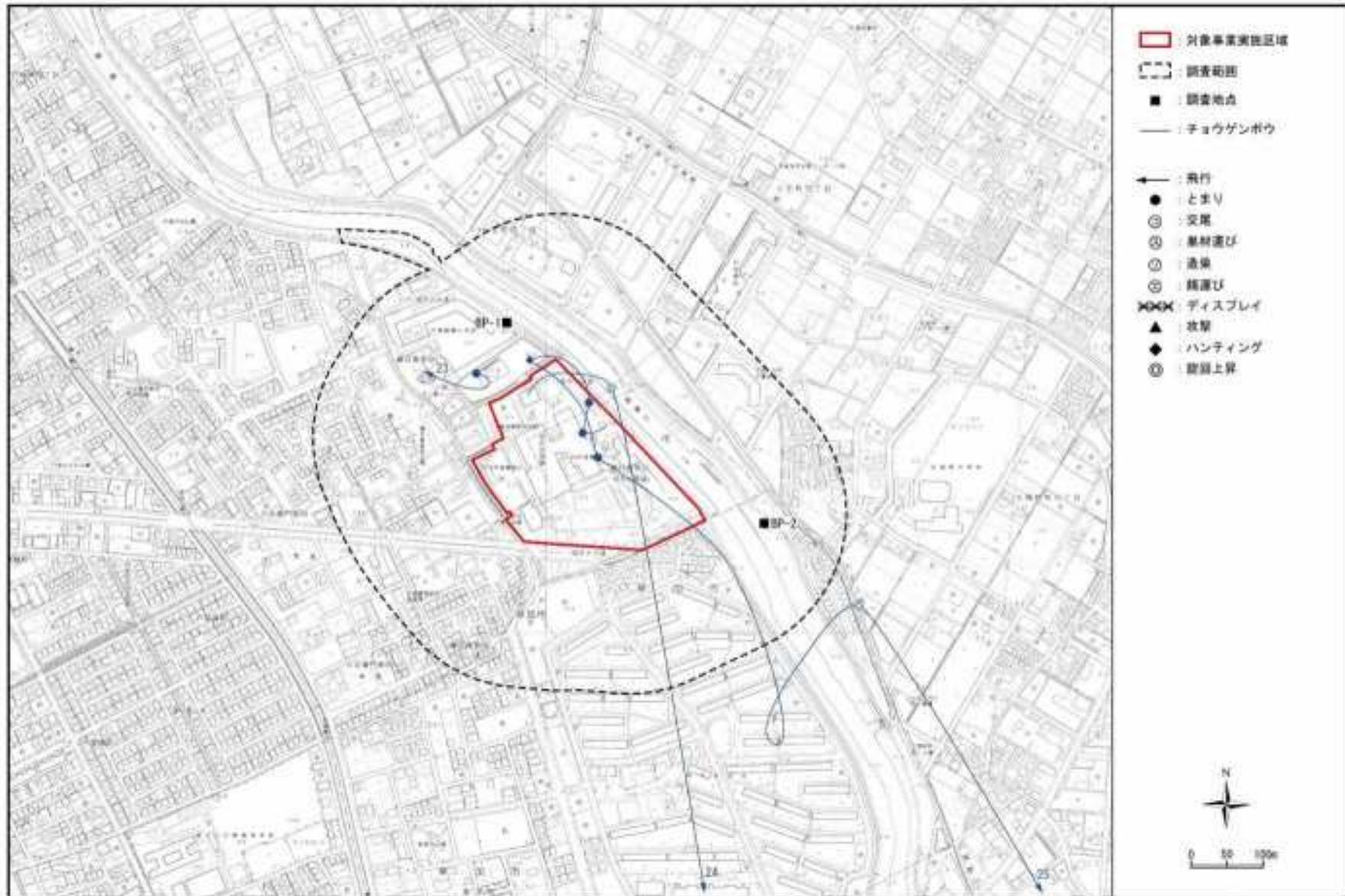


図 9.8-4(4) 保全すべき種の確認位置 (第 5 回猛禽類調査：令和元年 6 月)

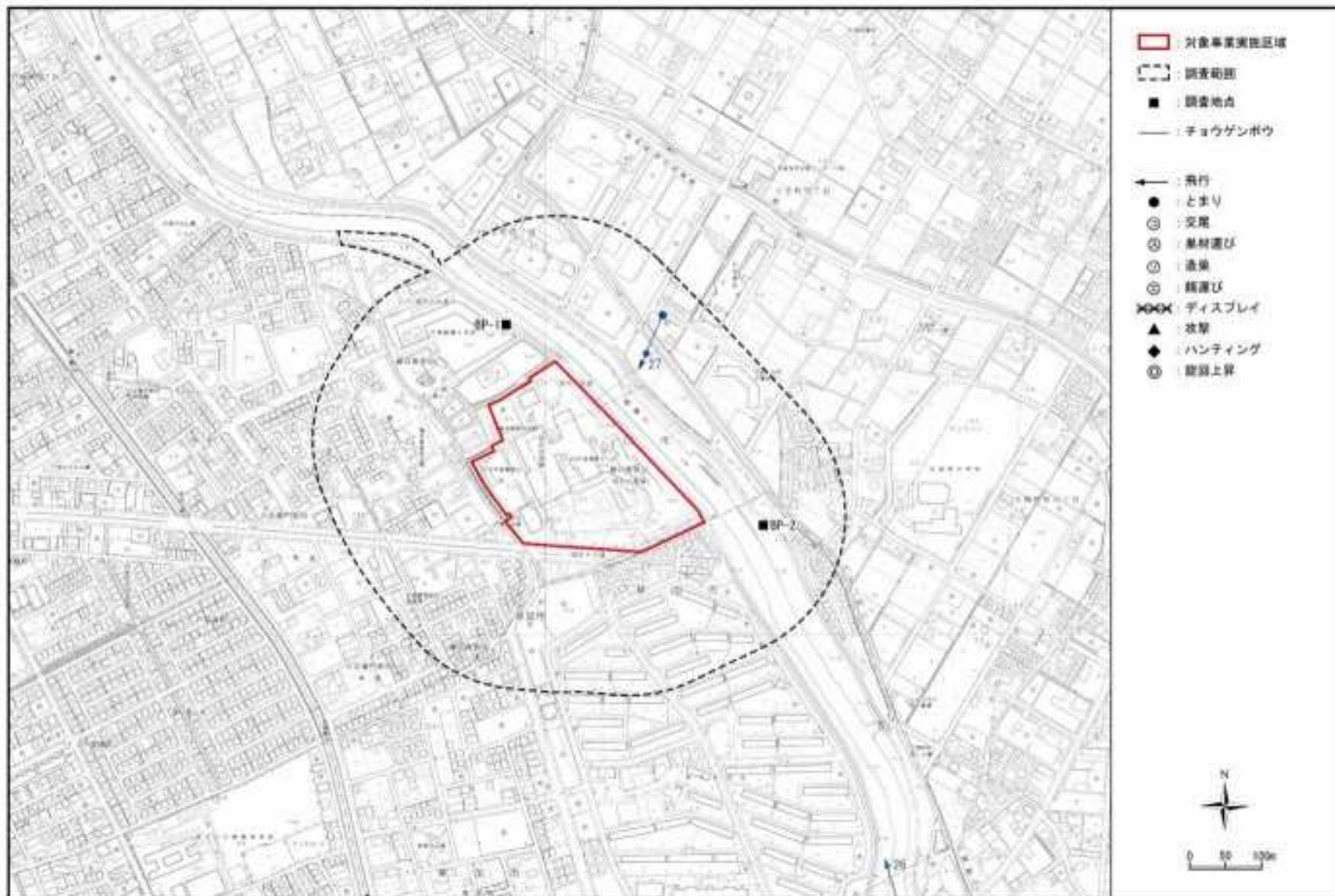


図 9.8-4(5) 保全すべき種の確認位置 (第6回猛禽類調査: 令和元年7月)

表 9.8-12(1) 保全すべき種の生態及び確認状況（猛禽類）

科名	タカ科			
種名	ツミ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	—		
	埼玉県	全県	準絶滅危惧 2 型（繁殖）	
		大宮台地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）	
		中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型（繁殖）	
分布状況	留鳥または夏鳥として北海道から南西諸島までに分布。			確認個体
形態・生息場所	<p>【形態】全長オス 27cm、メス 30cm、翼開長 51～63cm。オスはヒヨドリくらいの大きさで頭部から上面は暗灰青色。下面はオレンジ色。メスは少し大きく、上面が灰黒色で下面は白色で黒い横縞がある。</p> <p>【主な生息環境】平地から山地の林、市街地の公園の林等で繁殖。</p>			 <p>確認環境</p>
県内での生息状況	低地帯から低山帯に留鳥として生息し、繁殖する。現在は大きな林よりも市街地の緑地や公園の林等の小さな緑地で営巣するものが多い。個体数は増加傾向にあるが、生息環境は必ずしも良くなっていない。春秋の渡りの時期には、通過個体が県内各地で記録される。			
現地確認状況	第 3 回：対象事業実施区域内で 1 例が確認された。繁殖に係わる行動は確認されなかった。			

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-12(2) 保全すべき種の生態及び確認状況（猛禽類）

科名	タカ科			
種名	ハイタカ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	準絶滅危惧		
	埼玉県	全県		情報不足（繁殖） 準絶滅危惧 2 型（越冬）
	大宮台地	絶滅危惧 II 類（越冬）		
	中川・加須低地	絶滅危惧 II 類（越冬）		
分布状況	北海道と本州の一部で繁殖し、冬季は全国に冬鳥として渡来する。		確認個体	
形態・生息場所	<p>【形態】全長オス 30～32.5cm、メス 37～40cm、翼開長 60.5～79cm。オスの頭上から上面は暗青灰色。下面は白色で橙褐色の横縞がある。メスは上面が褐色味を帯びる。</p> <p>【主な生息環境】ツミよりやや標高の高い山地の林で繁殖し、冬季は平地から山地の林、農耕地、河川敷等に生息する。</p>			
県内での生息状況	冬季は平地の林、農耕地、河川敷等に生息するが個体数は多くない。現在はやや増加傾向にある。県内でも夏季に山地に生息するが、繁殖の状況についてはよくわかっていない。春秋の渡りの時期には通過と思われる個体が県内各地で記録される。			
現地確認状況	第 2 回：対象事業実施区域内で 1 例、対象事業実施区域外で 1 例、計 1 例が確認された。繁殖に係わる行動は確認されなかった。			

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-12(3) 保全すべき種の生態及び確認状況（猛禽類）

科名	タカ科			
種名	サンバ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	絶滅危惧Ⅱ類		
	埼玉県	全県		絶滅危惧ⅠA類（繁殖）
	大宮台地	絶滅（繁殖）		
	中川・加須低地	絶滅（繁殖）		
分布状況	夏鳥として、本州、四国、九州に渡来する。南西諸島では越冬するものもある。			
形態・生息場所	<p>【形態】全長オス 47cm、メス 51cm、翼開長 105～115cm。頭上から上面は褐色。喉には黒い縦線がある。下面は白く茶褐色の横縞がある。幼鳥では上面が暗色で下面には縦斑がある。</p> <p>【主な生息環境】低山の林で繁殖し、林縁や農耕地、山林などでカエル、トカゲ、ヘビ、ネズミ、鳥類などを捕食する。</p>			
				確認環境
県内での生息状況	かつては、低地帯、台地・丘陵帯、低山帯の各地に夏鳥として渡来し繁殖していたが、現在は県内での繁殖情報が極めて少なくなっている。台地・丘陵帯で著しく減少している理由として、谷津田の耕作放棄や手入れ不足による生息環境悪化のため、本種の餌となるカエルやヘビ等が減少したことが原因の一つとして考えられる。春秋の渡りの時期には通過個体が県内各地で記録されている。			
現地確認状況	第2回：対象事業実施区域内で2例、対象事業実施区域外で6例、計6例が確認された。繁殖に係わる行動は確認されなかった。渡り途中の個体だと思われる。			

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（平成30年、埼玉県）

表 9.8-12(4) 保全すべき種の生態及び確認状況（猛禽類）

科名	ハヤブサ科		
種名	ハヤブサ		
重要性	文化財	—	
	保存法	国内	
	環境省	絶滅危惧Ⅱ類	
埼玉県	全県	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）	
	大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）	
	中川・加須低地	絶滅危惧Ⅱ類（越冬）	
分布状況	留鳥として、北海道から九州で繁殖し、冬季は冬鳥として全国に渡来する。		確認個体
形態・生息場所	<p>【形態】全長オス 38～45cm、メス 46～51cm、翼開長 84～120cm。上面は青灰黒色で下面は白く黒褐色の横縞がある。頬に特徴的なひげ状の黒斑がある。幼鳥には、上面が褐色で、下面には黒い縦斑がある。</p> <p>【主な生息環境】平地から山地の海岸、河口、河川敷、湖沼、農耕地等に生息する。元来、海岸の断崖や岸壁の岩棚等で繁殖していたが、現在は市街地のビルや橋脚等の人工構造物に営巣する例が増加している。</p>		
県内での生息状況	県内には冬鳥として渡来し、平地から山地の河川敷、農耕地、湖沼、ダム湖等に生息する。現在はやや増加傾向にあり、夏季の観察記録もある。県内でも人工構造物に営巣し、繁殖する兆候がある。		確認環境
現地確認状況	第1回：対象事業実施区域内で2例、対象事業実施区域外で2例、計2例が確認された。繁殖を示す行動はみられなかった。		

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（平成30年、埼玉県）

オ 爬虫類・両生類

(ア) 確認種

現地調査の結果、爬虫類・両生類は表 9.8-13 に示す 3 目 7 科 11 種が確認された。

調査範囲の環境は、主に市街地等であり、綾瀬川沿いに草地や水田環境が存在する。また、植栽地等の樹林環境がパッチ状に分布する。

市街地等ではヤモリ等、綾瀬川やその周辺の水田環境ではトウキョウダルマガエル、クサガメ等、草地環境ではカナヘビ、シマヘビ、アオダイショウ等が確認された。

表 9.8-13 確認種一覧（爬虫類・両生類）

No.	目名	科名	種名	調査範囲								
				対象事業実施区域内				対象事業実施区域外				
				夏季	秋季	早春季	春季	夏季	秋季	早春季	春季	
1	カメ	イシガメ	クサガメ					●			●	
2			アカミミガメ					●		●	●	
3	トカゲ	ヤモリ	ヤモリ	●	●	●	●				●	
4			カナヘビ				●	●	●		●	
5			ヘビ							●	●	
6			アオダイショウ					●			●	
7	カエル	ヒキガエル	アズマヒキガエル				●			●		
8			アマガエル				●	●	●	●	●	
9			アカガエル	トウキョウダルマガエル					●	●		●
10			ヌマガエル								●	●
11			ウシガエル						●	●	●	●
計	3目	7科	11種	1種	1種	1種	4種	7種	4種	6種	10種	
				4種				11種				

注) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 -本邦産野生動植物の種の現状- (脊椎動物編)」(平成 5 年、環境庁)に従った。

(イ) 保全すべき種

現地調査の結果、保全すべき種は、アズマヒキガエル、トウキョウダルマガエル、カナヘビ、シマヘビ及びアオダイショウの5種が確認された。保全すべき種一覧は表9.8-14、調査季節別の保全すべき種の確認位置は図9.8-5(1)～(4)、保全すべき種の生態及び確認状況は表9.8-15(1)～(5)に示すとおりである。

表 9.8-14 保全すべき種一覧（爬虫類・両生類）

No.	目名	科名	種名	対象事業実施区域		保全すべき種の選定基準								
						文化財保護法	種の保存法	埼玉県文化財	埼玉県保護条例	環境省R.L.2019	埼玉県RDB 2018			
				内	外						大宮台地	中川・加須低地	全県	
1	トカゲ	カナヘビ	カナヘビ	●	●							NT2	NT2	RT
2		ヘビ	シマヘビ		●							VU	VU	VU
3			アオダイショウ		●								NT1	NT2
4	カエル	ヒキガエル	アズマヒキガエル	●	●							NT1	NT1	NT1
5		アカガエル	トウキョウダルマガエル		●							NT	VU	NT1
計	2目	4科	5種	2種	5種	0種	0種	0種	0種	1種	5種			
											5種			

注 1) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 - 本邦産野生動物植物の種の現状 - (脊椎動物編)」(平成5年、環境庁)に従った。

2) 保全すべき種の選定基準となる法令・文献及び評価区分は前掲表9.8-5のとおりである。

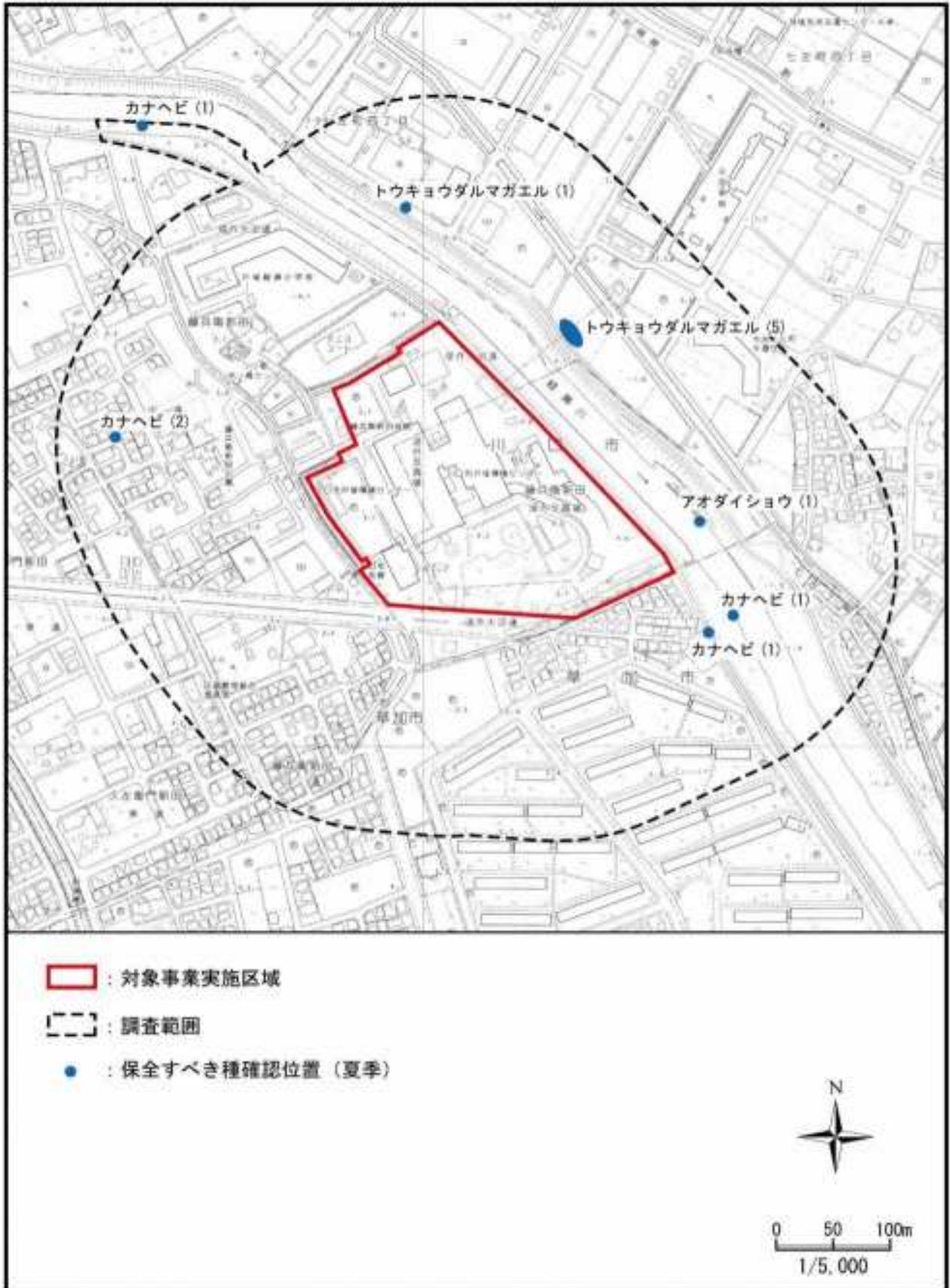


図 9.8-5(1) 保全すべき種の確認位置 (爬虫類・両生類：夏季)



図 9.8-5(2) 保全すべき種の確認位置 (爬虫類・両生類：秋季)



図 9.8-5(3) 保全すべき種の確認位置 (爬虫類・両生類：早春季)

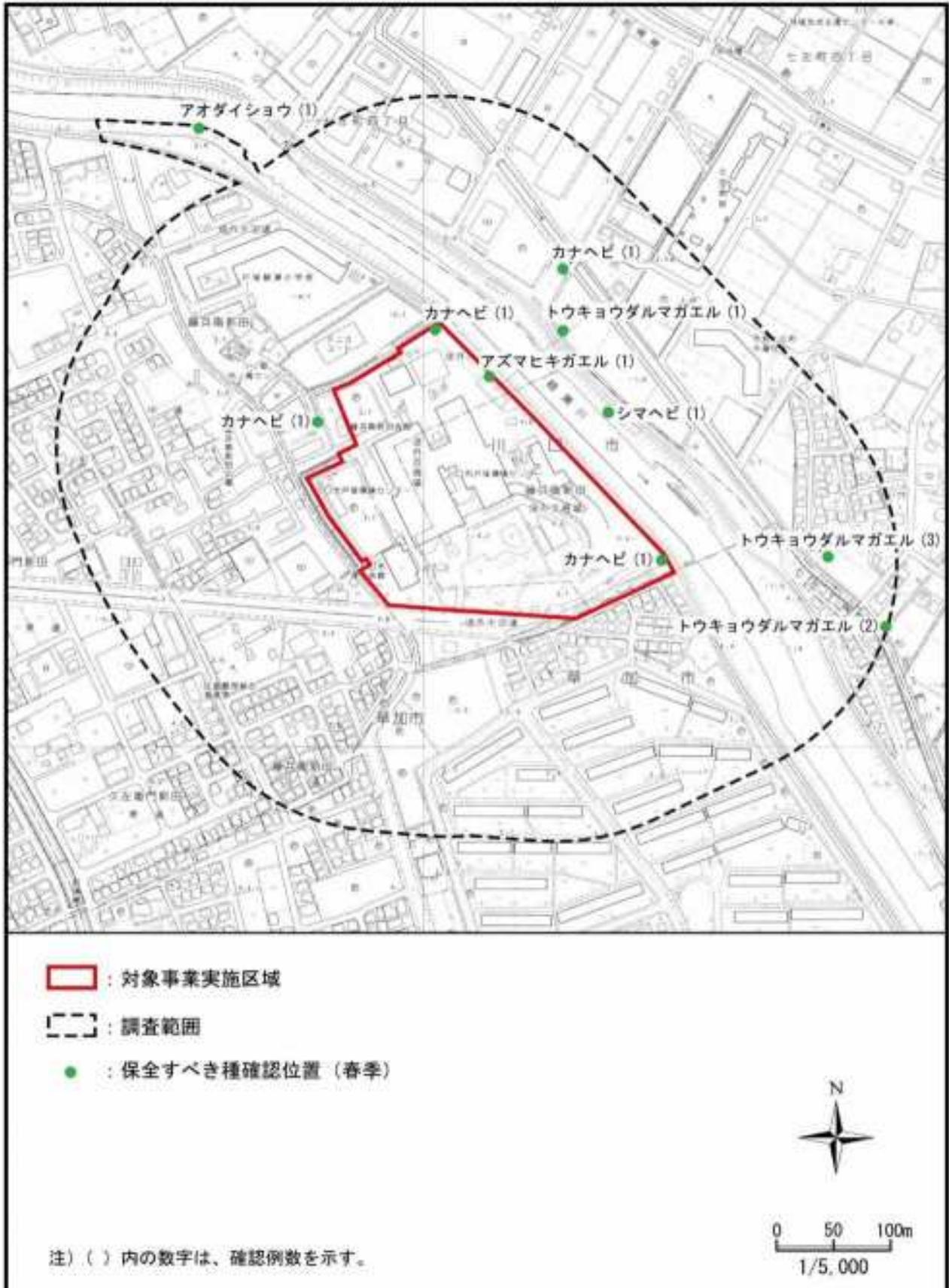


図 9.8-5(4) 保全すべき種の確認位置 (爬虫類・両生類：春季)

表 9.8-15(1) 保全すべき種の生態及び確認状況（爬虫類）

科名	カナヘビ科						
種名	カナヘビ						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	—					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>地帯別危惧</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>準絶滅危惧 2 型</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>準絶滅危惧 2 型</td> </tr> </table>		全県	地帯別危惧	大宮台地	準絶滅危惧 2 型
全県	地帯別危惧						
大宮台地	準絶滅危惧 2 型						
中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型						
分布状況	北海道、本州、四国、九州		確認個体				
形態・生息場所	<p>【形態】 頭胴長 5～7cm</p> <p>【主な生息環境】 低地から山地にかけて広範囲に生息するが、低地や丘陵地で多く見られる。草むらなど日当たりのよい場所を好み、公園の緑地、水田の畦、人家の生け垣、畑地など人為的な環境にも適応している。</p>						
県内での生息状況	<p>台地・丘陵地を中心に低山帯から低地帯まで広く分布しているが、緑地面積の減少による生息適地の減少、道路等造成に伴う生息地の分断などによって、個体数の減少がみられる地域がある。都市化の進行している県南部、大規模開発が盛んな県東部ではこの傾向が顕著である。</p>						
現地確認状況	<p>夏 季：対象事業実施区域外の住宅地の道路上、綾瀬川の堤防上、綾瀬川堤防の草地等で計 5 例が確認された。</p> <p>秋 季：綾瀬川堤防の草地等の対象事業実施区域外で計 4 例確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域内の草地 2 箇所計 2 例（成体）、対象事業実施区域外の水路沿いで 1 例（成体）、クワイ畑で 1 例（成体）、計 4 例が確認された。</p>						

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-15(2) 保全すべき種の生態及び確認状況（爬虫類）

科名	ヘビ科						
種名	シマヘビ						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	—					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>		全県	絶滅危惧Ⅱ類	大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類
全県	絶滅危惧Ⅱ類						
大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類						
中川・加須低地	絶滅危惧Ⅱ類						
分布状況	北海道、本州、四国、九州						
形態・生息場所	<p>【形態】 全長 80～200cm</p> <p>【主な生息環境】 低地から山地まで広く生息し、日当たりの良い水田、草むら、畑地、沼地等の周辺を好む。餌はカエル、トカゲ、鳥類、哺乳類など食性は広いが、カエルに依存する傾向が強い。昼行性で採餌や日光浴のため水田やその周りでみかけることが多く、人目にふれやすい種である。</p>						
県内での生息状況	<p>低地帯から山地帯にかけて生息している。普通にみられる種とされていたが、近年、関東平野とその周辺では減少が著しい。近県の東京都や千葉県でも減少が指摘され、県内でも個体数は少ないと考えられる。餌資源と生息適地が多い台地・丘陵帯で生息記録が少なく、特に秩父地方で少なかった。低地帯での生息記録は加須低地を中心にみられたが、水田の減少、圃場整備、水路のコンクリート化等によりカエル等の餌資源の減少が顕著である。</p>		確認个体				
現地確認状況	<p>早春季：対象事業実施区域外の水田で1例が確認された。</p> <p>春季：対象事業実施区域外の綾瀬川の堤防の草地で1例（成体）が確認された。</p>		確認環境				

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第4版）」（平成30年、埼玉県）

表 9.8-15(3) 保全すべき種の生態及び確認状況（爬虫類）

科名	ヘビ科		—					
種名	アオダイショウ							
重要性	文化財	—						
	保存法	—						
	環境省	—						
	埼玉県	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>全県</td> <td>準絶滅危惧 2 型</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>準絶滅危惧 1 型</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>準絶滅危惧 2 型</td> </tr> </table>		全県	準絶滅危惧 2 型	大宮台地	準絶滅危惧 1 型	中川・加須低地
全県	準絶滅危惧 2 型							
大宮台地	準絶滅危惧 1 型							
中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型							
分布状況	北海道、本州、四国、九州			確認個体				
形態・生息場所	<p>【形態】 全長 110～200cm</p> <p>【主な生息環境】 低地から山地まで広く生息し、森林、水田、住宅地まで様々な環境に適応している。樹上性が強く、鳥類のヒナや卵、ネズミ類を好み、幼蛇はカエルやトカゲを餌とするため、これら餌資源が豊富な里山環境は生息適地といえる。昼行性で人家（特に木造家屋）にもよく棲みつき、人目にふれやすい種である。</p>		 確認環境					
県内での生息状況	低地帯から山地帯まで広く生息している。低地帯では、都市化等が進行した県南部、大規模開発が盛んな県東部は、建物構造の鉄骨化、鉄筋化により生息環境や餌資源が減少している。緑地公園、屋敷林や社寺林に囲まれた住宅や寺社等の存在により辛うじて個体群が維持されていると考えられる。生息適地の多い台地・丘陵帯でも大規模開発の影響だけではなく、小規模でも道路の舗装化や直線化などによりロードキルを誘発し、個体数減少につながっていると考えられる。							
現地確認状況	夏 季：対象事業実施区域外の綾瀬川を泳ぐ 1 例が確認された。 春 季：綾瀬の森の刈り取った枝置場で 1 例（成体）が確認された。							

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-15(4) 保全すべき種の生態及び確認状況（両生類）

科名	ヒキガエル科							
種名	アズマヒキガエル							
重要性	文化財	—						
	保存法	—						
	環境省	—						
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>準絶滅危惧 1 型</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>準絶滅危惧 1 型</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>準絶滅危惧 1 型</td> </tr> </table>	全県	準絶滅危惧 1 型	大宮台地	準絶滅危惧 1 型	中川・加須低地	準絶滅危惧 1 型
全県	準絶滅危惧 1 型							
大宮台地	準絶滅危惧 1 型							
中川・加須低地	準絶滅危惧 1 型							
分布状況	北海道（※）、本州（近畿以東） ※北海道の個体群は国内移入とされる		確認個体					
形態・生息場所	<p>【形態】体長オス 43～161mm、メス 53～162mm 高標高地では小型化する</p> <p>【主な生息環境】山地から平地まで広く分布し、おもに林床で生息している。繁殖は池、湿原、湖等の浅い止水で、同じく早春に繁殖するニホンアカガエル等に比べて深い池が好まれる。</p>							
県内での生息状況	<p>亜高山帯から低山帯にかけて、山地から都市公園まで広く分布する。台地・丘陵帯から低地帯にかけて近年急速に個体数を減らしている。道路新設や宅地や工業団地造成等の大規模開発による生息地の減少がみられるだけでなく、農道・林道造成等による生息地の分断や、産卵地の護岸等の比較的小規模な開発でも影響を受けていることが考えられる。アライグマによる捕食も疑われ、個体数の減少の原因が多岐にわたっている。</p>							
現地確認状況	<p>早春季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷のビオトープ池で幼生 50 例が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域内の草地で成体の死体 1 例が確認された。</p>							

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）
：「侵入生物データベース」（国立環境研究所ホームページ）

表 9.8-15(5) 保全すべき種の生態及び確認状況（両生類）

科名	アカガエル科			
種名	トウキョウダルマガエル			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	準絶滅危惧		
	埼玉県	全県		準絶滅危惧 1 型
	大宮台地	絶滅危惧 II 類		
	中川・加須低地	準絶滅危惧 1 型		
分布状況	本州（東北の太平洋側〔岩手県・宮城県・福島県〕、関東地方、新潟県と長野県の一部）		確認個体	
形態・生息場所	<p>【形態】体長オス 39～75mm、メス 43～87mm。メスが明らかに大きい。</p> <p>【主な生息環境】丘陵地から平地の水田と、周辺の水路や浅い池沼、河川敷の湿地等に生息し、水辺からほとんど離れない。産卵は水田の湛水期である 5～7 月頃におこなわれ、産卵場所は水田にほぼ依存している。</p>			
県内での生息状況	<p>低山帯から低地帯にまで広く分布しているが、分布の中心は低地帯に広がる水田である。道路新設や宅地や工業団地造成等の大規模開発による水田の減少、圃場整備による暗渠排水工事や用排水路のコンクリート化等の影響を受け生息地が減少している。特に熊谷市周辺等で行われている二毛作水田では減少著しく、湛水が 6 月中下旬以降と遅く産卵期のピークを過ぎているだけでなく、中干しなどによる落水も上陸前の幼生の死亡につながり、個体数減少の原因となっている可能性がある。</p>		確認環境	
現地確認状況	<p>夏 季：対象事業実施区域外のクワイ畑で 5 例（鳴き声）と、道路にできた水たまりで 1 例（幼生）が確認された。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域外のクワイ畑で 2 例（幼体）が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外のクワイ畑で 1 例（成体）、水田で 3 例（鳴き声）、水路で 2 例（幼体）が確認された。</p>			

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

カ 魚類

(ア) 確認種

現地調査の結果、魚類は表 9.8-16 に示す 5 目 12 科 24 種が確認された。

調査範囲の環境は、いずれも流速の緩やかな流水環境であり、両岸はヨシ等の抽水植物がみられた。F-2 は既存施設からの排水路の合流箇所付近であり、F-1 は合流箇所よりも上流側、F-3 は合流箇所よりも下流側に位置している。

全ての調査地点において、ヌマチチブ、マハゼ、ボラ等の流速が緩やかな環境に生息する種が主に確認された。

表 9.8-16 確認種一覧（魚類）

No.	目名	科名	種名	調査地点															
				F-1				F-2				F-3							
				夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季				
1	ウナギ	ウナギ	ウナギ				●												
2	コイ	コイ	オイカワ				●			●									
3			カマツカ	●									●						
4			タモロコ											●					
5			スゴモロコ	●						●	●			●					
6			モツゴ		●					●				●					
7			ニゴイ	●	●					●	●			●		●		●	
8			コイ							●									
9			ギンブナ	●	●						●								
-			フナ属の一種						●	●				●					
10			タイリクバラタナゴ	●						●									●
11			ドジョウ	ドジョウ	ドジョウ							●		●					
12	ナマズ	アメリカナマズ	チャネルキョットフィッシュ							●					●				
13		ギギ	コウライギギ							●									
14	メダカ	メダカ	メダカ										●	●					
15		カダヤシ	カダヤシ							●				●					
16	スズキ	ボラ	ボラ	●				●	●			●		●			●		
17		タイワンドジョウ	カムルチー							●									
18		スズキ	スズキ	●					●			●					●		
19		サンフィッシュ	コクチバス		●														
20		ハゼ	ヌマチチブ	●	●			●	●	●		●	●	●		●	●		
21			シモフリシマハゼ							●			●						
22			アシシロハゼ									●							
23			マハゼ	●	●			●	●			●		●			●		
24			スミウキゴリ					●									●		
計	5目	12科	24種	9種	6種	0種	7種	10種	10種	3種	8種	4種	11種	2種	7種				
				14種				19種				15種							

注) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 - 本邦産野生動植物の種の現状 - (脊椎動物編)」(平成 5 年、環境庁)に従った。

(イ) 保全すべき種

現地調査の結果、保全すべき種は、ウナギ、ドジョウ及びメダカの3種が確認された。保全すべき種一覧は表 9.8-17、調査季節別の保全すべき種の確認位置は図 9.8-6(1)～(4)、保全すべき種の生態及び確認状況は表 9.8-18(1)～(3)に示すとおりである。

なお、スゴモロコは国内他地域からの移入種であるため、保全すべき種からは除外した。

表 9.8-17 保全すべき種一覧（魚類）

No.	目名	科名	種名	調査地点			保全すべき種の選定基準						
				F-1	F-2	F-3	文化財保護法	種の保存法	埼玉県文化財	埼玉県保護条例	2019 環境省R L	埼玉県 RDB 2018 全 県	
1	ウナギ	ウナギ	ウナギ	●								EN	NT2
	コイ	コイ	スゴモロコ	○	○	○						(VU)	
2		ドジョウ	ドジョウ		●							NT	
3	メダカ	メダカ	メダカ			●						VU	NT2
計	3目	3科	3種	1種	1種	1種	0種	0種	0種	0種	3種	2種	
							3種						

注 1) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 - 本邦産野生動物の種の現状 - (脊椎動物編)」(1993、環境庁)に従った。

2) 保全すべき種の選定基準となる法令・文献及び評価区分は前掲表 9.8-5 のとおりである。

3) 確認状況を○で示したスゴモロコは国内他地域からの移入種であるため、保全すべき種から除外し、保全すべき種の選定基準は括弧をつけた表記とした。移入などの判断は、「侵入生物データベース」(国立環境研究所ホームページ)を参考にした。



図 9.8-6(1) 保全すべき種の確認位置 (魚類：夏季)



図 9.8-6(2) 保全すべき種の確認位置 (魚類：秋季)



図 9.8-6(3) 保全すべき種の確認位置 (魚類：冬季)

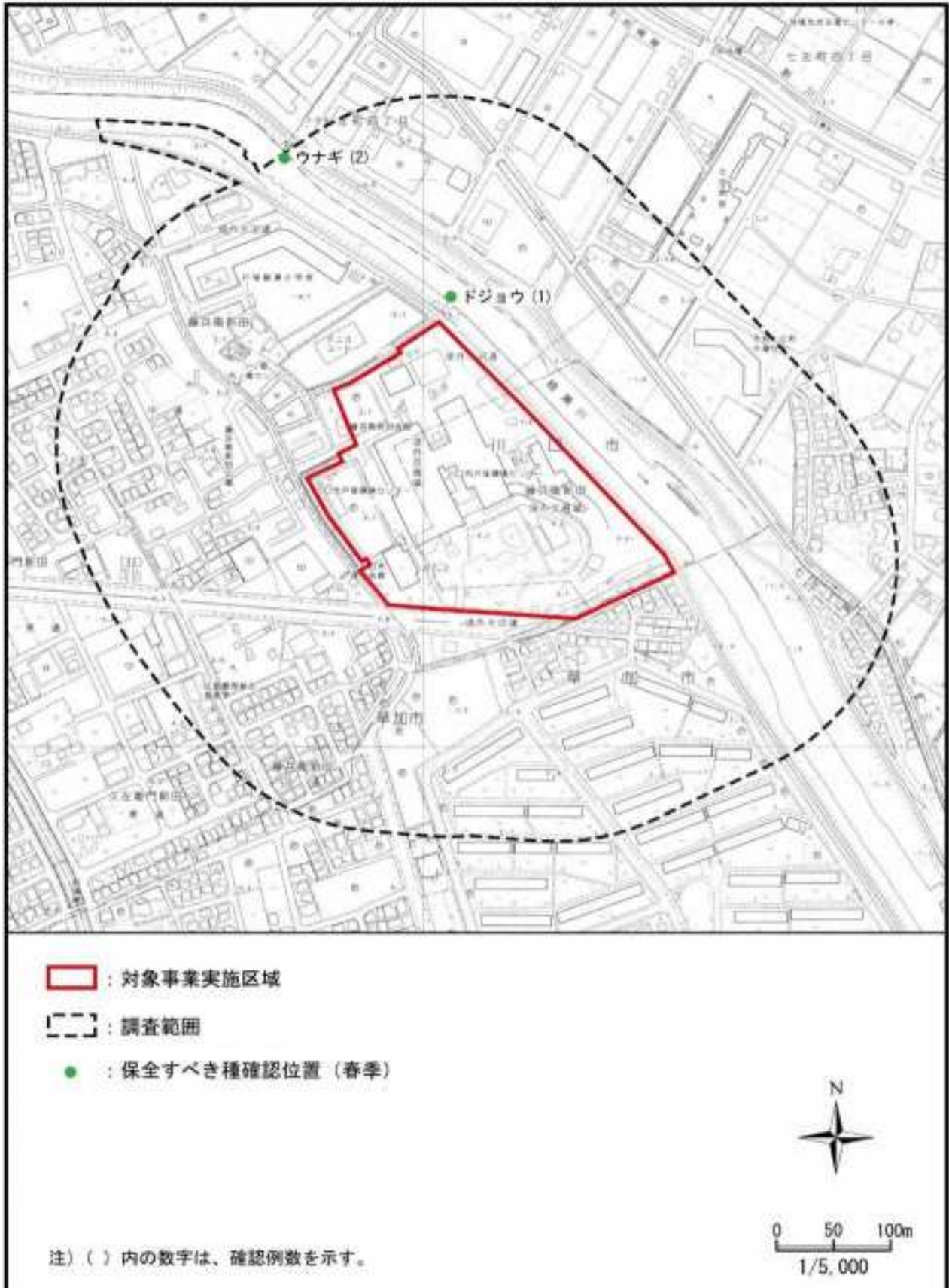


図 9.8-6(4) 保全すべき種の確認位置 (魚類：春季)

表 9.8-18(1) 保全すべき種の生態及び確認状況（魚類）

科名	ウナギ科		 <p style="text-align: center;">確認個体</p>
種名	ウナギ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	絶滅危惧 I B 類	
	埼玉県	準絶滅危惧 2 型	
分布状況	北海道、本州、四国、九州、南西諸島		
形態・生息場所	<p>【形態】体の背方は暗色、腹方は白色もしくは黄金色で、体にまだら状の斑紋はない。背鰭起部は胸鰭後端と肛門の中間点か、それより後方にある。大きい個体は全長 110cm、体重 2.1kg にまで成長する。</p> <p>【主な生息環境】海域で一生を過ごす個体と、海域から河川に遡上し成長した後、産卵のために再び海域へ下る個体が知られている。海と川を行き来し、水田や池にまで遡上できるような河川環境が必要である。浮き石、植生、あるいは流れが緩やかな場所の石と石の隙間等で、隠れ場所となる生息空間が必要である。また、えさとなるアユ、エビ類や小魚等が豊富な水域に生息する。</p>		 <p style="text-align: center;">確認環境</p>
県内での生息状況	荒川水系や利根川水系に分布する。荒川では寄居町の玉淀ダム堤体直下から下流の川口市まで分布。荒川では体色が透明なシラスウナギの遡上が確認されている。		
現地確認状況	春 季：綾瀬川（F-1 地点）左岸の水路の流れ込み部で 2 例が確認された。		

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-18(2) 保全すべき種の生態及び確認状況（魚類）

科名	ドジョウ科		
種名	ドジョウ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	準絶滅危惧	
	埼玉県	—	
分布状況	日本列島に広く分布		確認個体
形態・生息場所	<p>【形態】成長すると多くは全長 15cm 程度だが、20cm 近くの大型になる個体も見られる。体色は黒色や茶色のほか金色がかかるものまで見られ、体の模様も全体に暗色がかかるものや斑点が散在するものなど変化に富んでいる。ひげは 5 対 10 本あり、酷似するカラドジョウよりも明らかに短い。体色が金色がかかる個体であってもカラドジョウより金属のような光沢感がなく、背鰭から尾鰭までの体形も細長い。</p> <p>【主な生息環境】水田や池沼、水路、河川の中・下流等の多様な環境に生息する。</p>		
県内での生息状況	—		確認環境
現地確認状況	<p>冬 季：綾瀬川（F-2 地点）右岸の水路の流れ込み部で 1 例が確認された。</p> <p>春 季：綾瀬川（F-2 地点）右岸の植物帯で 1 例が確認された。</p>		

資料：「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」
 （平成 30 年、栃木県）

表 9.8-18(3) 保全すべき種の生態及び確認状況（魚類）

科名	メダカ科		
種名	メダカ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	絶滅危惧Ⅱ類	
	埼玉県	準絶滅危惧2型	
分布状況	<p>本州（以下の各地：長野県（千曲川水系）、京都府綾部（由良川水系中・上流）、丹後半島竹野川水系、兵庫県竹野（谷田川水系）、鳥取県岩見（小田川水系）以西の日本海側（兵庫県浜田の岸田川水系を除く）、隠岐諸島島後、見島、盛岡（北上川水系）・大船渡（盛川水系）以南の太平洋側）。瀬戸内海の沿岸及び島嶼。四国。九州（本島および以下の各地：対馬、壱岐、五島列島福江島、天草諸島下島、甕島列島）。南西諸島（以下の各地：種子島、馬毛島、喜界島、奄美大島、加計呂麻島、伊平屋島、沖縄島、渡嘉敷島、久米島）。</p>		確認個体
形態・生息場所	<p>【形態】体側後半の黒色素胞は網目模様を形成しない。体側後方に染み状の斑紋がない。オスの背鰭の欠刻は深い個体が多い。全長約2～3cm。</p> <p>【主な生息環境】平野部の河川、池沼、水田、用水路等の水際帯に水生植物群落が必要である。農業用水では、本川からの導水により用水に入り込み、流れが緩やかな水際を遡上する。落水時に逃避もしくは取り残されて鳥類の餌となるほか、水が干上がり死滅する個体も多い。流域の湿地帯の消失や河川のコンクリート護岸化により生息域を失い、減少する傾向にあるが、護岸化後の水際に泥が堆積して植生が繁茂するようになると、そこを二次的生息地として利用する水域も見られている。</p>		
県内での生息状況	荒川、利根川水系に分布する。		
現地確認状況	<p>夏季：綾瀬川（F-3地点）の水際植生の根際で2例が確認された。</p> <p>秋季：綾瀬川（F-3地点）の水際植生の根際で1例が確認された。</p>		

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編2018（第4版）」（平成30年、埼玉県）

キ 底生動物

(ア) 確認種

現地調査の結果、底生動物は表 9.8-19(1)～(2)に示す 18 目 29 科 71 種が確認された。

調査範囲の環境は、いずれも流速の緩やかな流水環境であり、両岸はヨシ等の抽水植物がみられた。BA-2 は既存施設からの排水路の合流箇所付近であり、BA-1 は合流箇所よりも上流側、BA-3 は合流箇所よりも下流側に位置している。

全ての調査地点において、イトミミズ科やユスリカ科に属する種等、流速が緩やかな環境に生息する種が主に確認された。

表 9.8-19(1) 確認種一覧 (底生動物)

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	調査地点																		
						BA-1				BA-2				BA-3										
						夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季							
1	海綿動物	普通海綿	ザラカイメン	タンスイカイメン	リュウコカイメン																			
2					ジーカイメン																			
3	扁形動物	ウズムシ (渦虫)	ウズムシ (三岐腸)	コガタウミウズムシ	Miropilana trifasciata																			
4					アメリカツノウズムシ																			
5					アメリカナミウズムシ																			
6	ヒモ形 (紐形) 動物	ハリヒモムシ (有針)	ハリヒモムシ (針紐虫)	マミズヒモムシ	ミミズヒモムシ属																			
7	軟体動物	マキガイ (腹足)	モノアラガイ (基眼)	サカマキガイ	サカマキガイ																			
8				コシダカヒメモノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ																			
9		モノアラガイ	モノアラガイ																					
10		ニマイガイ (二枚貝)	イシガイ	イシガイ	ヌマガイ																			
-		ドブガイ属	ドブガイ属																					
11		ハマグリ (マルスダレガイ)	シジミ	シジミ属																				
12	環形動物	ミミズ	イトミミズ	ミズミミズ	ヤドリミズミミズ属																			
13					Dero nivea																			
14					ハリミズミミズ																			
15					ナミズミミズ																			
16					Nais kisui																			
17					カワリミズミミズ																			
-					ミズミミズ亜科																			
18					フサゲミズミミズ																			
19					ヨコレミズミミズ																			
20					テングミズミミズ																			
21					エラミミズ																			
22					モトムラユリミミズ																			
23					フトゲユリミミズ																			
24					ユリミミズ																			
-					イトミミズ亜科																			
-					ミズミミズ科																			
25					ヒル	吻ひる (ワオビル)	グロシフォニ	ミドリビル																
26	ヌマビル																							
-	ヒラタビル科																							
27	吻無経	ナガレビル	ヌマイシビル																					
-	ナガレビル科	ナガレビル科																						
28	節足動物	クモ	ダニ	オヨギダニ	オヨギダニ属																			
29				ツチダニ	ツチダニ属																			
30		甲殻	ワラジムシ (等脚)	ミズムシ	ミズムシ	ミズムシ																		
31					ヨコエビ (端脚)	マミズヨコエビ	フロリダマミズヨコエビ																	
32			エビ (十脚)	テナガエビ	スズエビ	スズエビ																		
33					テナガエビ	テナガエビ																		
34				ヌマエビ	ミズヌマエビ																			
35				Neocaridina heteropoda heteropoda																				
-				カワリヌマエビ属																				
36				ザリガニ	アメリカザリガニ																			
37				イワガニ	モクスガニ																			
38					クロベンケイガニ																			
39		昆虫	カゲロウ	コカゲロウ	フタバカゲロウ属																			
40					クロフトヒゲコカゲロウ																			
41					ヒメウスバコカゲロウ属																			
42	ウデマガリコカゲロウ																							

表 9.8-19(2) 確認種一覧 (底生動物)

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	調査地点											
						BA-1				BA-2				BA-3			
						夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季
43	節足動物	昆虫	トンボ	カワトンボ	アオハダトンボ族					●	●			●			
44				トンボ	シオカラトンボ				●								
45			カメムシ	イトアメンボ	ヒメイトアメンボ												●
46				カタビロアメンボ	ナガレカタビロアメンボ属	●	●										
47					オヨギカタビロアメンボ属		●				●				●		
48				アメンボ	アメンボ	●	●			●	●		●	●			
49				ヒメアメンボ属												●	
50			ミズムシ	チビミズムシ属						●							
51			ハエ	ユスリカ	カユスリカ属		●										
52					ケバカエリユスリカ属												●
53					ツギユスリカ属					●		●	●	●			●
54					デンマクエリユスリカ属						●						
55					ナガレツギユスリカ属					●							
-					エリユスリカ亜科					●							
56					ユスリカ属		●	●	●	●	●	●	●			●	●
57					ナガコブナシユスリカ属		●								●		
58					カマガタユスリカ属	●		●		●	●	●	●	●	●		
59					ホゾミユスリカ属	●		●				●				●	
60					セボリユスリカ属							●	●				
61					コブナシユスリカ属				●								
62					Kloosia属	●				●							
63		コガタユスリカ属									●	●					
64		ケバコブユスリカ属		●		●		●		●				●			
65		ミジカオユスリカ属													●		
66		カワリユスリカ属									●						
67		ハモンユスリカ属	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
68		エダゲヒゲユスリカ属					●	●	●								
69		ヒゲユスリカ属					●	●		●			●				
-		ユスリカ亜科	●				●										
70	トビケラ	ヒメトビケラ	ヒメトビケラ属	●													
71		シマトビケラ	コガタシマトビケラ					●									
計	6門	10綱	18目	29科	71種	19種	14種	14種	14種	34種	21種	17種	22種	18種	12種	14種	16種
						37種				54種				38種			

注) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 - 本邦産野生動植物の種の現状- (無脊椎動物編 I)」(平成 5 年、環境庁)、「日本産野生生物目録 - 本邦産野生動植物の種の現状- (無脊椎動物編 II)」(平成 7 年、環境庁)、「日本産野生生物目録 - 本邦産野生動植物の種の現状- (無脊椎動物編 III)」(平成 10 年、環境庁)に従った。

(イ) 保全すべき種

現地調査の結果、保全すべき種は、コシダカヒメモノアラガイ、モノアラガイ、ヌマガイ及びミドリビルの4種が確認された。保全すべき種一覧は表 9.8-20、調査季節別の保全すべき種の確認位置は図 9.8-7(1)～(4)、保全すべき種の生態及び確認状況は表 9.8-21(1)～(4)に示すとおりである。

表 9.8-20 保全すべき種一覧 (底生動物)

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	調査地点			保全すべき種の選定基準								
						BA-1	BA-2	BA-3	文化財保護法	種の保存法	埼玉県文化財	埼玉県保護条例	2019 環境省 R L	埼玉県RDB 2018			
													大宮台地	加須低地	中川・	全県	
1	軟体動物	マキガイ (腹足)	モノアラガイ (基眼)	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ		●							DD			
2					モノアラガイ		●							NT	NT2	DD	NT2
3		ニマイガイ (二枚貝)	イシガイ	イシガイ	ヌマガイ	●	●	●							NT2	NT2	NT2
4	環形動物	ヒル	吻ひる (ウオビル)	グロシフオニ	ミドリビル	●	●	●					DD				
計	2門	3綱	3目	3科	4種	2種	4種	2種	0種	0種	0種	0種	3種	2種	2種	2種	2種
														4種			

- 注 1) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 -本邦産野生動植物の種の現状- (無脊椎動物編Ⅰ)」(平成 5 年、環境庁)、「日本産野生生物目録 -本邦産野生動植物の種の現状- (無脊椎動物編Ⅱ)」(平成 7 年、環境庁)、「日本産野生生物目録 -本邦産野生動植物の種の現状- (無脊椎動物編Ⅲ)」(平成 10 年、環境庁)に従った。
- 2) 保全すべき種の選定基準となる法令・文献及び評価区分は前掲表 9.8-5 のとおりである。



図 9.8-7(1) 保全すべき種の確認位置 (底生動物：夏季)



図 9.8-7(2) 保全すべき種の確認位置 (底生動物：秋季)



図 9.8-7(3) 保全すべき種の確認位置 (底生動物：冬季)



図 9.8-7(4) 保全すべき種の確認位置 (底生動物：春季)

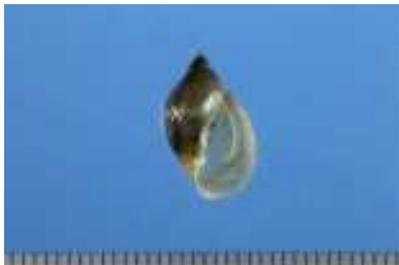
表 9.8-21(1) 保全すべき種の生態及び確認状況（底生動物）

科名	モノアラガイ科						
種名	コシダカヒメモノアラガイ						
重要性	文化財	—					
	保存法	—					
	環境省	情報不足					
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>—</td> </tr> </table>	全県	—	大宮台地	—	中川・加須低地
全県	—						
大宮台地	—						
中川・加須低地	—						
分布状況	日本各地に分布		確認個体				
形態・生息場所	<p>【形態】 殻高 5mm、殻径 25mm 前後で、殻口高は殻高の 5 割程度を占める。殻表面には微細な成長脈を刻み、殻質は薄く茶褐色である。生時は黒い軟体が透けて見えたり、泥などの付着物で被われる。軸唇のねじれは無く、狭い臍穴がある。</p> <p>【主な生息環境】水田の畦や用水路、河川等の止水的環境に生息する。</p>						
県内での生息状況	—						
現地確認状況	夏 季：綾瀬川（BA-2 地点）で 1 例が確認された。						

資料：「福岡県の希少野生生物」（福岡県ホームページ）

：「日本産淡水貝類図鑑 ②汽水域を含む全国の淡水貝類」（平成 21 年、株式会社ピーシーズ）

表 9.8-21(2) 保全すべき種の生態及び確認状況（底生動物）

科名	モノアラガイ科			
種名	モノアラガイ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	準絶滅危惧		
	埼玉県	全県	準絶滅危惧 2 型	
	大宮台地	準絶滅危惧 2 型		
	中川・加須低地	情報不足		
分布状況	北海道、本州、四国、九州		確認個体	
形態・生息場所	<p>【形態】殻高 18mm、殻径 12mm 内外。貝殻は卵形。薄質で黄褐色、半透明。体層は大きく膨らむ。螺層は 4 層。成長した個体の外唇は弓状に湾曲する。</p> <p>【主な生息環境】池沼やため池などの止水域をはじめ、河川の細流や浅瀬で挺水植物等が繁茂する水域。</p>			
県内での生息状況	台地・丘陵帯から低地帯に分布。台地や丘陵地、低山地の谷戸にみられる池沼や水田等の止水域に生息する。また荒川や支流の細流脇の池沼などにも生息する。比企丘陵や秩父地方には局所的に分布するが個体数は減少傾向である。			
現地確認状況	夏 季：綾瀬川（BA-2 地点）で 1 例が確認された。			

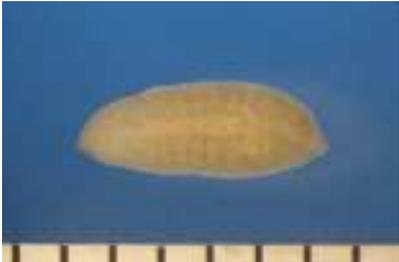
資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-21(3) 保全すべき種の生態及び確認状況（底生動物）

科名	イシガイ科			
種名	ヌマガイ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	—		
	埼玉県	全県	準絶滅危惧 2 型	
		大宮台地	準絶滅危惧 2 型	
		中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型	
分布状況	北海道、本州、四国、九州		確認個体	
形態・生息場所	<p>【形態】両殻はよく膨れ、殻質は比較的薄く壊れやすい。殻色は黒褐色から茶褐色。殻高 68mm、殻長 103mm 内外。</p> <p>【主な生息環境】河川の中流から下流、水路、湖沼、池沼など生息範囲は広い。</p>			
			確認環境	
県内での生息状況	<p>台地・丘陵帯から低地帯に分布。中川・荒川低地、比企丘陵、秩父盆地等で見られる。旧江南町（現熊谷市）や嵐山町、越生町、秩父市などに分布する。旧北川辺町（現加須市）の旧川水系にも見られたが、現在は県内各地で減少している。</p>			
現地確認状況	<p>夏 季：綾瀬川（BA-2 地点）で 1 例が確認された。</p> <p>冬 季：綾瀬川（BA-3 地点）で 1 例が確認された。</p> <p>春 季：綾瀬川（BA-1 地点）で 1 例が確認された。</p>			

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-21(4) 保全すべき種の生態及び確認状況（底生動物）

科名	グロシフォニ科			
種名	ミドリビル			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	情報不足		
埼玉県	全県	—		
	大宮台地	—		
	中川・加須低地	—		
分布状況	関東（東京都）から中部、四国、九州にかけて報告があるが、近年は高知県と琵琶湖水系から報告があるのみで現状は不明。		確認個体	
形態・生息場所	<p>【形態】 体長は最大で 20mm 程度。体色は淡緑色から淡桃黄色。体は背腹面に扁平な矛先型。体表に突起はない。眼点は 2 対。口吻先端に鉤状突起をもつ。</p> <p>【主な生息環境】 流れの緩やかな川底の石の表面や二枚貝の殻上に付着生活する。</p>			
県内での生息状況	—			
現地確認状況	<p>夏季：綾瀬川（BA-2 地点）で 1 例が確認された。</p> <p>秋季：綾瀬川（BA-1 地点）で 1 例が確認された。</p> <p>冬季：綾瀬川（BA-2 地点及び BA-3 地点）で各 1 例、計 2 例が確認された。</p>			

資料：「レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生動物- 7 その他無脊椎動物」
（環境省、平成 27 年）

ク 昆虫類

(ア) 確認種

現地調査の結果、昆虫類は表 9.8-22(1)～(9)に示す 12 目 160 科 550 種が確認された。

調査範囲の環境は、主に市街地等であり、綾瀬川沿いに草地や水田環境が存在する。また、植栽地等の樹林環境がパッチ状に分布する。

クロヤマアリやナミテントウは対象事業実施区域及び周辺で広く確認された。綾瀬川やその周辺の水田環境ではアメンボやハイイロゲンゴロウ等、草地環境ではモンキチョウやショウリョウバッタ等が確認された。また、パッチ状に分布する樹林環境では、モリチャバネゴキブリ、マルキマダラケシキスイ、アブラゼミ等が確認された。

表 9.8-22(1) 確認種一覧（昆虫類）

No.	目名	科名	種名	調査範囲													
				対象事業実施区域内					対象事業実施区域外								
				初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季	初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季				
1	トンボ	イトトンボ	アジアイトトンボ					●	●	●	●			●			
2			アオモンイトトンボ						●	●	●	●					
3		カワトンボ	ハグロトンボ	●						●	●						
4			ヤンマ	ギンヤンマ					●	●	●				●		
5		トンボ		コフキトンボ							●	●					
6				シオカラトンボ		●				●	●	●				●	
7				ウスバキトンボ								●					
8				コシアキトンボ								●					
9				アキアカネ			●					●		●			
10	ゴキブリ	ゴキブリ	ヤマトゴキブリ	●					●								
11		チャバネゴキブリ	モリチャバネゴキブリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
12	カマキリ	カマキリ	ハラビロカマキリ	●					●	●	●	●	●				
13			オオカマキリ		●		●			●		●	●				
14	バッタ	ケラ	ケラ								●	●					
15		コオロギ	ミツカドコオロギ				●					●	●				
16			モリオカメコオロギ				●	●				●	●				
17			クマコオロギ									●	●				
18			シバズ									●	●				
19			マダラスズ			●	●				●	●	●				
20			ヤチスズ										●	●			
21			エンマコオロギ								●	●	●				
22			ツツレサセコオロギ				●	●				●	●	●			
23			タンボコオロギ									●					
24			クサヒバリ	クサヒバリ	キンヒバリ							●					
25		クサヒバリ										●					
26		クマズムシ	クマズムシ									●	●				
27		カネタタキ	カネタタキ			●	●					●	●				
28		カンタン	カンタン										●				
29		キリギリス		ツユムシ										●			
30				ヒメギス												●	
31				ヤブキリ		●	●		●	●			●			●	●
32				ウスイロササキリ									●	●	●		
33				オナガササキリ											●		
34				ホシササキリ									●	●	●		
35				クビキリギス				●					●	●	●	●	●
36				オンブバッタ	オンブバッタ		●	●					●	●	●		
37	バッタ		ショウリョウバッタ	●	●	●				●	●	●					
38			ヒナバッタ		●		●				●				●		
39			ショウリョウバッタモドキ		●								●				
40			トノサマバッタ								●	●	●				
41			クルマバッタモドキ									●	●				
42			ハネナガイナゴ											●			
43			エゾイナゴ										●	●			
44			ツチイナゴ										●				
45			イボバッタ			●	●	●						●			
46			ヒシバッタ		トゲヒシバッタ											●	
47	ハネナガヒシバッタ						●				●		●				
48	ヒシバッタ				●		●						●	●			
-			ヒシバッタ科の一種									●					

表 9.8-22(2) 確認種一覧 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	調査範囲										
				対象事業実施区域内					対象事業実施区域外					
				初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季	初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季	
49	ハサミムシ	ハサミムシ	ハマバハサミムシ							●	●	●		●
50			キアシハサミムシ			●					●			
51			ヒゲジロハサミムシ	●		●	●					●	●	
52	カメムシ	ウンカ	エゾナガウンカ							●		●		
53		アオバハゴロモ	アオバハゴロモ									●		
54		ハゴロモ	ベッコウハゴロモ									●		
55		セミ	アブラゼミ		●						●			
56			ツクツクボウシ		●						●			
57			ミンミンゼミ		●						●			
58			ニイニイゼミ		●						●			
59		トゲアワフキムシ	ムネアカアワフキ											●
60		ヒロゾヨコバイ	クルミヒロゾヨコバイ							●				●
61		シダヨコバイ	シダヨコバイ							●				
62		ズキンヨコバイ	シロスズキンヨコバイ							●				
63			ズキンヨコバイ								●			
64		アオズキンヨコバイ	アオズキンヨコバイ											●
65		フクログヨコバイ	サジヨコバイ								●			
66		ブチマクヨコバイ	クサビヨコバイ							●				
67		フトヨコバイ	Pagaronia属の一種						●	●				●
68		オオヨコバイ	オオヨコバイ			●						●		
69		ヒメヨコバイ	ヒメヨコバイ科の一種			●								
70		ヨコバイ	トバヨコバイ					●		●				
71			クロミヤクイチモンジヨコバイ	●		●		●	●				●	
72			リンゴマダラヨコバイ							●				
73		キジラミ	クワキジラミ										●	●
74		アブラムシ	クリオオアブラムシ			●		●						
75			エンドウヒゲナガアブラムシ				●						●	
-			アブラムシ科の一種					●	●					
76		ワタフキカイガラムシ	オオワラジカイガラムシ				●	●						
77		アメンボ	ヒメアメンボ							●				
78			アメンボ	●						●	●	●	●	
79		メクラカメムシ	ナカグロメクラガメ							●		●		●
80			シノキクロメクラガメ						●					●
81			ツマグロアオメクラガメ						●	●	●			
82			ムギメクラガメ							●				
83			ベニヒゲボソミドリメクラガメ		●	●		●	●		●			
84			キアシクロソメクラガメ											●
85			ヒョウタンメクラガメ							●				
86			Psallus属の一種						●					
87		マキバサシガメ	ハネナガマキバサシガメ									●		
88		ハナカメムシ	Orius属の一種							●		●	●	
89		ゲンバイムシ	オオウチワゲンバイ									●		
90			プラタナスゲンバイ		●	●	●							
91			アワダチソウゲンバイ	●	●	●		●	●	●				●
92			ヘクソカズラゲンバイ			●			●	●	●			
93			ヤナギゲンバイ							●				●
94			ナシゲンバイ			●								
95			ツツジゲンバイ	●	●	●				●				
96		サンガメ	ヨコヅナサンガメ										●	
97			モモフトビイロサンガメ							●	●			●
98			アカシマサンガメ		●	●	●	●				●	●	●
99			アシマダラアカサンガメ		●							●	●	●
100			クロモンサンガメ			●	●		●	●				●
101		イトカメムシ	イトカメムシ							●				
102		ナガカメムシ	ヒメナガカメムシ		●				●		●			●
103			ブチヒラタナガカメムシ											●
104			ニッポンコバネナガカメムシ							●				
105			コバネナガカメムシ						●	●		●	●	●
106			ヒメオオメカメムシ		●				●	●	●			●
107			ヒゲナガカメムシ		●					●				●
108			オオモンシロナガカメムシ		●	●					●			
109			サビヒョウタンナガカメムシ										●	
110			モンシロナガカメムシ							●				
111			シロヘリナガカメムシ	●					●					
112			コバネヒョウタンナガカメムシ		●	●			●	●	●	●	●	●
113		ホシカメムシ	フタモンホシカメムシ		●							●		
114			クロホシカメムシ			●				●	●			
115		オオホシカメムシ	ヒメホシカメムシ		●					●	●			●
116			オオホシカメムシ									●		
117		ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ									●		
118			ホソヘリカメムシ						●	●	●			

表 9.8-22(3) 確認種一覧 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	調査範囲													
				対象事業実施区域内					対象事業実施区域外								
				初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季	初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季				
119	カメムシ	ヘリカメムシ	オオヘリカメムシ								●						
120			ホオズキカメムシ		●						●	●			●		
121			ホソハリカメムシ		●						●						
122			キバラヘリカメムシ						●								
123		ヒメヘリカメムシ	アカヒメヘリカメムシ				●				●						
124			ブチヒメヘリカメムシ												●		
125		マルカメムシ	マルカメムシ		●					●			●				
126		ツチカメムシ	マルツチカメムシ						●								
127			コツチカメムシ								●						
128			ツチカメムシ			●	●		●	●		●					
129			ミツボシツチカメムシ			●		●			●						
130		キンカメムシ	アカスジキンカメムシ			●											
131		カメムシ	ヒメクロカメムシ												●		
132			ウズラカメムシ		●						●	●			●		
133			ウシカメムシ								●						
134			ブチヒゲカメムシ								●	●					
135			キマダラカメムシ					●									
136			ナガメ								●	●		●	●		
137			トゲシラホシカメムシ								●						
138			シラホシカメムシ			●											
139			ツヤアオカメムシ										●				
140			クサギカメムシ			●		●						●			
141			ミヤマカメムシ											●			
142			ナカボシカメムシ									●					
143			アオクサカメムシ									●		●			
144			チャバネアオカメムシ			●				●	●	●				●	
145			ツノカメムシ	セアカツノカメムシ								●					
146				エサキモンキツノカメムシ								●					
147			アミメカゲロウ	ヒメカゲロウ	チャバネヒメカゲロウ											●	
148					ホソバヒメカゲロウ								●	●	●		
149				クサカゲロウ	クモンクサカゲロウ												●
150					ヨツボシクサカゲロウ								●	●	●		
151		スズキクサカゲロウ				●		●				●	●	●			●
152		ウスバカゲロウ		ウスバカゲロウ								●					
153		コウチュウ	ハンミョウ	ハンミョウ							●						
154			オサムシ	フタボシチビゴミムシ							●						
155				ヒラタキイロチビゴミムシ								●	●	●			
156				ウスモンコムズギワゴミムシ								●					
157				ヨツモンコムズギワゴミムシ												●	
158				キアシスレチゴミムシ									●	●			●
159				トックリナガゴミムシ									●			●	
160				コガシラナガゴミムシ									●	●			
161				キンナガゴミムシ									●				
162				アシミゾナガゴミムシ									●			●	
163	アオグロヒラタゴミムシ											●					
164	セアカヒラタゴミムシ												●				
165	オオヒラタゴミムシ				●								●				
166	マルガタゴミムシ									●	●				●	●	
167	オオマルガタゴミムシ											●					
168	ホシボシゴミムシ											●	●			●	
169	オオホシボシゴミムシ											●	●			●	
170	ヒメゴミムシ											●				●	
171	オオゴモクムシ												●				
172	ヒメケゴモクムシ					●	●					●	●				
173	クロゴモクムシ												●				
174	ウスアカクロゴモクムシ											●	●				
175	アカアシマルガタゴモクムシ				●	●			●					●	●		
176	キイロチビゴモクムシ										●				●		
177	ムネアカマゴモクムシ										●						
178	キボシアオゴミムシ										●						
179			ナカグロキバナクビナガゴミムシ								●						
180	ホソクビゴミムシ		ミイデラゴミムシ												●		
181	ゲンゴロウ		ハイロゲンゴロウ								●		●				
182	ガムシ		ケシガムシ		●												
183		キバリヒラタガムシ												●			
184	エンマムシ	コエンマムシ		●													
185	チビシデムシ	チビシデムシ科の一種						●						●			
186	シデムシ	オオヒラタシデムシ				●				●	●						

表 9.8-22(4) 確認種一覧 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	調査範囲										
				対象事業実施区域内					対象事業実施区域外					
				初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季	初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季	
187	コウチュウ	ハネカクシ	Anotylus属の一種				●					●		
188			Oxytelus属の一種			●		●	●			●		
189			Thinodromus属の一種					●						●
190			アシマダラメダカハネカクシ										●	
191			コクロメダカハネカクシ			●								
192			クロズトガリハネカクシ	●						●	●	●		
193			アオバアリガタハネカクシ									●		
194			キバネクビボソハネカクシ	●										
195			チビクビボソハネカクシ								●			
196			ヘリアカバコガシラハネカクシ	●										
-			Philonthus属の一種					●		●	●			
197			Sepedophilus属の一種	●										
198			Tachyporus属の一種										●	
-			ハネカクシ科の一種		●					●	●			
199	マルハナミ		Cyphon属の一種							●	●			●
200	クワガタムシ		クワガタ							●				
201	コガネムシ		クロマルエンマコガネ	●										●
202			コブマルエンマコガネ	●										
203			ヒゲブトハナムグリ					●						
204			ナガチャコガネ	●										
205			クロコガネ							●				●
206			オオクロコガネ			●			●	●				
207			アカビロウドコガネ					●						
208			ビロウドコガネ		●			●						●
209			ワタリビロウドコガネ											●
210			アオドウガネ	●	●	●			●	●				
211			セマダラコガネ	●					●					
212			コガネムシ	●					●					
213			ウスチャコガネ						●					
214			マメコガネ						●					
215			ヒラタハナムグリ					●						
216			アオハナムグリ					●						
217			コアオハナムグリ						●					●
218			シロテンハナムグリ						●	●				
219			カナブン	●					●					
220			カブトムシ							●				
221	マルトゲムシ		ドウガネツヤマルトゲムシ										●	
222			Microchaetes属の一種									●		
223	タマムシ		ムネアカチビナカボソタマムシ						●					
224			ナミガタチビタマムシ						●					●
225			ウメチビタマムシ	●					●					
226			サシゲチビタマムシ			●								
227			ヤノナミガタチビタマムシ	●		●	●							
228	コメツクムシ		マダラチビコメツク						●					
229			サビキコリ		●	●		●	●	●	●			●
230			ヒメサビキコリ	●	●			●	●	●	●			
231			ニセクチブコメツク						●		●			
232			クロツヤクシコメツク						●					●
233			アカアシオオクシコメツク						●					
234			クシコメツク	●										
235			コハナコメツク			●		●		●	●			●
236			オオハナコメツク	●										
237	ヒゲブトコメツク		ヒゲブトコメツク科の一種											●
238	ジョウカイボン		ウスチャジョウカイ										●	
239			セボシジョウカイ					●						●
-			Athemus属の一種											●
240			Podabrus属の一種					●						●
241	カツオブシムシ		ヒメマルカツオブシムシ					●						●
242	シバンムシ		ツツガタシバンムシ						●					●
243	ジョウカイモドキ		ヒロオビジョウカイモドキ						●					
244	ケンキスイ		アカマダラケシキスイ							●				
245			マルキマダラケシキスイ	●	●	●	●	●						
246			ヨツボシケシキスイ							●				
247	ホソヒラタムシ		ヒメフタゲホソヒラタムシ			●								
248	キシムシ		ウスバキシムシ			●								
249			キイロセマルキシムシ					●			●			●
250			マルガタキシムシ								●			
251	テントウムシダマシ		ヨツボシテントウムシ				●	●	●	●	●			

表 9.8-22(5) 確認種一覧 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	調査範囲												
				対象事業実施区域内					対象事業実施区域外							
				初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季	初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季			
252	コウチュウ	テントウムシ	クロツヤテントウ			●				●	●					
253			フタホシテントウ									●				
254			クロヘリヒメテントウ									●				
255			クロヒメテントウ					●					●			
256			コクロヒメテントウ					●				●				
257			ヒメアカホシテントウ						●			●				
258			モンクチビルテントウ						●	●			●			●
259			クロテントウ							●						
260			ムーアシロホシテントウ						●		●	●				
261			ナナホシテントウ						●	●	●	●	●		●	●
262			ナミテントウ						●	●	●	●	●	●	●	●
263			ジュウサンホシテントウ									●				
264			キイロテントウ									●				
265			ヒメカメノテントウ						●	●	●		●			●
266			ニジュウヤホシテントウ													●
267			コキノコムシ	チャイロコキノコムシ										●		
268			ハナノミ	ハナノミ科の一種								●				
269			カミキリモドキ	キバネカミキリモドキ								●				
270			アリモドキ	キアシクビボソムシ									●			
271				ホソクビアリモドキ						●		●				
272				ヨツボシホソアリモドキ										●	●	
273			ハナノミダマシ	クロフナガタハナノミ												●
274			ハムシダマシ	ハムシダマシ				●						●		
275				アラメヒゲトゴミムシダマシ				●	●		●					
276				ヒゲトゴミムシダマシ					●						●	
277			クチキムシ	クリイロクチキムシ								●				
278	ゴミムシダマシ	コスナゴミムシダマシ				●	●				●	●	●			
279		テントウゴミムシダマシ								●						
280		ユミアシゴミムシダマシ								●						
281		キマワリ									●					
282		スジコガシラゴミムシダマシ										●				
283	カミキリムシ	ナガゴマフカミキリ								●						
284		ゴマダラカミキリ								●						
285		キボシカミキリ										●				
286		クワカミキリ									●					
287	ハムシ	アカクビボソハムシ									●	●		●		
288		トホシクビボソハムシ												●		
289		ヤマイモハムシ									●					
290		ムナキルリハムシ													●	
291		タテスジキツツハムシ									●					
292		ツツジヨブハムシ								●						
293		アカガネサルハムシ										●				
294		アオバナサルハムシ										●				
295		ウスイロサルハムシ										●				
296		イモサルハムシ										●				
297		マダラアラゲサルハムシ									●					
298		カサハラハムシ									●				●	
299		ヒメカサハラハムシ									●					
300		マルキバナサルハムシ										●				
301		ドウガネサルハムシ									●		●		●	
302		ヨモギハムシ														
303		コガタルリハムシ									●					
304		ヤナギルリハムシ										●		●	●	
305		ハンノキハムシ										●				
306		ウリハムシモドキ										●	●			
307		ウリハムシ									●	●	●			
308		クロウリハムシ									●	●	●		●	
309		ブタクサハムシ									●	●	●			
310		ホタルハムシ									●		●			
311		サンゴジュハムシ									●		●			
312		ニレハムシ									●					
313		ヘリグロテントウノミハムシ									●					
314		アカバナカミナリハムシ										●				
315		ツブノミハムシ										●	●			
316		サメハダツブノミハムシ											●			
317		Chaetocnema属の一種												●		
318		スズキミドリトビハムシ									●				●	
319		クロボシトビハムシ										●	●	●		
-				Longitarsus属の一種							●					

表 9.8-22(6) 確認種一覧 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	調査範囲														
				対象事業実施区域内					対象事業実施区域外									
				初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季	初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季					
320	コウチュウ	ハムシ	コマルノミハムシ				●			●		●						
321			ナトビハムシ								●		●					
322			クロトゲハムシ											●				
323		ヒゲナガゾウムシ	ワタミヒゲナガゾウムシ											●				
324			クロケシツブチョッキリ													●		
325		ゾウムシ	ツチイロヒゲボソゾウムシ							●						●		
326			コカシワクチブゾウムシ								●							
327			クロホシクチブゾウムシ								●							
328			チビヒョウタンゾウムシ								●							
329			ヒレルクチブゾウムシ								●		●					
330			ホソヒメカタゾウムシ								●							
331			スグリゾウムシ								●		●					
332			サビヒョウタンゾウムシ									●					●	
333			コフキゾウムシ									●		●			●	
334			ハコベタコゾウムシ													●		
335			ツメクサタコゾウムシ														●	
336			アルファルファタコゾウムシ														●	
337			モンイネゾウムシ														●	
338			アカアシノミゾウムシ								●		●					
339			アカアシクチブサルゾウムシ									●						
340			タデノクチブサルゾウムシ										●					
341		カナムグラトゲサルゾウムシ											●					
342		キクイムシ	キクイムシ科の一種							●								
343		ハチ	ミフシハバチ	ルリチュウレンジ							●					●		
344			ハバチ	ハグロハバチ								●					●	
345				セグロカブラハバチ								●		●				
346				カブラハバチ									●		●		●	
347				Macrophya属の一種													●	
-				ハバチ科の一種													●	
348			コマユバチ	ハネグロアカコマユバチ												●		
-				コマユバチ科の一種													●	
349			ヒメバチ	ヒメキアシヒラタヒメバチ							●							
350				コキアシヒラタヒメバチ								●						
351		ムラサキウスアメバチ										●						
-	ヒメバチ科の一種									●						●		
352	アシトコバチ	アシトコバチ科の一種								●								
353	ヨツチバチ	Tiphia属の一種								●					●			
354	ツチバチ	キオビツチバチ									●							
355		ヒメハラナガツチバチ									●		●					
356		キンケハラナガツチバチ										●						
357	アリ	オオハリアリ					●				●							
358		ナカスジハリアリ													●			
359		ハリプトシリアゲアリ						●		●		●		●		●		
360		キイロシリアゲアリ						●		●		●		●				
361		ムネボツアリ								●		●						
362		ヒメアリ													●			
363		アミアリ								●		●		●		●		
364		トビイロシワアリ								●		●		●		●		
365		ウメマツアリ													●			
366		クロオオアリ														●		
367		ウメマツオオアリ										●		●		●		
368		ヨツボシオオアリ										●						
369		クロヤマアリ						●		●		●		●		●		
370		クロクサアリ						●		●								
371		トビイロケアリ								●		●		●		●		
372		カワラケアリ									●		●		●	●		
373		アメイロアリ									●		●					
374		サクラアリ								●								
375		ベッコウバチ	オオモンクベッコウ								●							
-			ベッコウバチ科の一種													●		
376	ドロバチ	ミカドツクリバチ								●								
377		ムモンツクリバチ									●							
378		ミカドドロバチ本土亜種									●							
379		オオカバフトドロバチ									●							
380		スズバチ										●						
381		カバフトドロバチ										●						

表 9.8-22(7) 確認種一覧 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	調査範囲										
				対象事業実施区域内					対象事業実施区域外					
				初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季	初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季	
382	ハチ	スズメバチ	ムモンホソアシナガバチ							●				
383			フタモンアシナガバチ	●	●					●	●			●
384			セグロアシナガバチ	●	●					●				●
385			キボシアシナガバチ								●			
386			コアシナガバチ									●		●
387			コガタスズメバチ本土亜種								●			●
388			モンズズメバチ								●	●		●
389			オオスズメバチ							●	●			
390			キイロスズメバチ									●		
391			アナバチ	アメリカジガバチ		●					●			
392		コクロアナバチ								●				
393		クロアナバチ									●			
394		イワタギンギ				●					●			
395		ナミツチスガリ									●			
396		ムカシハナバチ	マツムラチビムカシハナバチ						●					
397		コハナバチ	アカガネコハナバチ		●	●			●	●				
398			ニッポンコハナバチ							●				
399			キオビコハナバチ							●				
400			ニセキオビコハナバチ										●	
-			Lasioglossum属の一種	●									●	
401		ヒメハナバチ	コガタウツギヒメハナバチ						●					
402			ヤオイヒメハナバチ					●						
-			ヒメハナバチ科の一種								●			
403		ハキリバチ	オオハキリバチ							●				
404			バラハキリバチ							●	●			●
405			バラハキリバチモドキ								●			●
406		コシブトハナバチ	シロスジヒゲナガハナバチ						●					●
407			ニッポンヒゲナガハナバチ						●					●
408			クマバチ			●			●	●	●	●		
409		ミツバチ	ニホンミツバチ							●				
410			セイウミツバチ							●				
411			ダイショウキマダラハナバチ						●			●		
412			キオビツヤハナバチ						●					
413		ハエ	ガガンボ	ベッコウガガンボ							●			
-				ガガンボ科の一種						●		●	●	
414		チョウバエ	チョウバエ科の一種							●				
415		カ	ヒトスジシマカ	●	●	●				●	●	●		
416			Culex属の一種					●						
417		ユスリカ	ユスリカ科の一種	●		●	●	●	●		●	●	●	
418		ケバエ	メスアカケバエ					●					●	
-			Bibio属の一種			●								
419			ヒメセアカケバエ											●
420	ミズアブ	Beris属の一種											●	
421		ハラキンミズアブ							●					
422		コウカアブ			●					●				
423		ルリミズアブ									●			
-		ミズアブ科の一種							●					
424	アブ	Tabanus属の一種								●				
425	ツリアブ	ビロウトツリアブ				●						●		
426	ムシヒキアブ	ホソムシヒキ						●	●					
427		アオメアブ							●	●				
428		マカリケムシヒキ	●						●	●			●	
429		サキグロムシヒキ											●	
430	アシナガバエ	マダラアシナガバエ							●					
431		Dolichopus属の一種	●											
432	ハナアブ	クロヒラタアブ											●	●
433		Epistrophe属の一種							●					
434		ホソヒラタアブ			●	●	●	●			●	●	●	
435		エゾコヒラタアブ				●	●						●	
436		ナミホシヒラタアブ				●	●			●	●	●	●	
437		ミナミヒメヒラタアブ											●	
438		ホソヒメヒラタアブ	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
439		マガイヒラタアブ					●						●	
440		ツヤヒラタアブ					●				●	●	●	
441		キアシマメヒラタアブ								●		●	●	
442		シママメヒラタアブ								●	●	●		
443		Eumerus属の一種						●	●	●	●	●	●	
444		キゴシハナアブ			●						●			
445		シマハナアブ				●	●							●

表 9.8-22(8) 確認種一覧 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	調査範囲														
				対象事業実施区域内					対象事業実施区域外									
				初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季	初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季					
446	ハエ	ハナアブ	キョウコシマハナアブ									●						
447			アシトハナアブ									●	●	●				
448			スイセンハナアブ												●			
449			シマアシトハナアブ												●			
450		ナガズヤセバエ	ホシアシナガヤセバエ									●						
451		ミバエ	ミスジミバエ				●											
452			ヒラヤマアミメケバカミバエ								●							
-			ミバエ科の一種											●				
453		ヤチバエ	ヒゲナガヤチバエ									●	●	●	●			
454		ベッコウバエ	ベッコウバエ												●			
455		ツヤホソバエ	ヒトテソツヤホソバエ											●				
456		キモグリバエ	キモグリバエ科の一種					●										
457		ミギワバエ	ミギワバエ科の一種										●	●				
458		ショウジョウバエ	Drosophila属の一種					●	●	●	●	●		●	●			
459		ヒゲアトコバエ	クロメマトイ												●			
460		イエバエ	ヒメセマダライエバエ											●				
461			ヘリグロヒメハナバエ											●	●			
-			イエバエ科の一種						●	●					●			
462		クロバエ	Lucilia属の一種												●	●		
463			オオクロバエ													●		
464			ホホグロオビキンバエ													●		
465			ツマグロキンバエ												●	●		
-			クロバエ科の一種													●		
466		ニクバエ	ホリニクバエ													●		
467			シリグロニクバエ												●			
468			ナミニクバエ											●				
-			ニクバエ科の一種												●	●		
469		ヤドリバエ	Ctenophorinia属の一種													●		
470			ルリハリバエ												●			
-			ヤドリバエ科の一種												●	●		
471		トビケラ	シマトビケラ	シマトビケラ科の一種											●			
472		チョウ	マガリガ	ベニオビヒゲナガ												●		
473			ハマキガ	ハマキガ科の一種												●		
474			ヒロズコガ	マダラマルハヒロズコガ												●		
475			マダラガ	ホタルガ												●		
476			イラガ	イラガ科の一種												●	●	
477			メイガ	ツトガ												●		
478				ニカメイガ														●
479				シロスジツトガ														●
480				シロエグリツトガ														●
481				モンキクロノメイガ													●	
482				シロオビノメイガ													●	
483				マメノメイガ													●	
484				ユウグモノメイガ														●
485				クロスジキンノメイガ													●	
486				ヒメマダラミズメイガ													●	
487	Endotricha属の一種															●		
-	メイガ科の一種														●			
488	トリバガ		オダマキトリバ												●			
489	セセリチョウ		イチモンジセセリ												●	●		
490			チャバネセセリ												●	●		
491			キマダラセセリ													●		
492	アゲハチョウ		アオスジアゲハ													●		
493			キアゲハ													●		
494			ナガサキアゲハ													●		
495			クロアゲハ本土亜種													●		
496			ナミアゲハ													●	●	
497			シロチョウ	モンキチョウ												●	●	
498	キチョウ													●	●			
499	モンシロチョウ													●	●			
500	シジミチョウ	ルリシジミ												●				
501		ツバメシジミ													●			
502		ウラナシジミ													●			
503		ベニシジミ													●	●		
504		ムラサキツバメ													●	●		
505		ヤマトシジミ本土亜種													●	●		
506	ウラギンシジミチョウ	ウラギンシジミ												●				

表 9.8-22(9) 確認種一覧 (昆虫類)

No.	目名	科名	種名	調査範囲											
				対象事業実施区域内					対象事業実施区域外						
				初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季	初夏 季	夏 季	秋 季	早 春 季	春 季		
507	チョウ	タテハチョウ	コムラサキ								●				
508			ツマグロヒョウモン	●	●	●				●	●	●			●
509			ヒメアカタテハ							●	●	●			
510			アカホシゴマダラ			●		●		●	●	●			
511			ゴマダラチョウ								●	●			
512			イチモンジチョウ									●			
513			コムスジ									●			
514			キタテハ			●	●				●	●	●		●
515			ジャノメチョウ	ヒカゲチョウ	●		●				●		●		
516				ヒメジャノメ							●		●		
517				サトキマダラヒカゲ	●						●	●			
518				ヒメウラナミジャノメ										●	
519			シヤクガ	Scopula属の一種								●			
520				ウスベニスジヒメシヤク			●								●
521		ウメエダシヤク									●				
522		ヒロオビトンボエダシヤク									●				
523		カレハガ	オビカレハ											●	
524		カイコガ	クワコ	●											
525		スズメガ	ホシホウジャク			●						●			
526			セスジスズメ	●	●	●									
527		ドクガ	マイマイガ	●											
528		カノコガ	カノコガ							●					
529		ヤガ	ツメクサガ									●		●	
530			タマナヤガ								●				
531			カブラヤガ											●	
532			オオバコヤガ						●						
533			クサシロキヨトウ										●		
534			マメチャイロキヨトウ	●											
535			フタテンキヨトウ												●
-				Aletia属の一種								●			
536			アヤモクメキリガ												●
537			シロテンウスグロトウ						●						●
538			テンウスイロトウ								●				
539			シマキリガ								●				
540			マエテンヨトウ										●		
541			スジキリヨトウ												●
542			シロスジアオトウ						●		●				●
543			フサヤガ								●				
544			イラクサギンウワバ			●									
545			ナカグロクチバ									●			
546			ウンモンクチバ									●	●		
547			キマダラアツバ	●											
548		リンゴツマキリアツバ						●							
549		オオシラナミアツバ								●				●	
550		ウラジロアツバ										●		●	
計		12目	160科	550種	96種	90種	116種	55種	126種	229種	184種	201種	75種	157種	
					280種					470種					

注) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 -本邦産野生動植物の種の現状- (無脊椎動物編 II)」(平成7年、環境庁)に従った。

(イ) 保全すべき種

現地調査の結果、保全すべき種は、クマコオロギ、オナガササキリ、ヒナバッタ、ショウリョウバッタモドキ、ハネナガイナゴ及びモンズズメバチの6種が確認された。保全すべき種一覧は表9.8-23、調査季節別の保全すべき種の確認位置は図9.8-8(1)～(4)、保全すべき種の生態及び確認状況は表9.8-24(1)～(6)に示すとおりである。

表 9.8-23 保全すべき種一覧（昆虫類）

No.	目名	科名	種名	対象事業実施区域		保全すべき種の選定基準									
						文化財保護法	種の保存法	埼玉県文化財	埼玉県保護条例	2019 環境省RL	埼玉県RDB 2018				
				内	外						大宮台地	須川・加 低地	全県		
1	バッタ	コオロギ	クマコオロギ		●							NT1	NT2	NT1	
2		キリギリス	オナガササキリ		●							VU	NT2	RT	
3		バッタ	ヒナバッタ		●								VU	VU	NT1
4			ショウリョウバッタモドキ		●								NT1	NT2	NT2
5			ハネナガイナゴ		●								EN	VU	NT1
6	ハチ	ズズメバチ	モンズズメバチ	●	●						DD				
計	2目	4科	6種	3種	6種	0種	0種	0種	0種	1種		5種	5種	5種	
				6種		6種									

注1) 種名・配列は、基本的に「日本産野生生物目録 - 本邦産野生動物の種の現状 - (無脊椎動物編Ⅱ)」(平成7年、環境庁)に従った。

2) 保全すべき種の選定基準となる法令・文献及び評価区分は前掲表9.8-5のとおりである。



図 9.8-8(1) 保全すべき種の確認位置 (昆虫類：初夏季)



図 9.8-8(2) 保全すべき種の確認位置 (昆虫類：夏季)



図 9.8-8(3) 保全すべき種の確認位置 (昆虫類：秋季)



図 9.8-8(4) 保全すべき種の確認位置 (昆虫類：春季)

表 9.8-24(1) 保全すべき種の生態及び確認状況（昆虫類）

科名	コオロギ科			
種名	クマコオロギ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	—		
埼玉県	全県	準絶滅危惧 1 型		
	大宮台地	準絶滅危惧 1 型		
	中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型		
分布状況	本州、四国、九州		確認個体	
形態・生息場所	<p>【形態】体長は雌雄とも 12mm 程度。体色は黒くて光沢がある。脚は橙色。</p> <p>【主な生息環境】湿地周辺等の常に湿潤な草地環境に生息する。</p>			
県内での生息状況	<p>低地帯から台地・丘陵帯にかけて生息し、湿地周辺や休耕田などの湿潤な環境で見られる。低山帯に位置する秩父市上影森でも生息が確認された。中川・加須低地などでは広範囲に生息していたものが、耕作地の乾燥化などにより局所的となっている。</p>			
現地確認状況	<p>夏季：対象事業実施区域外の草地 3 箇所計 8 例が確認された。</p> <p>秋季：対象事業実施区域外の草地で 14 例、綾瀬の森の林床の草地 2 箇所計 2 例が確認された。</p>			

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-24(2) 保全すべき種の生態及び確認状況（昆虫類）

科名	キリギリス科		—	
種名	オナガササキリ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	—		
	埼玉県	全県		地帯別危惧
	大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類		
	中川・加須低地	準絶滅危惧Ⅱ型		
分布状況	本州、四国、九州、南西諸島		確認個体	
形態・生息場所	<p>【形態】翅端までの体長はオス 20～26mm、メス 24～30mm。産卵器は際立って長く、翅端を越える。</p> <p>【主な生息環境】やや丈の高い明るい草地に生息する。おもに乾燥した草地で見られるが、時に水田内にも侵入する。</p>		 <p style="text-align: center;">確認環境</p>	
県内での生息状況	低地帯から低山帯にかけて分布するが、全体的に県北部に偏った分布域を持ち県南では少ない種である。台地・丘陵帯においては現在も安定して生息していると考えられるが、低地帯においては生息地が比較的限定され、近年の記録が無い。			
現地確認状況	秋 季：対象事業実施区域外の草地で 1 例（鳴き声）が確認された。			

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-24(3) 保全すべき種の生態及び確認状況（昆虫類）

科名	バッタ科			
種名	ヒナバッタ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	—		
	埼玉県	全県	準絶滅危惧Ⅰ型	
		大宮台地	絶滅危惧Ⅱ類	
		中川・加須低地	絶滅危惧Ⅱ類	
分布状況	北海道、本州、四国、九州			確認個体
形態・生息場所	<p>【形態】翅端までの体長はオス 17～23mm、メス 24～30mm。前翅前縁は広がらず後脚膝部は黒化しない。</p> <p>【主な生息環境】日当たりの良い草地に生息する。乾燥した裸地に近い低茎草地を好むが、より発達した草地でも生息しており、適応環境は幅広い。</p>			
県内での生息状況	<p>県内では県北部に偏った分布域を持ち、造成地や河川敷の乾燥した低茎草地で多く見られるが、南部で局地的。県央部から南東部にかけて、ほとんど生息が見られない空白域がある。近年各地で生息地の増加が見られるが注視が必要。</p>			確認環境
現地確認状況	<p>初夏：対象事業実施区域内で 1 例、対象事業実施区域外の 1 箇所 で 2 例の計 3 例が確認された。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域内の草地で 1 例が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の草地 3 箇所 で計 23 例が確認された。</p>			

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-24(4) 保全すべき種の生態及び確認状況（昆虫類）

科名	バッタ科			
種名	ショウリョウバッタモドキ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	—		
埼玉県	全県	準絶滅危惧 2 型		
	大宮台地	準絶滅危惧 1 型		
	中川・加須低地	準絶滅危惧 2 型		
分布状況	本州、四国、九州、南西諸島		確認個体	
形態・生息場所	<p>【形態】翅端までの体長はオス 27～35mm、メス 45～57mm。体色は淡緑色か褐色で、背面は淡紅色。</p> <p>【主な生息環境】イネ科草本の草原に生息するが特にチガヤ群落を好む。草本類に縦に止まり静止していることが多く、生態はイナゴ類やササキリ類に類似している。造成地などの一時的に形成された草地環境で、短期的な発生のおち移動することが多い。</p>			
県内での生息状況	<p>県内では台地・丘陵帯からの記録が比較的多い。狭山丘陵の一部等では継続した発生が見られる。大宮台地の荒川河川敷などにも生息するが、局所的で連続的ではない。発生地では時に群生している。</p>			
現地確認状況	<p>初夏季：対象事業実施区域内で幼虫 1 例が確認された。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域外の草地 2 箇所計 5 例が確認された。</p>			

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-24(5) 保全すべき種の生態及び確認状況（昆虫類）

科名	バッタ科							
種名	ハネナガイナゴ							
重要性	文化財	—						
	保存法	—						
	環境省	—						
	埼玉県	<table border="1"> <tr> <td>全県</td> <td>準絶滅危惧Ⅰ型</td> </tr> <tr> <td>大宮台地</td> <td>絶滅危惧ⅠB類</td> </tr> <tr> <td>中川・加須低地</td> <td>絶滅危惧Ⅱ類</td> </tr> </table>	全県	準絶滅危惧Ⅰ型	大宮台地	絶滅危惧ⅠB類	中川・加須低地	絶滅危惧Ⅱ類
全県	準絶滅危惧Ⅰ型							
大宮台地	絶滅危惧ⅠB類							
中川・加須低地	絶滅危惧Ⅱ類							
分布状況	本州（北限は秋田県・岩手県南部）、四国、九州、南西諸島							
形態・生息場所	<p>【形態】翅端までの体長はオス 17～34mm、メス 21～40mm。翅は長く、翅端に向かってやや幅広くなる。</p> <p>【主な生息環境】水田やその周辺などの湿性草地に生息する。</p>							
県内での生息状況	本種は古くは各地に広く分布していたものが 1960 年ごろを境に急速に減少した。近年になり各地で生息地及び生息個体数が増加している状況である。		確認個体					
現地確認状況	秋 季：対象事業実施区域外の草地で 1 例が確認された。		確認環境					

資料：「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年、埼玉県）

表 9.8-24(6) 保全すべき種の生態及び確認状況（昆虫類）

科名	スズメバチ科			
種名	モンスズメバチ			
重要性	文化財	—		
	保存法	—		
	環境省	情報不足		
	埼玉県	全県	—	
		大宮台地	—	
		中川・加須低地	—	
分布状況	北海道、本州、佐渡島、四国、九州		確認个体	
形態・生息場所	<p>【形態】コガタスズメバチよりわずかに大きい程度。前胸背板上面、第1腹背板の大部分は赤褐色、腹部の斑紋は♀、♂、働き蜂間で変異が多い。</p> <p>【主な生息環境】樹洞、天井裏、壁間、戸袋などの閉鎖的な場所に営巣し、おもにセミを狩る。</p>			
県内での生息状況	—		確認環境	
現地確認状況	<p>夏 季：対象事業実施区域内の樹林で1例、対象事業実施区域外の草地で1例の計2例が確認された。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域外の草地2箇所計2例が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の草地で1例、綾瀬の森の水際の草で1例の計2例が確認された。</p>			

資料：「レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生動物- 5 昆虫編」（平成27年、環境省）
 ：「愛媛県レッドデータブック 愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物」（愛媛県ホームページ）

9.8.2 予測

(1) 工事の実施及び施設の存在に伴う動物への影響

1) 予測内容

建設機械の稼働、資材運搬等の車両の走行、造成等の工事の実施及び施設の存在に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度及びその他の生息環境への影響の程度を予測した。

2) 予測地域・地点

予測地域は、現地調査における調査範囲と同様の範囲とした。

予測地点は、予測地域全域とした。

なお、対象事業実施区域内における造成工事の範囲（改変される範囲）は、図 9.8-9 に示すとおりである。

3) 予測対象時期等

工事中については、保全すべき種への影響が最大と考えられる時期として、造成工事の範囲が最大となる時期とした。

存在・供用時については、保全すべき種への影響を的確に把握できる時期として、新施設の供用時の周辺環境が安定した時期とした。

4) 予測方法

工事中については、本工事計画に基づき保全すべき種の生息環境の変化の程度を把握したうえで、類似事例または既存知見を参考にして定性的に予測した。

存在・供用時については、本事業計画に基づき植生及び地形の改変内容と保全すべき種の生息確認位置との重ね合わせ等により定量的に予測した。

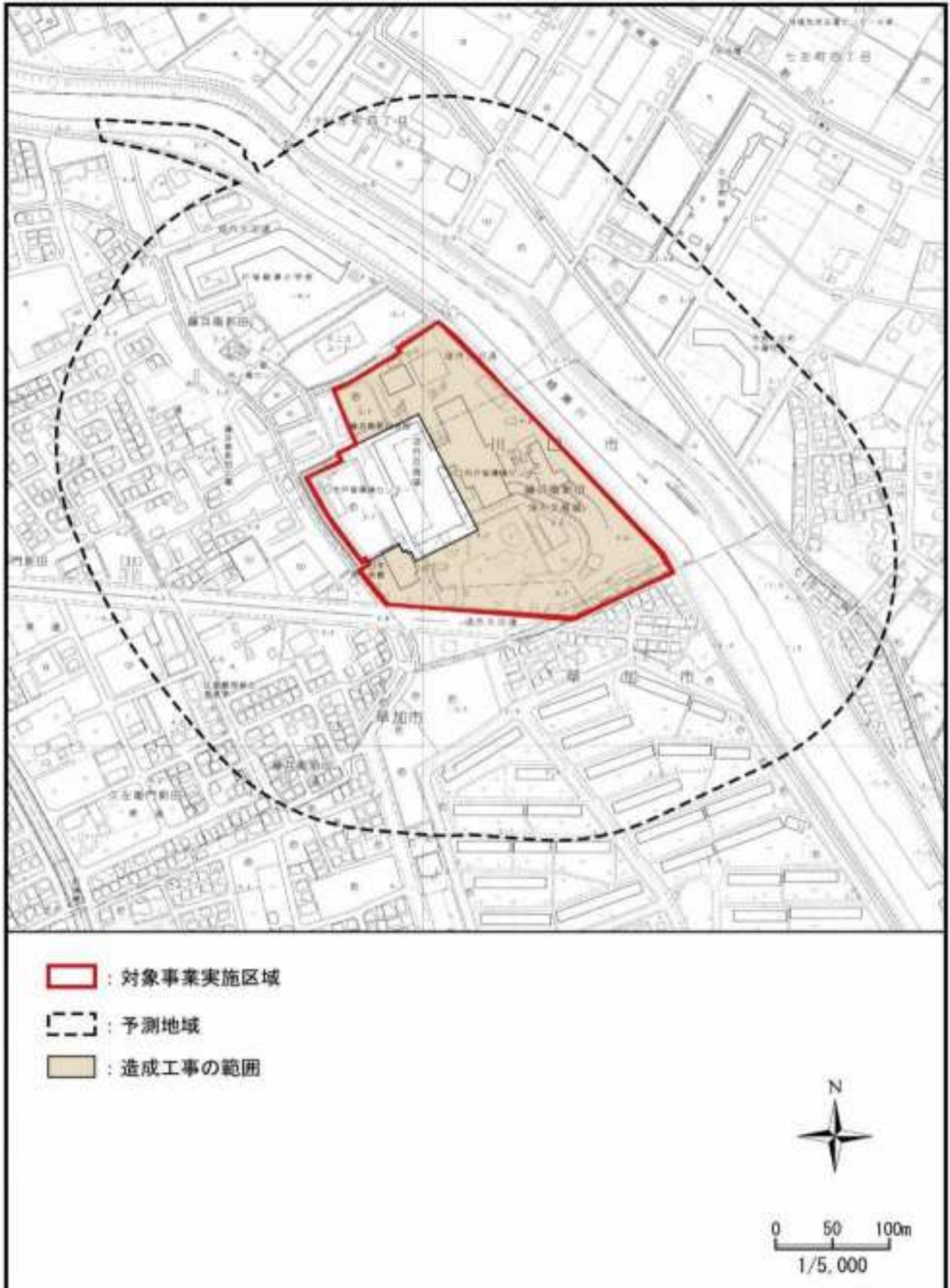


図 9.8-9 予測地域及び造成工事の範囲

5) 予測条件

ア 工事中の環境保全計画

建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に関連する騒音・振動対策、水質汚濁防止対策等の工事中の環境保全計画は前掲「第2章対象事業の目的及び概要 2.3 対象事業の概要 (5) 工事の概要 3) 工事に係る環境保全計画」に示すとおりである。

イ 存在・供用時の環境保全計画

(ア) 緑化計画

供用後の緑化計画は、前掲「第2章対象事業の目的及び概要 2.3 対象事業の概要 (4) 対象事業で整備する施設の概要 14) 緑化計画」に示すとおりである。

6) 予測結果

ア 動物の生息環境の変化

動物種において、本事業で想定される影響の概要は、表 9.8-25 に示すとおりである。

表 9.8-25 本事業で想定される影響の概要

影響の種類	想定される影響	工事中	存在・供用時	影響要因	影響を受ける生息環境
直接的な影響	生息環境の消失	○	△	(工事中) ・造成等の工事 (存在・供用時) ・施設の存在	・工事中は、対象事業実施区域内の動物種の個体の消失や生息環境の面積減少といった直接的な影響が想定される。 ・存在・供用時は、「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準」(平成18年3月)に記載された在来種を中心に植栽され、高木、中・低木を組み合わせ多層構造となるように植樹し、現況と同様の状況になることから、生息環境を代償できると考えられ、影響は小さいと考えられる。
間接的な影響	移動経路の分断	△	/	(工事中) ・資材運搬等の車両の走行	・工事中は、資材運搬等の車両の走行により車両が増加し、移動経路の分断が生じる。なお、工事中の環境保全計画によると、工事車両の走行に関する環境保全対策について徹底することが示されていることから、これらの低減措置の徹底により工事中の影響は小さいものと考えられる。
	騒音・振動	△	/	(工事中) ・建設機械の稼働 ・資材運搬等の車両の走行 ・造成等の工事	・工事中は、建設機械の稼働、資材運搬等の車両の走行により、騒音・振動が発生する。騒音・振動により対象事業実施区域及びその周辺の利用を一時的に忌避する可能性がある。工事中の環境保全計画の騒音振動対策を徹底することで影響が低減され、間接的な影響は小さいと予測される。
	水質の変化	—	/	(工事中) ・造成等の工事	・工事中は濁水が発生するが、仮設沈砂槽等により、土粒子を沈降させ、上澄みを排水する計画である。仮設沈砂槽等を経由した排水の水質(SS)は、綾瀬川の現地調査結果の水質と同程度以下にすることから、「埼玉県条例施行規則の排水基準」を遵守でき、綾瀬川の水質(SS)を悪化させない。また、工事中に発生するアルカリ排水及び有害物質の汚染のおそれある地下水は公共下水道に排水することから、綾瀬川の水質を悪化させない。したがって、間接的な影響はないと考えられる。
	光環境の変化	×	×	(存在・供用時) ・施設の存在	・使用建設機械の稼働時間及び資材運搬等の車両の運行時間は原則として午前7時から午後6時までの時間であることから、夜間の照明による光環境の変化に伴う動物の生息環境への影響はないか、あっても極めて小さいと考えられる。 ・高層建築物の建設予定はなく、対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設けるため、夜間の照明による光環境の変化は少なく、動物の生息環境に影響を及ぼさないか、あっても影響は極めて小さいと考えられる。

注) 表中の凡例

- ：影響が想定される。
- △：影響はあるが、最大となる影響は一時的であり、影響は小さいと考えられる。もしくは、工事計画や事業計画から、影響は小さいと考えられる。
- ×
- ：影響はないと考えられる。

イ 各種の予測結果

保全すべき種の予測結果の概要は表 9.8-26(1)～(2)に、保全すべき種ごとの予測結果は表 9.8-27(1)～(39)に示すとおりである。

表 9.8-26(1) 保全すべき種の予測結果の概要

分類	種名	保全すべき種 選定根拠	確認例数		主な生息環境の面積			影響の 大きさ
			対象事業実施区域		現況 (ha)	消失 (ha)	割合 (%)	
			内	外				
鳥類 (猛禽類含む)	チュウサギ	環境省：NT 埼玉県：NT2/NT2/VU（繁殖）	0	1	3.8	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	△
	コサギ	埼玉県：NT2/NT2/NT2（繁殖）	0	3	3.8	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	△
	トビ	埼玉県：DD/-/DD（繁殖）	1	1	34.0	3.8	11.2	△
	オオタカ	環境省：NT 埼玉県：VU/VU/VU（繁殖） NT2/VU/VU（越冬）	0	1	9.6	0.9	9.4	△
	チョウゲンボウ	埼玉県：NT2/NT2/NT2（繁殖）	27	30	29.4	2.8	9.5	△
	クイナ	埼玉県：VU/VU/VU（越冬）	0	1	3.8	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	△
	バン	埼玉県：NT2/NT2/NT2（繁殖）	0	8	1.7	0	0	△
	オオバン	埼玉県：NT1/NT1/NT1（繁殖）	0	49	2.3	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	△
	イソシギ	埼玉県：VU/VU/VU（繁殖）	0	2	2.3	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	△
	タシギ	埼玉県：NT2/NT2/RT（越冬）	0	1	1.7	0	0	△
	コアジサシ	環境省：VU 埼玉県：CR/CR/CR（繁殖）	0	2	2.3	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	△
	カワセミ	埼玉県：LP/LP/RT（繁殖）	0	10(3) ^{注4)}	2.3	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	△
	ウグイス	埼玉県：-/-/RT（繁殖）	0	1	11.3	1.0	8.8	△
	オオヨシキリ	埼玉県：NT2/NT2/NT2（繁殖）	0	4	0.2	0	0	△
	ホオジロ	埼玉県：NT2/NT2/RT（繁殖）	0	10	9.6	1.0	10.4	△
	アオジ	埼玉県：-/-/DD（繁殖）	0	6	33.3	3.8	12.2	△
	コムクドリ	埼玉県：-/-/DD（繁殖）	0	1	3.8	1.0	26.3	△
	ツミ	埼玉県：NT2/NT2/NT2（繁殖）	1	0	3.8	1.0	26.3	×
	ハイタカ	環境省：NT 埼玉県：-/-/DD（繁殖） VU/VU/NT2（越冬）	1	1	11.3	1.0	8.8	×
サシバ	環境省：VU 埼玉県：EX/EX/CR（繁殖）	2	6	11.3	1.0	8.8	×	
ハヤブサ	環境省：VU 埼玉県：VU/VU/VU（越冬）	2	2	7.5	0	0	△	
爬虫類	カナヘビ	埼玉県：NT2/NT2/RT	2	11	11.3	1.0	8.8	△
	シマヘビ	埼玉県：VU/VU/VU	0	2	7.5	0	0	△
	アオダイショウ	埼玉県：NT1/NT2/NT2	0	2	34.0	3.8	11.2	△
両生類	アズマヒキガエル	埼玉県：NT1/NT1/NT1	1	50	13.6	1.0 ^{注3)}	7.4 ^{注3)}	△
	トウキョウダルマガエル	環境省：NT 埼玉県：VU/NT1/NT1	0	14	4.0	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	△
魚類	ウナギ	環境省：EN 埼玉県：NT2	0	2	3.8	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	×
	ドジョウ	環境省：NT	0	2	3.8	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	×
	メダカ	環境省：VU 埼玉県：NT2	0	3	3.8	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	×

表 9.8-26(2) 保全すべき種の予測結果の概要

分類	種名	保全すべき種 選定根拠	確認例数		主な生息環境の面積			影響の 大きさ
			対象事業実施区域		現況 (ha)	消失 (ha)	割合 (%)	
			内	外				
底生動物	コシダカヒメモノ アラガイ	環境省：DD	0	1	3.8	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	×
	モノアラガイ	環境省：NT 埼玉県：NT2/DD/NT2	0	1	2.3	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	×
	ヌマガイ	埼玉県：NT2/NT2/NT2	0	3	2.3	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	×
	ミドリビル	環境省：DD	0	4	2.3	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	×
昆虫類	クマコオロギ	埼玉県：NT1/NT2/NT1	0	24	7.5	0	0	△
	オナガササキリ	埼玉県：VU/NT2/RT	0	1	7.5	0	0	△
	ヒナバッタ	埼玉県：VU/VU/NT1	2	25	5.8	0	0	△
	ショウリョウバッタ タモドキ	埼玉県：NT1/NT2/NT2	1	5	5.8	0	0	△
	ハネナガイナゴ	埼玉県：EN/VU/NT1	0	1	1.7	0	0	△
	モンズズメバチ	環境省：DD	1	5	25.8	3.8	14.7	△

- 注 1) 保全すべき種の選定根拠となる法令・文献及び評価区分は前掲表 9.8-5 のとおりである。
 2) 保全すべき種の選定根拠のうち、埼玉県の評価区分については、大宮台地/中川・加須低地/全県の順で記載している。
 3) 変更区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、変更区域内の生息環境から除外した。
 4) 括弧内の数値は営巣箇所数を示す。
 5) 表中の凡例
 ○：影響が想定される。
 △：影響はあるが、最大となる影響は一時的であり、影響は小さいと考えられる。もしくは、工事計画や事業計画から、影響は小さいと考えられる。
 ×：本事業では影響は限定的であり、影響は極めて小さいと考えられる。
 ー：影響はないと考えられる。

表 9.8-27(1) 保全すべき種の予測結果 (チュウサギ)

項目	内容					
主な生息環境	水田、河川、沼地、干潟等の水辺に棲む。					
	予測地域 (ha)	3.8	変更区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する消失の割合 (%)	0 ^{注)}
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川上空を飛行する 1 例が確認された。					
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	1 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 1 例が確認された。採餌や繁殖を示す行動はみられなかったこと、本種の主な生息環境は、水田、河川、沼地、干潟等の水辺であることから、対象事業実施区域周辺を生息環境の一部として利用している可能性が考えられる。</p> <p>対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、変更区域内に本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減される。また、本種は移動能力が大きいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられる。したがって、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					
確認位置						
<p> ▭ : 対象事業実施区域 : 予測地域 環境類型区分 : 樹林地 : 乾生草地 : 湿性湿地 : 市街地など : 開放水域 ➡ : チュウサギ確認位置 (春季) <small>注) () 内の数字は、確認例数を示す。</small> </p>						

注) 変更区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、変更区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(2) 保全すべき種の予測結果 (コサギ)

項目	内容					
主な生息環境	水田、河川、湖沼、干潟、湿地で見られ主に小魚を捕る。					
	予測地域 (ha)	3.8	変更区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する消失の割合 (%)	0 ^{注)}
現地確認状況	対象事業実施区域外の水田横の水路で 1 例、対象事業実施区域外の綾瀬川付近を飛行する 1 例、綾瀬川東側の水路内で 1 例が確認された。					
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	3 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 3 例が確認された。採餌や繁殖を示す行動はみられなかったこと、本種の主な生息環境は、水田、河川、湖沼、干潟、湿地であることから、対象事業実施区域周辺を生息環境の一部として利用している可能性が考えられる。</p> <p>対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、変更区域内に本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減される。また、本種は移動能力が大きいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられる。したがって、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					

確認位置



注) 変更区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、変更区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(3) 保全すべき種の予測結果（トビ）

項目	内容					
主な生息環境	平地から高山にかけて市街地、海岸、湖沼等の幅広い場所で見られる。					
	予測地域 (ha)	34.0	改変区域内 (ha)	3.8	予測地域に対する 消失の割合 (%)	11.2
現地確認状況	対象事業実施区域内及び実施区域外の上空を飛行する 1 例が確認された。					
	対象事業 実施区域内	1 例	対象事業 実施区域外	1 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域及びその周辺の上空で飛翔が 1 例確認された。採餌や繁殖を示す行動はみられなかったことから、本種は対象事業実施区域周辺を生息環境の一部として利用している可能性が考えられる。</p> <p>造成工事により生息環境の一部が消失するが (3.8ha)、そのほとんどが市街地であり (2.8ha)、採餌環境となりうる草地等の改変はない。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されると考えられる。また、本種は移動能力が大きいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられる。したがって、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できるとともに、現在と同様の状況が維持されることで生息環境を代償できると考えられることから、供用時における影響は小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境（採餌環境を含む）の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					
確認位置						
<p> : 対象事業実施区域 : 予測地域 環境類型区分 : 樹林地 : 乾生草地 : 湿性湿地 : 市街地など : 開放水域 ● : トビ確認位置 (冬季) 注) () 内の数字は、確認例数を示す。 </p>						

表 9.8-27(4) 保全すべき種の予測結果（オオタカ）

項目	内容				
主な生息環境	平地から山地の林や農耕地などに生息する。現在は市街地のさほど大きくない林で営巣するものもいる。				
	予測地域 (ha)	9.6	改変区域内 (ha)	0.9	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の側上空で、ハンティングを行う幼鳥 1 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	1 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外の草地でハンティングが 1 例確認された。採餌行動が確認されたことから、本種は対象事業実施区域周辺を生息環境の一部として利用し、草地等を採餌環境としている可能性が考えられる。</p> <p>造成工事により生息環境である樹林地の一部が一時消失するが、緑地整備の実施により、供用時には現在と同様の状況が維持され、生息環境を代償できることから影響は小さいと考えられる。また、造成工事及び施設の存在により採餌環境である草地等の改変はない。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されると考えられる。また、本種は移動能力が大きいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境（採餌環境を含む）の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置



表 9.8-27(5) 保全すべき種の予測結果 (チョウゲンボウ)

項目	内容				
主な生息環境	<p>本来の営巣地は絶壁等のくぼみである。採食環境として原野や草地等の開けた場所を好む。埼玉県内では、1980年代頃より、低地帯の高架橋や取水塔のような人工建造物に営巣するようになり、市街地でもよく見られるようになった。</p>				
	予測地域 (ha)	29.4	変更区域内 (ha)	2.8	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	<p>対象事業実施区域内では、戸塚環境センター屋上で交尾や爪合わせディスプレイ等が確認されたが、戸塚環境センターやその近傍において営巣は確認されなかった。また、対象事業実施区域北側のテニスコートや綾瀬川周辺の農地においてハンティングが確認された。</p>				
	対象事業実施区域内	27例	対象事業実施区域外	30例	
予測結果	<p>戸塚環境センターやその近傍において営巣は確認されなかったが、対象事業実施区域内で交尾や爪合わせディスプレイ等が確認された。また、対象事業実施区域北側のテニスコートや綾瀬川周辺の農地においてハンティングが確認された。本種の確認状況から、対象事業実施区域及び周辺を営巣環境や採餌環境の一部として利用している可能性が考えられる。</p> <p>造成工事により営巣環境の一部が一時消失するが、対象事業実施区域内で営巣が確認されなかったこと、対象事業実施区域周辺には営巣環境となりうる人工構造物が存在することから、予測地域における営巣環境への影響は小さいと考えられる。また、造成工事及び施設の存在により採餌環境である草地等の改変はない。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されると考えられる。また、本種は移動能力が大きいいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できるとともに、現在と同様の生息環境が確保されることで生息環境を代償できると考えられることから、供用時における影響は小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境（採餌環境を含む）の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置

【鳥類調査】



【猛禽類調査】

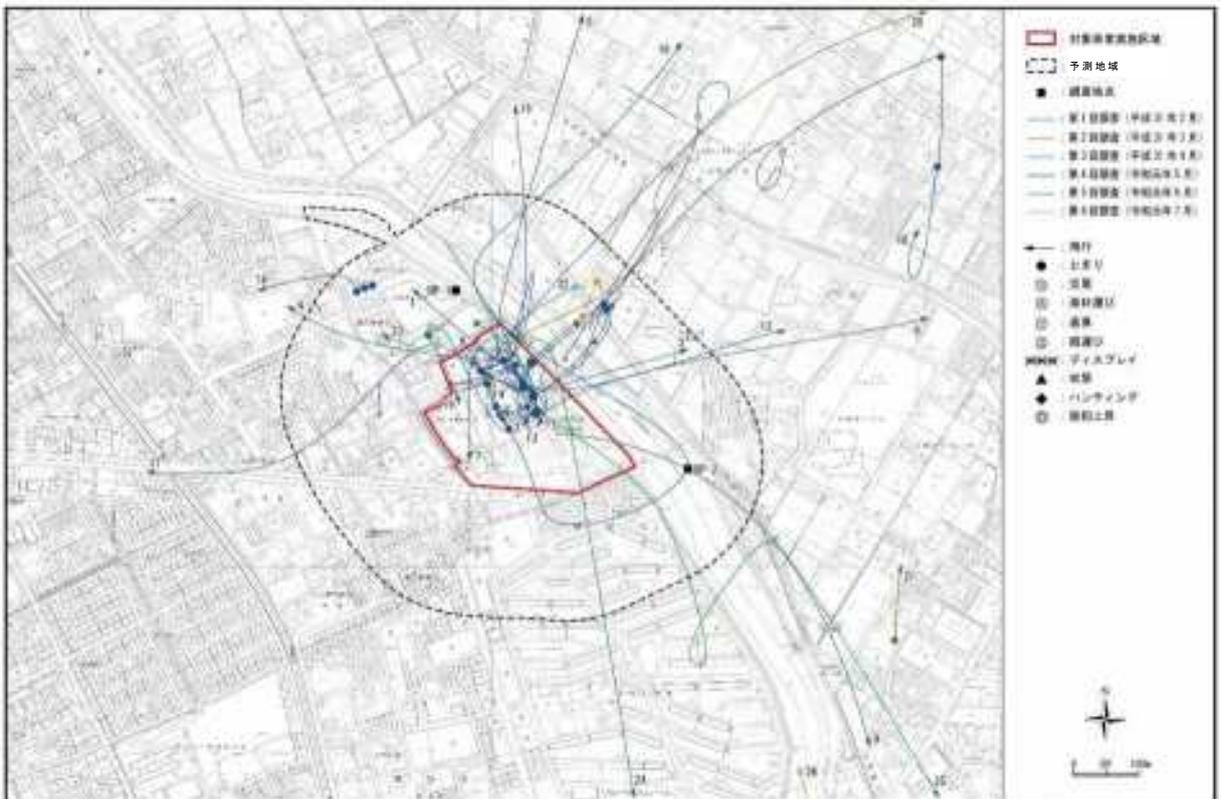
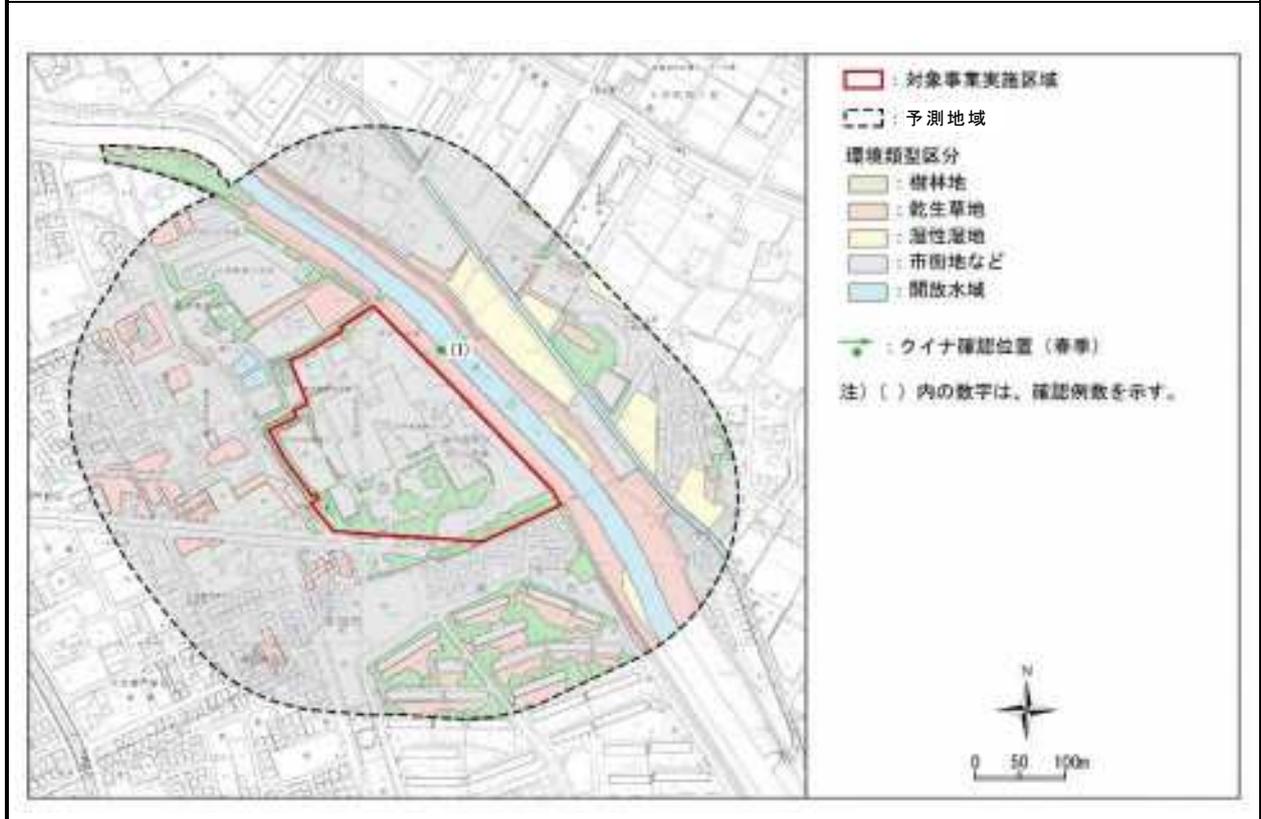


表 9.8-27(6) 保全すべき種の予測結果 (クイナ)

項目	内容					
主な生息環境	湖沼や河畔などの水辺や湿地に生息する。					
	予測地域 (ha)	3.8	変更区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する消失の割合 (%)	0 ^{注)}
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川の川岸で1例が確認された。					
	対象事業実施区域内	0例	対象事業実施区域外	1例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外で1例が確認された。本種の主な生息環境は、湖沼や河畔等の水辺や湿地であり、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、対象事業実施区域周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、変更区域内に本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的変化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					

確認位置

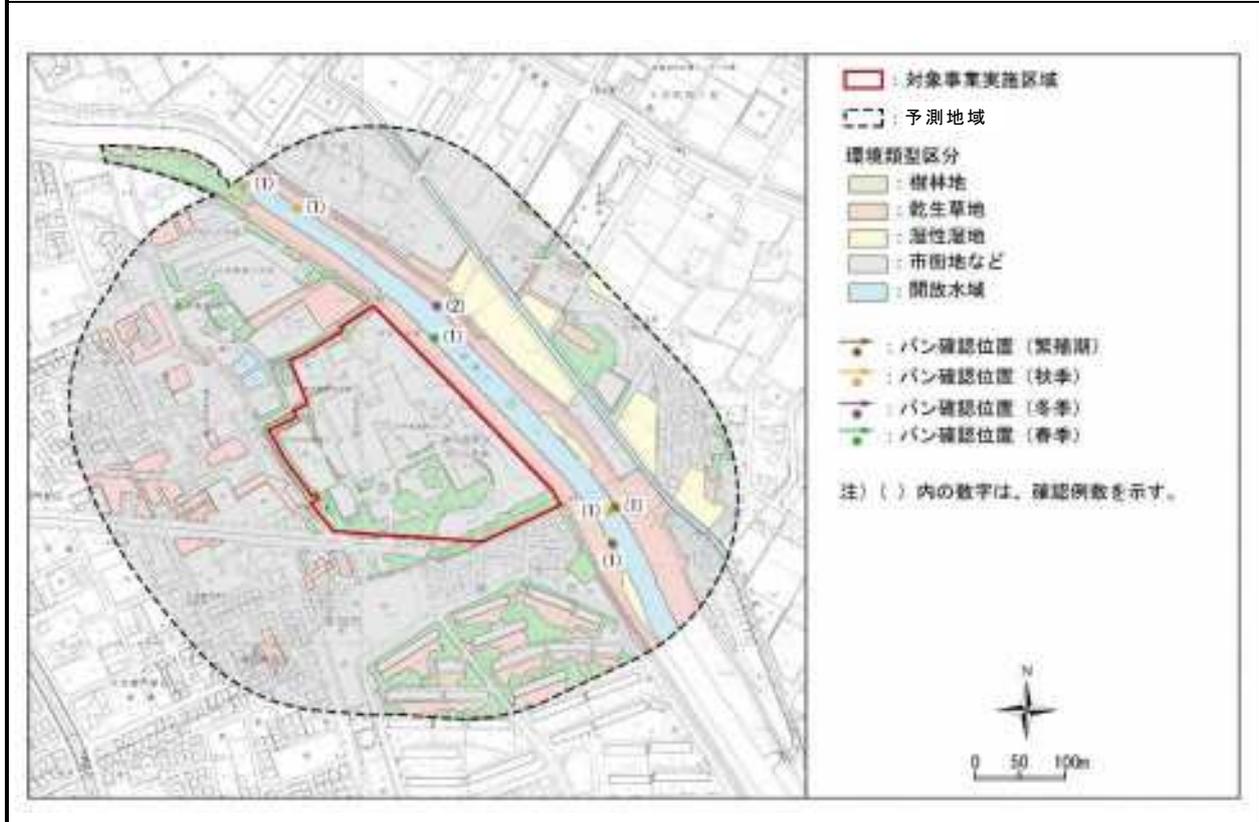


注) 変更区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、変更区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(7) 保全すべき種の予測結果 (バン)

項目	内容					
主な生息環境	河川、休耕田、池沼などのヨシ原に生息する。					
	予測地域 (ha)	1.7	改変区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する消失の割合 (%)	0 ^{注)}
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川で計 8 例が確認された。					
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	8 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 8 例が確認された。本種の子な生息環境は、河川、休耕田、池沼等のヨシ原であり、対象事業実施区域内では確認されなかつたことから、対象事業実施区域周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>改変区域内に本種の生息環境となるヨシ原等は存在しないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はない。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					

確認位置

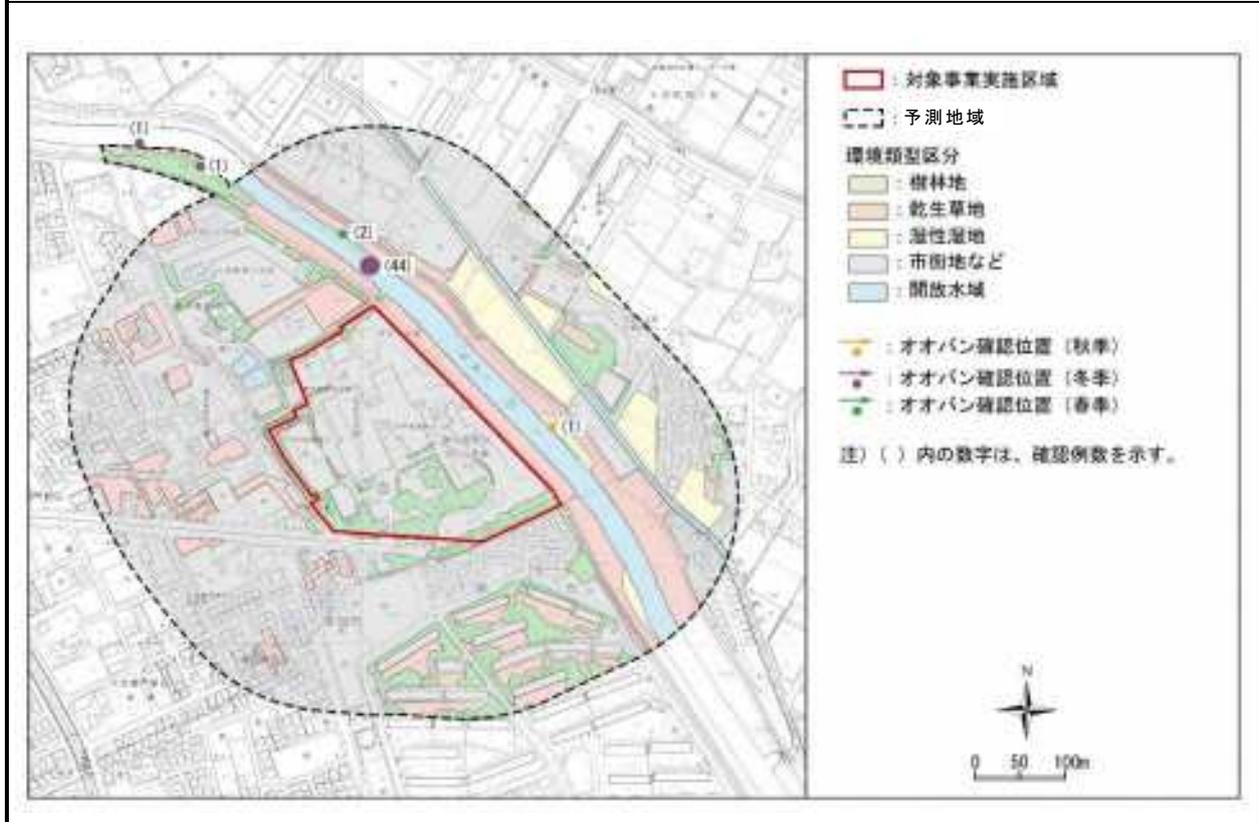


注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(8) 保全すべき種の予測結果（オオバン）

項目	内容					
主な生息環境	湿性植物がよく茂る河川や湖沼に生息するが、広い水面のある環境を好む。					
	予測地域 (ha)	2.3	変更区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する 消失の割合(%)	0 ^{注)}
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川や綾瀬の森で計49例が確認された。					
	対象事業 実施区域内	0例	対象事業 実施区域外	49例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外で49例が確認された。本種の主な生息環境は、湿性植物がよく茂る河川や湖沼であり、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、対象事業実施区域周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、変更区域内に本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的変化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					

確認位置

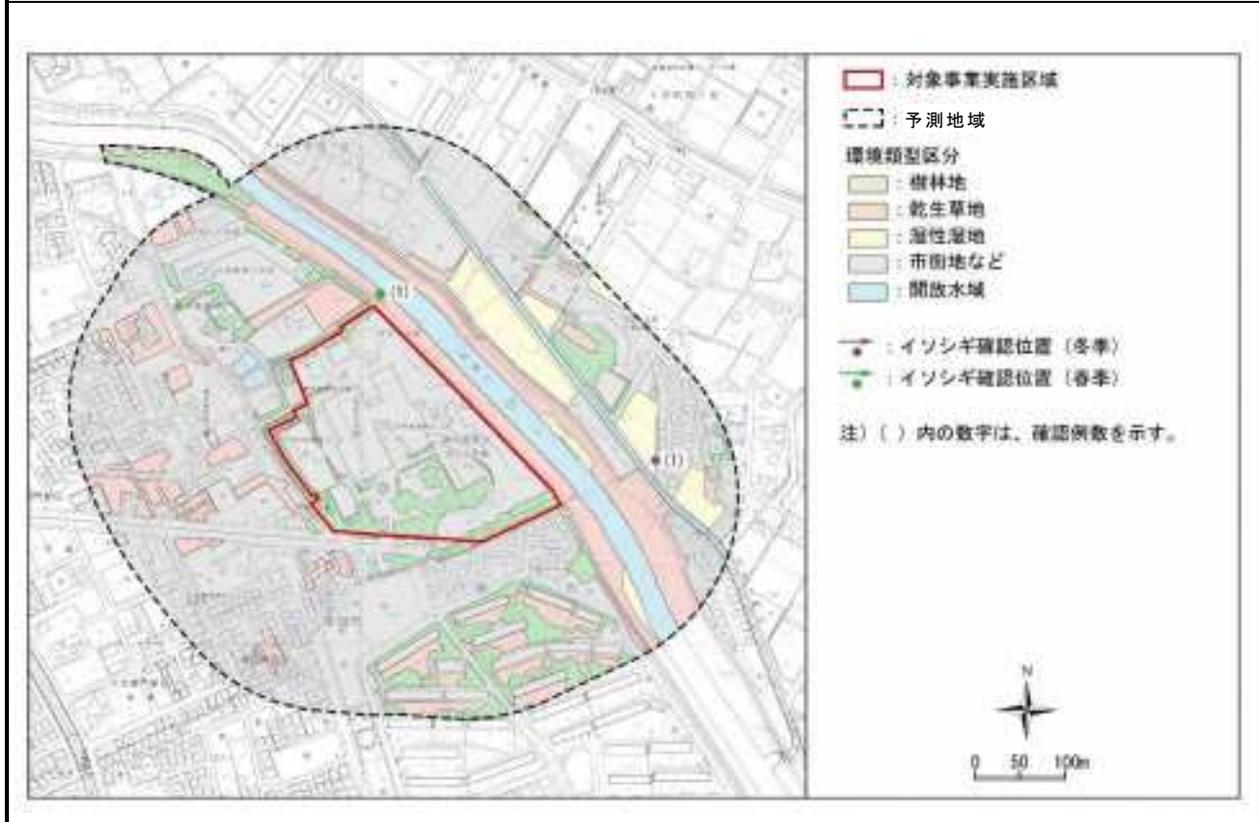


注) 変更区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、変更区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(9) 保全すべき種の予測結果 (イソシギ)

項目	内容					
主な生息環境	河川、湖沼、海岸、干潟、河口等に生息する。					
	予測地域 (ha)	2.3	変更区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する消失の割合 (%)	0 ^{注)}
現地確認状況	対象事業実施区域外の水田横の水路で 1 例、対象事業実施区域外の綾瀬川と支流との合流部で 1 例が確認された。					
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	2 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 2 例が確認された。本種の主な生息環境は、河川、湖沼、海岸、干潟、河口等であり、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、対象事業実施区域周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、変更区域内に本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されると考えられることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的変化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					

確認位置



注) 変更区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、変更区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(10) 保全すべき種の予測結果 (タシギ)

項目	内容				
主な生息環境	水田、河川、湖沼などの湿地。				
	予測地域 (ha)	1.7	変更区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外のクワイ畑で1例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0例	対象事業実施区域外	1例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で1例が確認された。本種の主な生息環境は、水田、河川、湖沼等の湿地であり、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、対象事業実施区域周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>変更区域内に本種の生息環境となる湿地等は存在しないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されると考えられることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				
確認位置					
<p> 対象事業実施区域 予測地域 環境類型区分 樹林地 乾生草地 湿性湿地 市街地など 開放水域 ★ タシギ確認位置 (冬季) 注) () 内の数字は、確認例数を示す。 </p>					

表 9.8-27(11) 保全すべき種の予測結果 (コアジサシ)

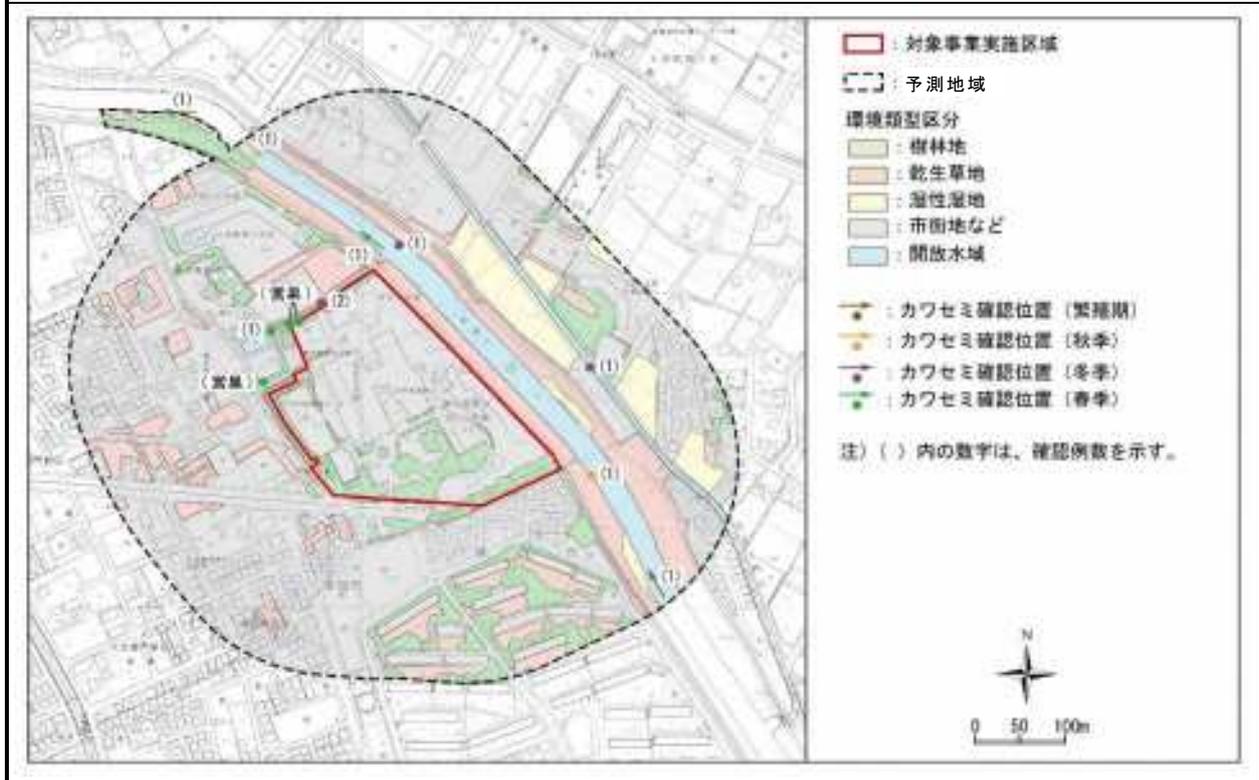
項目	内容					
主な生息環境	海岸、干潟、湖沼、河川等で魚を採餌し、その周辺で休息する姿が見られる。					
	予測地域 (ha)	2.3	改変区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する消失の割合 (%)	0 ^{注)}
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川上空を飛行する計 2 例が確認された。					
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	2 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 2 例が確認された。本種の主な生息環境は、海岸、干潟、湖沼、河川等であり、採餌や繁殖を示す行動はみられなかったことから、対象事業実施区域周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、改変区域内に本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					
確認位置						
<p>注) () 内の数字は、確認例数を示す。</p>						

注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(12) 保全すべき種の予測結果 (カワセミ)

項目	内容					
主な生息環境	河川、湖沼、小川、用水などの水辺で見られる。土の崖に嘴で巣穴を掘る。水辺に繁殖適地がないと、人が掘った穴の側面や残土等の土盛に巣を作ることがある。					
	予測地域 (ha)	2.3	変更区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する消失の割合 (%)	0 ^{注)}
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川で計 7 例、戸塚環境センター北側の排水路で計 3 例が確認された。 また、戸塚環境センター北側の排水路沿いの水抜き穴 3 箇所、営巣が確認された。					
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	10 例	営巣：3 箇所	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 10 例が確認され、対象事業実施区域北側の水路の水抜き穴で営巣が確認された。対象事業実施区域内では飛翔は確認されなかったこと、本種の主な生息環境は、河川、湖沼、小川、用水等の水辺であることから、対象事業実施区域周辺を生息環境の一部として利用している可能性が考えられる。なお、本種の本来の営巣環境は土の崖であり、対象事業実施区域周辺の水抜き穴は代替的な営巣環境として利用していると考えられる。</p> <p>対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、変更区域内において本種の営巣環境を含む生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されると考えられることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的変化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境(営巣環境を含む)の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					

確認位置



注) 変更区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、変更区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(13) 保全すべき種の予測結果 (ウグイス)

項目	内容					
主な生息環境	下生えの多い林、ササやぶ、草生地、ヨシ原、林縁の茂み、市街地や公園や庭の植え込みや生垣等					
	予測地域 (ha)	11.3	変更区域内 (ha)	1.0	予測地域に対する消失の割合 (%)	8.8
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川の岸部で1例が確認された。					
	対象事業実施区域内	0例	対象事業実施区域外	1例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外で1例が確認された。本種の主な生息環境は、下生えの多い林、ササやぶ、草生地、ヨシ原、林縁の茂み、市街地や公園や庭の植え込みや生垣等であることから、対象事業実施区域及び周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>造成工事により生息環境である樹林地の一部が一時消失するが、緑地整備の実施により、供用時には現在と同様の状況が維持され、生息環境を代償できることから、影響は小さいと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されると考えられる。また、本種は移動能力が大きいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					

確認位置

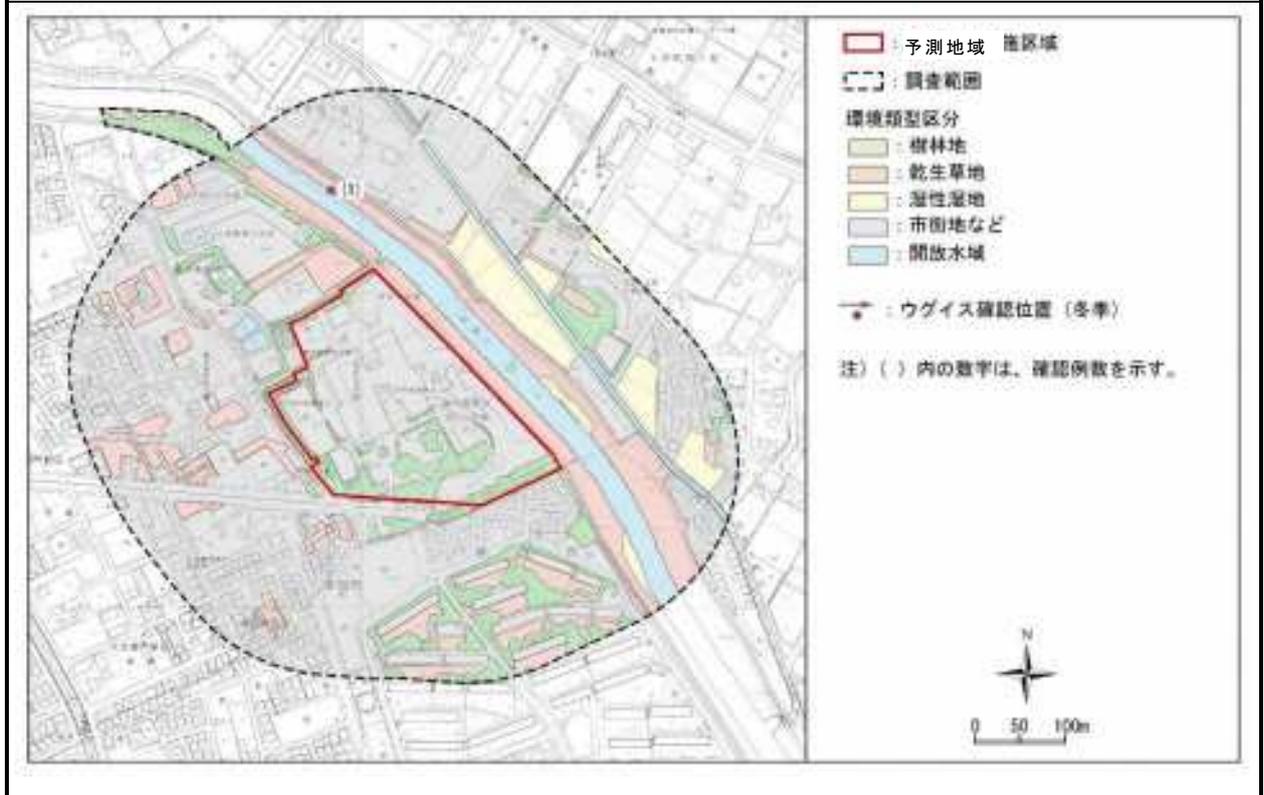


表 9.8-27(14) 保全すべき種の予測結果 (オオヨシキリ)

項目	内容				
主な生息環境	河川、湖沼、休耕田等のヨシ原				
	予測地域 (ha)	0.2	改変区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷の草地及びヨシ原で計4例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0例	対象事業実施区域外	4例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で4例が確認された。本種の主な生息環境は、河川、湖沼、休耕田等のヨシ原であり、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、対象事業実施区域周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>改変区域内に本種の生息環境となるヨシ原等は存在しないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置



表 9.8-27(15) 保全すべき種の予測結果 (ホオジロ)

項目	内容					
主な生息環境	林縁の藪、植木畑周辺、河川敷の灌木等で繁殖する。					
	予測地域 (ha)	9.6	改変区域内 (ha)	1.0	予測地域に対する 消失の割合 (%)	10.4
現地確認状況	対象事業実施区域外で計 10 例確認され、確認位置の環境は、草地、低木、水田であった。					
	対象事業 実施区域内	0 例	対象事業 実施区域外	10 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 10 例が確認された。本種の主な生息環境は、林縁の藪、植木畑周辺、河川敷の灌木等であることから、対象事業実施区域及び周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>造成工事により生息環境である樹林地の一部が一時消失するが、緑地整備の実施により、供用時には現在と同様の状況が維持され、生息環境を代償できることから、影響は小さいと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されると考えられる。また、本種は移動能力が大きいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					
確認位置						
<p> : 対象事業実施区域 : 予測地域 環境類型区分 : 樹林地 : 乾生草地 : 湿性湿地 : 市街地など : 開放水域 ● : ホオジロ確認位置 (繁殖期) ● : ホオジロ確認位置 (夏季) ● : ホオジロ確認位置 (秋季) ● : ホオジロ確認位置 (冬季) ● : ホオジロ確認位置 (春季) 注) () 内の数字は、確認例数を示す。 </p>						

表 9.8-27(16) 保全すべき種の予測結果 (アオジ)

項目	内容				
主な生息環境	繁殖期は山地帯から亜高山帯の明るい林、草地などに生息し、冬季は平地から低山の林縁や藪、人家の庭などに生息する。				
	予測地域 (ha)	33.3	改変区域内 (ha)	3.8	予測地域に対する 消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の戸塚環境センター北側の水路脇、綾瀬川の河川敷の草地 2 箇所、綾瀬川東側の水田で、計 6 例が確認された。				
	対象事業 実施区域内	0 例	対象事業 実施区域外	6 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 6 例が確認された。本種の主な生息環境は、林縁や藪、人家の庭等であることから、対象事業実施区域及び周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>造成工事により生息環境である樹林地の一部が一時消失するが、緑地整備の実施により、供用時には現在と同様の状況が維持され、生息環境を代償できることから、影響は小さいと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されると考えられる。また、本種は移動能力が大きいいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				
確認位置					
<p> : 対象事業実施区域 : 予測地域 環境類型区分 : 樹林地 : 乾生草地 : 湿性湿地 : 市街地など : 開放水域 ● : アオジ確認位置 (冬季) 注) () 内の数字は、確認例数を示す。 </p>					

表 9.8-27(17) 保全すべき種の予測結果（コムクドリ）

項目	内容					
主な生息環境	平地から山地の明るい林や果樹園等に生息する。					
	予測地域 (ha)	3.8	改変区域内 (ha)	1.0	予測地域に対する 消失の割合 (%)	26.3
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川の堤防付近の落葉広葉樹にとまる1例が確認された。					
	対象事業 実施区域内	0例	対象事業 実施区域外	1例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外で1例が確認された。本種の主な生息環境は、平地から山地の明るい林や果樹園等であることから、対象事業実施区域及び周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>造成工事により生息環境である樹林地の一部が一時消失するが、緑地整備の実施により、供用時には現在と同様の状況が維持され、生息環境を代償できることから、影響は小さいと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されると考えられる。また、本種は移動能力が大きいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					
確認位置						
<p> ▭ : 対象事業実施区域 : 予測地域 環境類型区分 : 樹林地 : 乾生草地 : 湿性湿地 : 市街地など : 開放水域 ● : コムクドリ確認位置（春季） 注）（ ）内の数字は、確認例数を示す。 </p>						

表 9.8-27(18) 保全すべき種の予測結果 (ツミ)

項目	内容				
主な生息環境	平地から山地の林、市街地の公園の林等で繁殖。				
	予測地域 (ha)	3.8	改変区域内 (ha)	1.0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域内で 1 例が確認された。繁殖に係わる行動は確認されなかった。				
	対象事業実施区域内	1 例	対象事業実施区域外	0 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域内で 1 例が確認され、採餌や繁殖を示す行動はみられず、確認状況から通過個体だと考えられた。</p> <p>造成工事により生息環境となりうる樹林地の一部が一時消失するが、緑地整備の実施により、供用時には現在と同様の状況が維持され、生息環境を代償できることから、影響は小さいと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減される。また、本種は移動能力が大きいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、本種は通過個体だと考えられることから、事業の実施に伴う影響は限定的であり、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				
確認位置					

表 9.8-27(19) 保全すべき種の予測結果 (ハイタカ)

項目	内容					
主な生息環境	ツミよりやや標高の高い山地の林で繁殖し、冬季は平地から山地の林、農耕地、河川敷等に生息する。					
	予測地域 (ha)	11.3	改変区域内 (ha)	1.0	予測地域に対する消失の割合 (%)	8.8
現地確認状況	対象事業実施区域内で 1 例、対象事業実施区域外で 1 例、計 1 例が確認された。繁殖に係わる行動は確認されなかった					
	対象事業実施区域内	1 例	対象事業実施区域外	1 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域及び周辺で 1 例が確認され、採餌や繁殖を示す行動はみられず、確認状況から通過個体だと考えられた。</p> <p>造成工事により生息環境となりうる樹林地の一部が一時消失するが、緑地整備の実施により、供用時には現在と同様の状況が維持され採餌環境を代償できることから、影響は小さいと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減される。また、本種は移動能力が大きいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、本種は通過個体だと考えられることから、事業の実施に伴う影響は限定的であり、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>					
確認位置						

表 9.8-27(20) 保全すべき種の予測結果 (サシバ)

項目	内容					
主な生息環境	低山の林で繁殖し、林縁や農耕地、山林等でカエル、トカゲ、ヘビ、ネズミ、鳥類等を採餌捕食する。					
	予測地域 (ha)	11.3	改変区域内 (ha)	1.0	予測地域に対する消失の割合 (%)	8.8
現地確認状況	対象事業実施区域内で 2 例、対象事業実施区域外で 6 例、計 6 例が確認された。繁殖に係わる行動は確認されなかった。渡り途中の個体だと思われる。					
	対象事業実施区域内	2 例	対象事業実施区域外	6 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域及び周辺で 6 例、そのうち 3 例が上空で確認された。採餌や繁殖を示す行動はみられず、確認状況から通過個体だと考えられた。</p> <p>対象事業実施区域内には、採餌環境となりうる農耕地等が存在しないことから、事業の実施に伴う生息環境（採餌環境を含む）の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減される。また、本種は移動能力が大きいいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、本種は通過個体だと考えられることから、事業の実施に伴う影響は限定的であり、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>					

確認位置

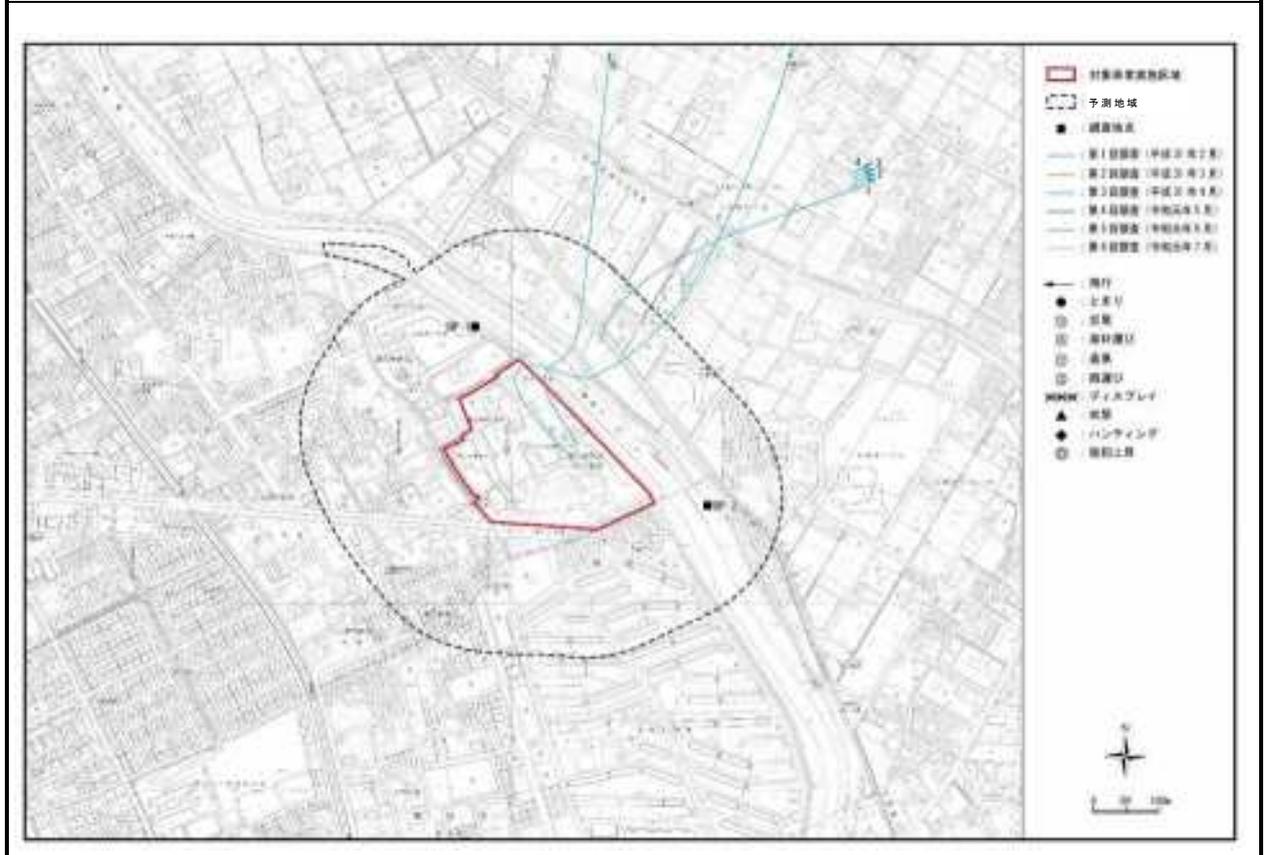


表 9.8-27(21) 保全すべき種の予測結果 (ハヤブサ)

項目	内容				
主な生息環境	平地から山地の海岸、河口、河川敷、湖沼、農耕地等に生息する。				
	予測地域 (ha)	7.5	改変区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域内で 2 例、対象事業実施区域外で 2 例、計 2 例が確認された。繁殖を示す行動はみられなかった。				
	対象事業実施区域内	2 例	対象事業実施区域外	2 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域及び周辺で飛翔が 2 例確認され、生息環境の一部として利用している可能性があると考えられる。</p> <p>改変区域内に生息環境となる河川敷等はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減される。また、本種は移動能力が大きいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置

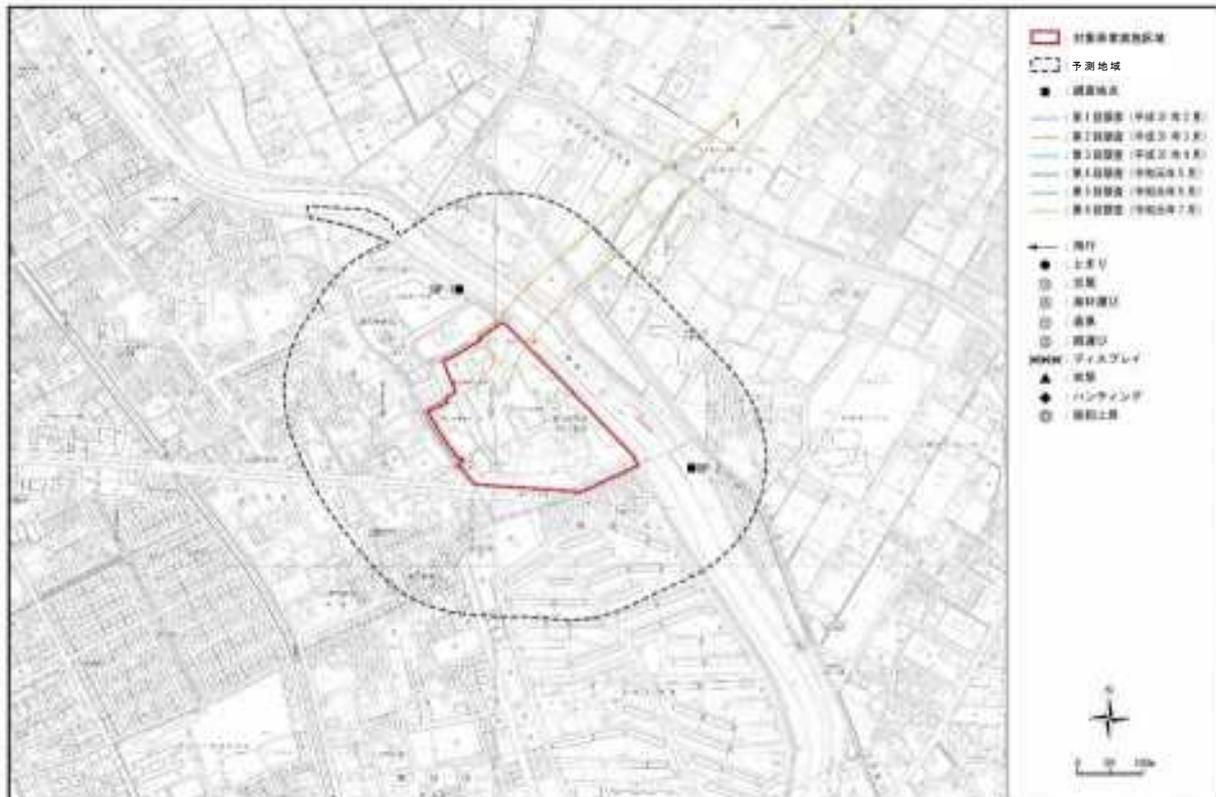


表 9.8-27(22) 保全すべき種の予測結果 (カナヘビ)

項目	内容				
主な生息環境	低地から山地にかけて広範囲に生息するが、低地や丘陵地で多く見られる。草むら等の日当たりのよい場所を好み、公園の緑地、水田の畦、人家の生け垣、畑地等の人為的な環境にも適応している。				
	予測地域 (ha)	11.3	改変区域内 (ha)	1.0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外では、住宅地の道路上、綾瀬川の堤防上、綾瀬川堤防の草地、水路沿い及びクワイ畑等で計 11 例が確認された。 対象事業実施区域内では草地 2 箇所計 2 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	2 例	対象事業実施区域外	11 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 11 例が確認され、対象事業実施区域内の草地で 2 例確認された。本種の主な生息環境は、草むら等の日当たりのよい場所等であることから、対象事業実施区域及び周辺を生息環境の一部として利用していると考えられる。</p> <p>造成工事により生息環境である樹林地（植栽）の一部が一時消失するが、周辺に同様の環境が存在する。また、緑地整備の実施により、供用時には現在と同様の状況が維持され、生息環境を代償できることから、影響は小さいと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置



表 9.8-27(23) 保全すべき種の予測結果 (シマヘビ)

項目	内容				
主な生息環境	低地から山地まで広く生息し、日当たりの良い水田、草むら、畑地、沼地等の周辺を好む。				
	予測地域 (ha)	7.5	改変区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の水田で 1 例、綾瀬川の堤防の草地で 1 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	2 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 2 例が確認された。本種の主な生息環境は、日当たりの良い水田、草むら、畑地、沼地等であることから、対象事業実施区域周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>改変区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置



表 9.8-27(24) 保全すべき種の予測結果（アオダイショウ）

項目	内容				
主な生息環境	低地から山地まで広く生息し、森林、水田、住宅地まで様々な環境に適応している。				
	予測地域 (ha)	34.0	改変区域内 (ha)	3.8	予測地域に対する 消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川を泳ぐ1例及び綾瀬の森で1例が確認された。				
	対象事業 実施区域内	0例	対象事業 実施区域外	2例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で2例が確認された。本種の主な生息環境は、森林、水田、住宅地等の様々な環境であることから、対象事業実施区域及び周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>造成工事により生息環境である樹林地の一部が一時消失するが、周辺には同様の環境が存在する。また、緑地整備の実施により、供用時には現在と同様の状況が維持され、生息環境を代償できるとことから、影響は小さいと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置



表 9.8-27(25) 保全すべき種の予測結果（アズマヒキガエル）

項目	内容					
主な生息環境	山地から平地まで広く分布し、主に林床で生息している。					
	予測地域 (ha)	13.6	改変区域内 (ha)	1.0 ^{注)}	予測地域に対する 消失の割合 (%)	7.4 ^{注)}
現地確認状況	対象事業実施区域外では綾瀬川の河川敷のビオトープ池で幼生 50 例が確認され、対象事業実施区域内では草地で成体の死体 1 例が確認された。					
	対象事業 実施区域内	1 例	対象事業 実施区域外	50 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外で幼生が 50 例、対象事業実施区域内で 1 例が確認された。本種の主な生息環境は林床であり、対象事業実施区域及び周辺を生息環境の一部として利用していると考えられる。なお、綾瀬川の河川敷で幼生が確認されていることから、対象事業実施区域周辺を産卵場所としていると考えられる。</p> <p>造成工事により生息環境である樹林地の一部が一時消失するが、周辺に同様の環境が存在することから、影響は小さいと考えられる。なお、産卵場所と想定される綾瀬川の河川敷は、改変区域に含まれていないことから改変はない。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的変化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できるとともに、現在と同様の状況が維持されることで生息環境を代償できると考えられることから、供用時における影響は小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境（産卵場所を含む）の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					
確認位置						
<p>注) () 内の数字は、確認例数を示す。</p>						

注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(26) 保全すべき種の予測結果（トウキョウダルマガエル）

項目	内容				
主な生息環境	丘陵地から平地の水田と、周辺の水路や浅い池沼、河川敷の湿地等に生息する。産卵は水田の湛水期である5～7月頃におこなわれ、産卵場所は水田にほぼ依存している。				
	予測地域 (ha)	4.0	改変区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する 消失の割合(%)
現地確認状況	対象事業実施区域外のクワイ畑、水田、水路等で計14例が確認された。				
	対象事業 実施区域内	0例	対象事業 実施区域外	14例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で14例が確認された。本種の主な生息環境は、水田と、周辺の水路や浅い池沼、河川敷の湿地等であり、対象事業実施区域周辺を生息環境の一部として利用していると考えられる。また、産卵場所は水田にほぼ依存していることから、対象事業実施区域周辺にある水田を産卵場所としていると考えられる。</p> <p>対象事業実施区域内には、本種の主な生息環境（産卵場所含む）はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境（産卵場所を含む）の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				
確認位置					
<p> : 対象事業実施区域 : 予測地域 環境類型区分 : 樹林地 : 乾生草地 : 湿性湿地 : 市樹地など : 開放水域 ● : トウキョウダルマガエル確認位置（夏季） ● : トウキョウダルマガエル確認位置（秋季） ● : トウキョウダルマガエル確認位置（春季） 注）（ ）内の数字は、確認例数を示す。 </p>					

注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(27) 保全すべき種の予測結果 (ウナギ)

項目	内容					
主な生息環境	海と川を行き来し、水田や池にまで遡上できるような河川環境が必要である。浮き石、植生、あるいは流れが緩やかな場所の石と石の隙間等で、隠れ場所となる生息空間が必要である。					
	予測地域 (ha)	3.8	改変区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する消失の割合 (%)	0 ^{注)}
現地確認状況	綾瀬川 (F-1 地点) 左岸の水路の流れ込み部で 2 例が確認された。					
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	2 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外にある綾瀬川で 2 例が確認された。本種の主な生息環境は、浮き石等の隠れ場所となる生息空間がある河川である。対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、改変区域内には本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はない。</p> <p>工事中は、光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は極めて小さいと考えられる。また、濁水による生息環境の質的变化はないことから、生息環境への間接的影響はないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					
確認位置						
<p> : 対象事業実施区域 : 予測地域 環境類型区分 : 樹林地 : 乾生草地 : 湿性湿地 : 市街地など : 開放水域 ● : ウナギ確認位置 (春季) 注) () 内の数字は、確認例数を示す。 </p>						

注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(28) 保全すべき種の予測結果（ドジョウ）

項目	内容				
主な生息環境	水田や池沼、水路、河川の中・下流等多様な環境に生息する。				
	予測地域 (ha)	3.8	改変区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する 消失の割合(%)
現地確認状況	綾瀬川（F-2 地点）で計 2 例が確認された。				
	対象事業 実施区域内	0 例	対象事業 実施区域外	2 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外にある綾瀬川で 2 例が確認された。本種の主な生息環境は、水田や池沼、水路、河川の中・下流等多様な環境である。対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、改変区域内には本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はない。</p> <p>工事中は、光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は極めて小さいと考えられる。また、濁水による生息環境の質的变化はないことから、生息環境への間接的影響はないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				

確認位置



注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(29) 保全すべき種の予測結果 (メダカ)

項目	内容				
主な生息環境	平野部の河川、池沼、水田、用水路等				
	予測地域 (ha)	3.8	改変区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	綾瀬川 (F-3 地点) の水際植生の根際で計 3 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	3 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外にある綾瀬川で計 3 例が確認された。本種の主な生息環境は、平野部の河川、池沼、水田、用水路等である。対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、改変区域内には本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はない。</p> <p>工事中は、光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は極めて小さいと考えられる。また、濁水による生息環境の質的变化はないことから、生息環境への間接的影響はないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				
確認位置					
<p> : 対象事業実施区域 : 予測地域 環境類型区分 : 樹林地 : 乾生草地 : 湿性湿地 : 市街地など : 開放水域 ● : メダカ確認位置 (夏季) ● : メダカ確認位置 (秋季) 注) () 内の数字は、確認例数を示す。 </p>					

注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(30) 保全すべき種の予測結果（コシダカヒメモノアラガイ）

項目	内容					
主な生息環境	水田の畦や用水路、河川等の止水的環境に生息する。					
	予測地域 (ha)	3.8	改変区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する 消失の割合(%)	0 ^{注)}
現地確認状況	綾瀬川（BA-2 地点）で 1 例が確認された。					
	対象事業 実施区域内	0 例	対象事業 実施区域外	1 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外にある綾瀬川で 1 例が確認された。本種の主な生息環境は、水田の畦や用水路、河川等の止水的環境である。対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、改変区域内には本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はない。</p> <p>工事中は、光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は極めて小さいと考えられる。また、濁水による生息環境の質的变化はないことから、生息環境への間接的影響はないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>					
確認位置						
<p> ▭ : 対象事業実施区域 : 予測地域 環境類型区分 : 樹林地 : 乾生草地 : 湿性湿地 : 市街地など : 開放水域 ● : コシダカヒメモノアラガイ確認位置（夏季） <small>注）（ ）内の数字は、確認例数を示す。</small> </p>						

注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(31) 保全すべき種の予測結果（モノアラガイ）

項目	内容					
主な生息環境	池沼やため池などの止水域をはじめ、河川の細流や浅瀬で挺水植物等が繁茂する水域					
	予測地域 (ha)	2.3	改変区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する 消失の割合(%)	0 ^{注)}
現地確認状況	綾瀬川（BA-2 地点）で 1 例が確認された。					
	対象事業 実施区域内	0 例	対象事業 実施区域外	1 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外にある綾瀬川で 1 例が確認された。本種の主な生息環境は、池沼やため池等の止水域や河川の細流や浅瀬で挺水植物等が繁茂する水域である。対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、改変区域内には本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はない。</p> <p>工事中は、光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は極めて小さいと考えられる。また、濁水による生息環境の質的变化はないことから、生息環境への間接的影響はないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>					
確認位置						
<p> 対象事業実施区域 予測地域 環境類型区分 樹林地 乾生草地 湿性湿地 市街地など 開放水域 ● モノアラガイ確認位置（夏季） 注）（ ）内の数字は、確認例数を示す。 </p>						

注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(32) 保全すべき種の予測結果（ヌマガイ）

項目	内容				
主な生息環境	河川の中流から下流、水路、湖沼、池沼など生息範囲は広い。				
	予測地域 (ha)	2.3	改変区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する 消失の割合(%)
現地確認状況	綾瀬川の3地点（BA-1、BA-2、BA-3地点）で各1例、計3例が確認された。				
	対象事業 実施区域内	0例	対象事業 実施区域外	3例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外にある綾瀬川で3例が確認された。本種の主な生息環境は、河川の中流から下流、水路、湖沼、池沼である。対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、改変区域内には本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はない。</p> <p>工事中は、光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は極めて小さいと考えられる。また、濁水による生息環境の質的变化はないことから、生息環境への間接的影響はないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				
確認位置					
<p> : 対象事業実施区域 : 予測地域 環境類型区分 : 樹林地 : 乾生草地 : 湿性湿地 : 市街地など : 開放水域 ● : ヌマガイ確認位置（夏季） ● : ヌマガイ確認位置（冬季） ● : ヌマガイ確認位置（春季） 注) () 内の数字は、確認例数を示す。 </p>					

注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(33) 保全すべき種の予測結果（ミドリビル）

項目	内容					
主な生息環境	流れの緩やかな川底の石の表面や二枚貝の殻上に付着生活する。					
	予測地域 (ha)	2.3	改変区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する 消失の割合(%)	0 ^{注)}
現地確認状況	綾瀬川の3地点（BA-1、BA-2、BA-3地点）で計4例が確認された。					
	対象事業 実施区域内	0例	対象事業 実施区域外	4例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外にある綾瀬川で4例が確認された。本種の主な生息環境は、流れの緩やかな川底の石の表面や二枚貝の殻上である。対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、改変区域区域内には本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はない。</p> <p>工事中は、光環境の変化といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は極めて小さいと考えられる。また、濁水による生息環境の質的変化はないことから、生息環境への間接的影響はないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>					
確認位置						
<p> : 対象事業実施区域 : 予測地域 環境類型区分 : 樹林地 : 乾生草地 : 湿性湿地 : 市街地など : 開放水域 ● : ミドリビル確認位置（夏季） ● : ミドリビル確認位置（秋季） ● : ミドリビル確認位置（冬季） 注）（ ）内の数字は、確認例数を示す。 </p>						

注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(34) 保全すべき種の予測結果 (クマコオロギ)

項目	内容				
主な生息環境	湿地周辺等の常に湿潤な草地環境に生息する。				
	予測地域 (ha)	7.5	改変区域内 (ha)	0	予測地域に対する 消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の草地で計 22 例、綾瀬の森の林床の草地で計 2 例が確認された。				
	対象事業 実施区域内	0 例	対象事業 実施区域外	24 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外の草地で 24 例が確認された。本種の主な生息環境は、湿潤な草地環境であり、対象事業実施区域内にこのような環境はないことから、対象事業実施区域周辺を生息環境の一部として利用していると考えられる。</p> <p>改変区域内には、本種の生息環境である湿潤な草地環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				
確認位置					
<p> : 対象事業実施区域 : 予測地域 環境類型区分 : 樹林地 : 乾生草地 : 湿性湿地 : 市街地など : 開放水域 ● : クマコオロギ確認位置 (夏季) ● : クマコオロギ確認位置 (秋季) 注) () 内の数字は、確認例数を示す。 </p>					

表 9.8-27(35) 保全すべき種の予測結果（オナガササキリ）

項目	内容				
主な生息環境	やや丈の高い明るい草地に生息する。おもに乾燥した草地で見られるが、時に水田内にも侵入する。				
	予測地域 (ha)	7.5	改変区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の草地 1 箇所 で 1 例（鳴き声）が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	1 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 1 例が確認され、対象事業実施区域内では確認されなかった。本種の主な生息環境は、やや丈の高い明るい草地等であることから、対象事業実施区域周辺を生息環境の一部として利用していると考えられる。</p> <p>改変区域には、本種の主な生息環境であるやや丈の高い明るい草地等はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置

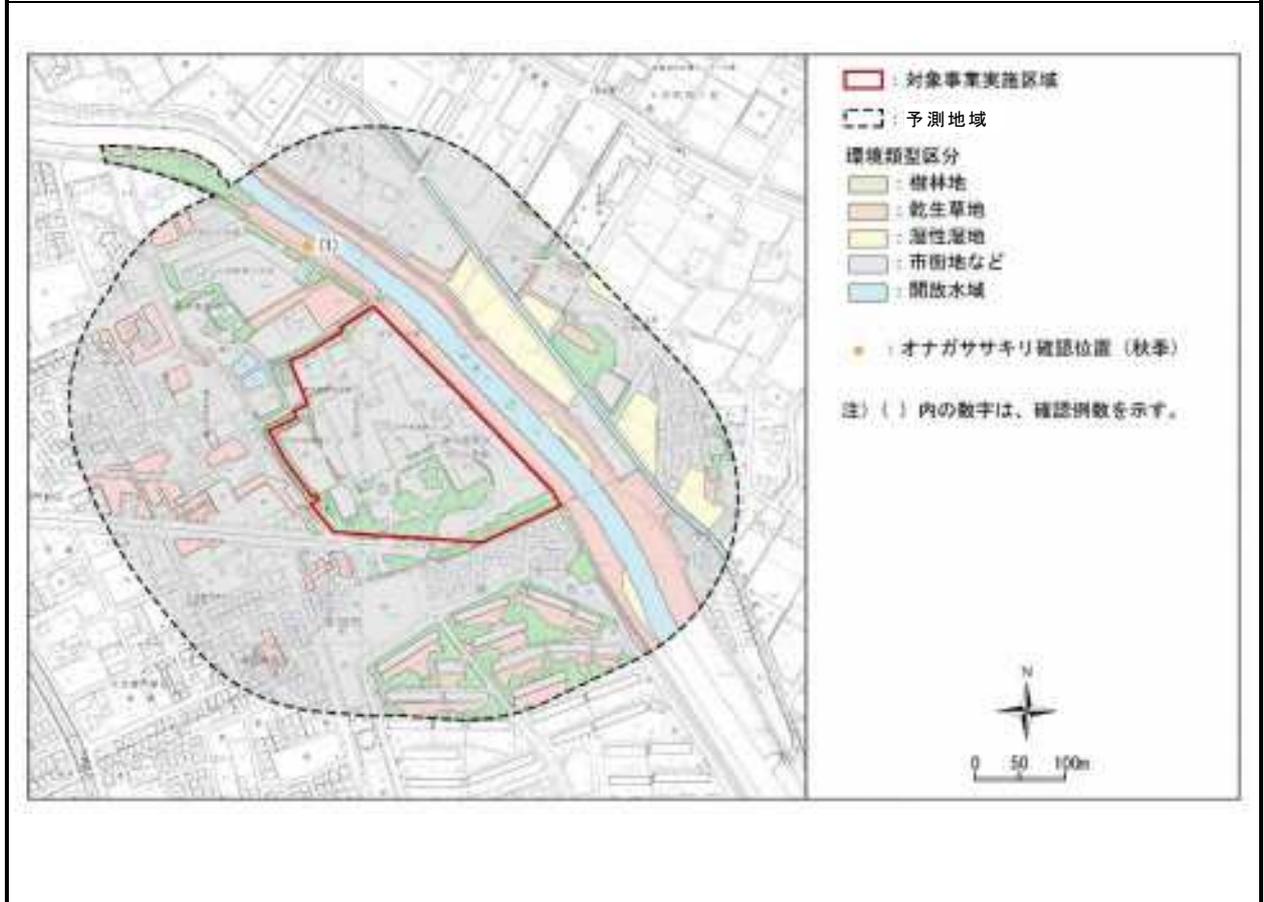


表 9.8-27(36) 保全すべき種の予測結果（ヒナバタ）

項目	内容				
主な生息環境	日当たりの良い草地に生息する。乾燥した裸地に近い低茎草地を好むが、より発達した草地でも生息しており、適応環境は幅広い。				
	予測地域 (ha)	5.8	対象事業 実施区域内 (ha)	0	予測地域に対する 消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域内の草地で 2 例、対象事業実施区域外の草地で計 25 例が確認された。				
	対象事業 実施区域内	2 例	対象事業 実施区域外	25 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 25 例、対象事業実施区域内では 2 例確認された。本種の主な生息環境は、日当たりのよい草地であることから、対象事業実施区域及び周辺を生息環境の一部として利用していると考えられる。</p> <p>改変区域において 1 例が確認されているが、主な生息環境である草地の改変はなく、周辺に同様の環境が存在することから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響は小さいと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置

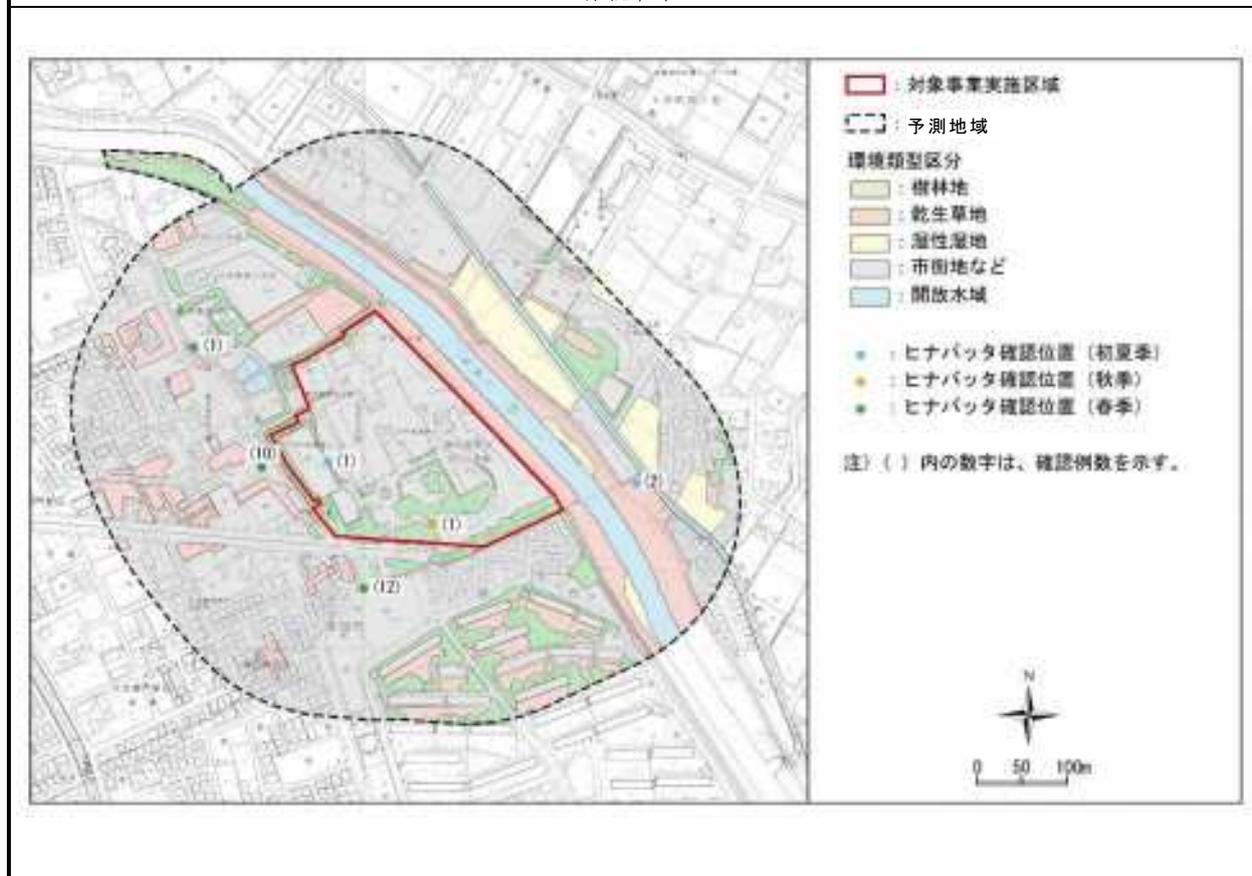


表 9.8-27(37) 保全すべき種の予測結果 (ショウリョウバッタモドキ)

項目	内容				
主な生息環境	イネ科草本の草原に生息するが、特にチガヤ群落を好む。				
	予測地域 (ha)	5.8	改変区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域内で 1 例、対象事業実施区域外の草地で計 5 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	1 例	対象事業実施区域外	5 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 5 例、対象事業実施区域内では 1 例確認された。本種の主な生息環境はイネ科草本の草原であることから、対象事業実施区域及び周辺を生息環境として利用していると考えられる。</p> <p>改変区域において 3 例が確認されているが、主な生息環境である草地の改変はなく、周辺に同様の環境が存在することから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響は小さいと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				
確認位置					
<p> : 対象事業実施区域 : 予測地域 環境類型区分 : 樹林地 : 乾生草地 : 湿性湿地 : 市街地など : 開放水域 ● : ショウリョウバッタモドキ確認位置 (初産率) ● : ショウリョウバッタモドキ確認位置 (秋産) 注) () 内の数字は、確認例数を示す。 </p>					

表 9.8-27(38) 保全すべき種の予測結果 (ハネナガイナゴ)

項目	内容				
主な生息環境	水田やその周辺などの湿地草地に生息する。				
	予測地域 (ha)	1.7	改変区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の草地 1 箇所 で 1 例 が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	1 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 1 例が確認された。対象事業実施区域内では確認されなかった。本種の主な生息環境は、水田やその周辺等の湿地草地であることから、事業実施区域周辺を生息環境としていっていると考えられる。</p> <p>改変区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置

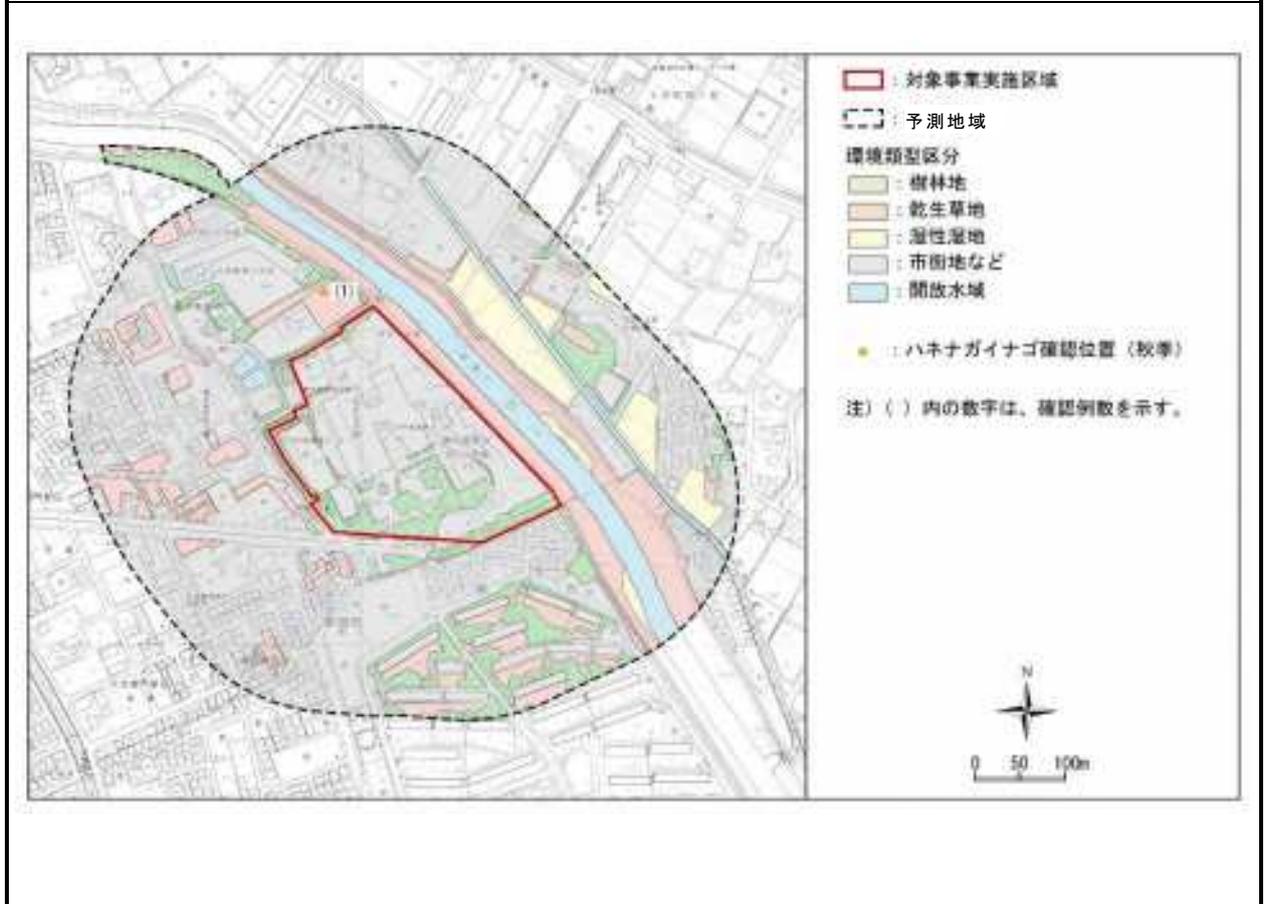
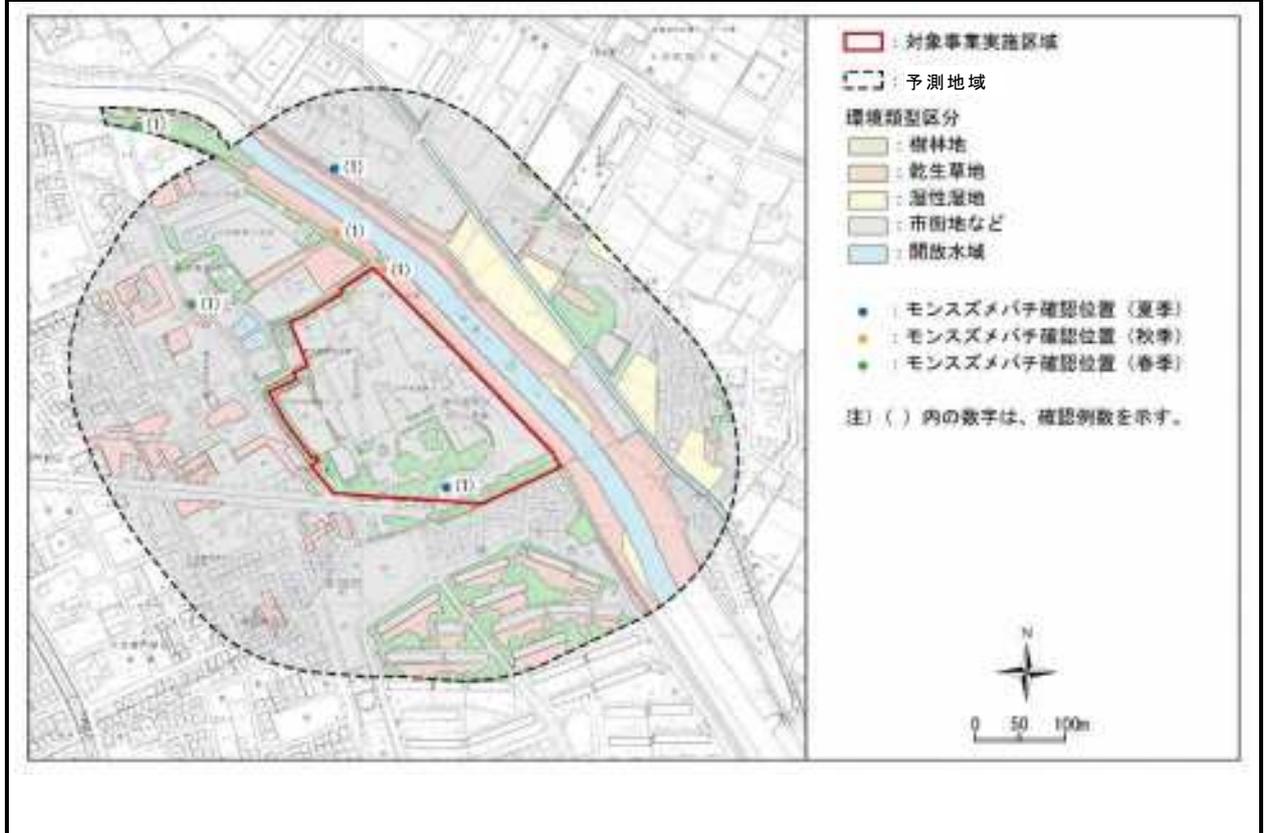


表 9.8-27(39) 保全すべき種の予測結果（モンズズメバチ）

項目	内容				
主な生息環境	樹洞、天井裏、壁間、戸袋等の閉鎖的な場所に営巣し、おもにセミを狩る。				
	予測地域 (ha)	25.8	対象事業 実施区域内 (ha)	3.8	予測地域に対する 消失の割合(%)
現地確認状況	対象事業実施区域内の樹林で1例、対象事業実施区域外の草地で計3例、綾瀬の森の水際の草で1例が確認された。				
	対象事業 実施区域内	1例	対象事業 実施区域外	5例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で5例、対象事業実施区域内では1例確認された。本種は樹洞、天井裏、壁間、戸袋等の閉鎖的な場所に営巣することから、対象事業実施区域及び周辺を営巣環境としていると考えられる。</p> <p>造成工事により、営巣環境の一部が一時消失するが、対象事業実施区域周辺には営巣環境となりうる人工構造物が存在することから、事業の実施に伴う営巣環境の改変の影響は一時的なものであり、影響は小さいと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減され、影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できるとともに、対象事業実施区域内に整備される緑地が営巣環境の一部となることが期待でき、営巣環境を含む生息環境を代償できることから、影響は小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境（営巣環境を含む）の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置



9.8.3 評価

(1) 工事の実施及び施設の存在に伴う動物への影響

1) 評価方法

ア 影響の回避・低減の観点

工事の実施及び施設の存在に伴う動物への影響が、事業者により実行可能な範囲内
でできる限り回避され、又は低減されているかどうかについて明らかにした。

イ 基準・目標等との整合性の観点

基準・目標等との整合性の検討については、国、埼玉県または関係市により環境保全
に係る基準値や目標等が示されている場合には、それらを環境の保全上の目標として
設定し、基準値や目標等がない場合には、その他の環境の保全上の目標を設定して、予
測結果との間に整合が図られているかどうかを明らかにした。

動物に係る環境保全目標は、「埼玉県環境基本計画（第4次）」（平成29年、埼玉県）、
「第4次埼玉県国土利用計画」（平成22年、埼玉県）及び「埼玉県5か年計画 希望・
活躍・うるおいの埼玉」（平成29年、埼玉県）等の計画等において、今後の施策や目標
等が表9.8-28のとおり示されている。

以上のことから、動物に係る環境保全目標は、「保全すべき動物種の生息環境を保全
すること」とした。

表 9.8-28 整合を図るべき基準等

項目	整合を図るべき基準等
「埼玉県環境基本計画（第4次）」（平成29年、埼玉県）	<p>【長期的な目標】 恵み豊かなみどりや川に彩られ、生物の多様性に富んだ自然共生社会づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の保全と再生 ・緑の保全と再生 ・森林の整備と保全 ・生物多様性の保全
「第4次埼玉県国土利用計画」（平成22年、埼玉県）	<p>【県土利用の基本方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県土の有効利用 ・人と自然が共生し、美しくゆとりある県土利用 ・安心・安全な県土利用 ・多様な主体の参画、計画的な県土利用
「埼玉県5か年計画 希望・活躍・うるおいの埼玉」（平成29年、埼玉県）	<p>【南部地域の施策展開】 豊かな自然と共生する社会をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見沼田圃の保全・活用・創造 ・市などと連携した水辺空間の利活用の促進
「第2次埼玉県広域緑地計画」（平成29年、埼玉県）	<p>【緑の将来像】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『緑とともに暮らす、ゆとり・安らぎ「埼玉」』 <p>【地形別の緑のあり方】 低地では、広大な水田を代表とする農地を基調として、河川・水路、屋敷林や社寺林等が一体となった田園景観のような緑を目指します。 市街地では、残された貴重な樹林地等を保全・活用しながら、新たな緑の創出により、緑豊かで良好な生活環境を有する市街地が形成されるようにします。</p>
「まちづくり埼玉プラン」（平成30年、埼玉県）	<ul style="list-style-type: none"> ・都市と自然・田園との共生
「埼玉県生物多様性保全戦略」（平成30年、埼玉県）	<p>基本戦略 1. 多面的機能を発揮する森林の豊かな環境を守り、育てる 基本戦略 2. 里地里山の多様な生態系ネットワークを形成する 基本戦略 3. 都市環境における緑を創出し、人と自然が共生する社会づくり</p>
「埼玉県土地利用基本計画計画書」（平成25年、埼玉県）	<ul style="list-style-type: none"> ・川口市が含まれる「県南地域」では、新たな工業用地などの需要に対しては、農業的土地利用や自然環境との調和を図るとともに、乱開発の抑止に努めます。
「第5次川口市総合計画」（平成28年、川口市）	<p>【豊かな水と緑に親しめる空間の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水辺環境の整備 ・緑地環境の整備 <p>【環境の保全と創造】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境の保全 ・地球環境の保全
「川口市都市計画基本方針」（平成29年、川口市）	<p>【戸塚地域のまちづくり方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親しみのある水辺の環境づくり
「第3次川口市環境基本計画」（平成30年、川口市）	<p>【自然共生社会の実現～豊かな自然とともに暮らせるまち～】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の保全 ・みどり・水辺の保全

ウ 環境の保全に関する配慮方針

本事業で実施する環境の保全に関する配慮方針に関する検討内容は表 9.8-29 に示すとおりである。

表 9.8-29 動物に関する環境の保全に関する配慮方針の検討内容

影響要因	環境保全措置の区分	影響の概要	環境の保全に関する配慮方針の概要	環境の保全に関する配慮方針による影響の低減の程度
建設機械の稼働 資材運搬等の車両の走行 造成等の工事	回避	生息環境の消失 移動経路の分断	対象事業実施区域の変更、造成計画の変更等により、保全すべき種の生息環境への影響を回避する。	保全すべき動物種の生息環境の消失を回避するため、対象事業実施区域の環境を事業者が実行可能な範囲で残存できるかの検討を行ったが、既存施設の建て替えとこれに伴う敷地内再整備という事業特性上、回避及び低減措置としての対象事業実施区域の再選定や最小化は困難と判断された。
	回避・低減	生息環境の質的变化	構造等の変更による地形改変の最小化により影響を低減する。	
	低減	騒音・振動	造成工事に使用する建設機械は、低騒音・低振動型の機械の使用を徹底し、騒音、振動の影響を低減する。また、建設機械の集中稼働をできる限り生じないような工事計画を検討する。	低騒音・低振動型の建設機械を使用すること、建設機械の集中稼働をできる限り生じないような工事計画とすることで、造成工事にかかる影響は低減されることが考えられる。
		水質の変化	資材運搬等の車両は、計画的かつ効率的な運行管理に努め、車両が一時的に集中しないように配慮する。	資材運搬等の車両については、効率的な運行管理に努めることにより、車両が一時的に集中しないようにし、騒音・振動の影響は低減されることが考えられる。
施設の存在	低減	光環境の変化	工事中に、公共用水域に排水する雨水排水は、仮設沈砂槽等で土粒子を沈降させ、上澄みを排水し、濁りの影響を低減する。	土砂の流出を防止するための各種対策を講じることから、周辺水域及び河川敷等に生息する動物への影響は低減され、間接的な影響は生じないと考えられる。
	代償	生息環境の消失	対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設け、影響を低減する。	高層建築物の建設予定はなく、高所からの照明による影響は想定されない。また、対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設けるため、夜間の照明による光環境の変化は少なく、動物の生息環境への影響は極めて小さいと考えられる。
			「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準」（平成 18 年、埼玉県）に記載された在来種を中心とし、高木、中・低木を組み合わせて多層構造となるように植樹することで、植物の生育基盤の整備とともに、動物の生息環境を創出する。	在来植物を中心とした植栽により、新たな生育基盤が整備される。それらの生長と共に、適応する草本類が侵入することが考えられることから、植物に対して代償機能を有するとともに、動物が利用しやすい環境が創出され、動物の生息環境についても代償機能を有するものと考えられる。

2) 評価結果

ア 影響の回避・低減の観点

動物に関する環境の保全に関する配慮方針の検討内容より、実施することとした環境の保全に関する配慮方針は、表 9.8-30 に示すとおりである。

保全すべき動物種のうち、生息地の消失または生息環境の減少による影響を受ける種が確認された。保全すべき種を含む対象事業実施区域内の動物にとって最も影響の大きい、生息環境の消失・縮小を回避するため、対象事業実施区域の環境を事業者が実行可能な範囲内でできる限り残存できるか検討を行った。しかし、既存施設の建て替えとこれに伴う敷地内再整備という事業特性上、回避及び低減措置としての対象事業実施区域の再選定や最小化は困難と判断された。

低減措置として、工事中では使用建設機械及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音・振動の発生抑制、濁水の発生の抑制を実施する。施設の存在時では、緩衝緑地の配置による光環境への影響の低減措置を実施する。

代償措置として、対象事業実施区域内の樹林地（植栽）は、「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準」（平成 18 年、埼玉県）に記載された在来種を中心とし、高木、中・低木を組み合わせる多層構造となるように植樹する計画であることから、植物の新たな生育基盤が整備されるとともに、動物の生息環境が創出されることが考えられる。

また、営巣環境への影響のおそれが想定されたチョウゲンボウについては、本種の移動能力の大きさ、使用建設機械の配慮、資材運搬等の車両の運行管理や緑地整備等の低減及び代償措置の実施のほか、対象事業実施区域内で営巣が確認されなかったこと、対象事業実施区域周辺には営巣環境となりうる人工構造物が存在することから、予測地域における営巣環境への影響は小さいと考えられ、生息環境への影響を低減できると予測した。

以上により、工事の実施及び施設の存在に伴う動物への影響は、実行可能な範囲内でできる限り低減されるとともに、新たな植物の生育基盤の整備に伴う動物の生息環境の創出により代償されると評価した。

表 9.8-30 動物に関する環境の保全に関する配慮方針の検討結果

影響要因	環境保全措置等の区分	影響の概要	環境の保全に関する配慮方針	環境の保全に関する配慮方針の概要
建設機械の稼働 資材運搬等の車両の走行	低減	騒音・振動	騒音・振動の影響緩和	造成工事に使用する使用建設機械は、低騒音、低振動型の使用を徹底し、騒音、振動の影響を低減する。また、使用建設機械の集中稼働ができる限り生じないような工事計画を検討する。
				資材運搬等の車両の運行は、計画的、かつ効率的な運行管理に努め、搬出入が一時的に集中しないように配慮する。
造成等の工事		水質の変化	濁水の発生抑制	工事中に、公共用水域に排水する雨水排水は、仮設沈砂槽等で土粒子を沈降させ、上澄みを排水し、濁りの影響を低減する。
施設の存在	低減	光環境の変化	緩衝緑地の配置	対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設け、影響を低減する。
	代償	生息環境の消失	生息環境の創出	「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準」（平成18年、埼玉県）に記載された在来種を中心とし、高木、中・低木を組み合わせ多層構造となるように植樹することで、生息環境を創出する。

イ 基準・目標等との整合の観点

工事の実施及び施設の存在に伴い、保全すべき動物種の生息環境の一部が消失する可能性がある。そのため、代償措置として、対象事業実施区域内の樹林地（植栽）は、「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準」（平成18年、埼玉県）に記載された在来種を中心とし、高木、中・低木を組み合わせ多層構造となるように植樹する計画であり、植物の新たな生育基盤の整備とともに、動物の生息環境が創出されることが考えられる。

保全すべき動物種の生息環境の質的变化に対しては前掲表 9.8-30 に示す環境の保全に関する配慮方針を講ずることにより、保全すべき動物種への影響の低減（代償）が期待できるものと考えられることから、環境保全目標との整合が図られていると評価した。